

四三

度以上ナルトキハ之ニ百封度ヲ加ヘタルモノ、三百封度未滿ナルトキハ其ノ一倍半、鉸釘接合以外ノモノニ在リテハ最大氣壓ノ一倍半
壓力ヲ受ケサル油槽ハ附屬具ヲ取附ケタル儘十五呎以上ノ水高壓力
壓力ヲ受ケル油槽ハ附屬具ヲ取附ケタル儘其ノ受ケル最大壓力ノ二倍但十五呎ノ水高壓力ヨリ少カルヘカラス

既ニ使用シタル氣槽又ハ油槽ニシテ其ノ大部分ヲ改造シタル場合ニ於テハ新ニ使用スル氣槽又ハ油槽ニ準シ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ
船舶検査法施行細則第三條第二項ニ掲ケル船舶ノ氣槽又ハ油槽ハ初メテ使用スルトキ及ヒ以後六箇年毎ニ前二項ニ依リ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ
定期検査又ハ臨時検査ニ於テ検査官吏カ必要ト認ムルトキハ前各項ニ依リ氣槽又ハ油槽ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

第二百二條 冷汽器ハ船舶検査法施行細則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別検査ヲ執行スルトキハ冷汽管ヲ取附ケル前ニ每平方吋二十封度ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行シ之ヲ取附ケタル後適當ノ水高壓力ヲ以テ其ノ漏否ヲ検査スヘシ
前項以外ノ検査ニ於テ検査官吏必要ト認ムルトキハ適當ノ水高壓試驗ヲ執行スヘシ
内部ヲ窺知シ能ハサル表面冷汽器ハ細管ノ幾分ヲ拔出サシメ之ヲ検査スヘシ
第二百三條 船尾管支面材ノ磨耗其ノ内徑ノ二十分ノ一若ハ十六分ノ五吋ニ及フトキハ之ヲ整調スヘシ

第三章 汽 罐

第二百四條 検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ汽罐包被ノ全部若ハ幾分ヲ取離シ又ハ汽罐ヲ移動セシムヘシ
小汽罐、加熱器、汽兜ニシテ狹隘ノ爲メ検査スルコト能ハサルトキハ支柱、焰管等ヲ適宜取除カシメ又人孔狹小ニシテ内部ヲ検査スルコト能ハサルトキハ該孔ヲ改造セシムヘシ

第二百五條 船舶検査法施行細則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別検査ヲ執行スルトキハ左ノ時期ニ於テ臨檢スヘシ
一 突縁又ハ鍛接シタルトキ
二 燒鈍法ヲ行ヒタルトキ
三 各部ノ組立ヲ爲シ鉸釘孔ヲ精穿シタルトキ
四 全體ノ構造ヲ了リタルトキ
五 水壓試驗執行ノトキ
六 汽罐ヲ船内ニ据附クルトキ
七 其ノ他検査官吏ノ必要ト認ムルトキ
第二百六條 検査官吏必要ト認ムルトキハ鉸釘ノ若干ヲ拔取ラシメ又ハ罐板ヲ錐揉セシムヘシ

第七條乃至第一百條削除

第一百十一條 汽罐ハ特別検査ニ於テ左ノ水圧力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

- 一 新ニ使用スル汽罐ハ每平方吋ノ最大汽壓百封度ヲ超ユルトキハ其ノ一倍半ニ五十封度ヲ加ヘタルモノ百封度以下ナルトキハ其ノ二倍
- 二 既ニ使用シタル汽罐ハ每平方吋ノ最大汽壓百封度ヲ超ユルトキハ之ニ五十封度ヲ加ヘタルモノ百封度以下ナルトキハ其ノ一倍半

既ニ使用シタル汽罐ニシテ其ノ大部分ヲ改造シタル場合ニ於テハ新ニ使用スル汽罐ニ準シ其ノ水壓試験ヲ執行スヘシ

船舶検査法施行細則第三條第二項ニ掲クル船舶ノ汽罐ハ初メテ使用スルトキ及ヒ以後六箇年毎ニ前二項ニ依リ其ノ水壓試験ヲ執行スヘシ

定期検査又ハ臨時検査ニ於テ検査官吏カ必要ト認ムルトキハ前各項ニ依リ汽罐ノ水壓試験ヲ執行スヘシ

第一百十二條 給水唧筒ハ新ニ使用スルトキ又ハ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ最大汽壓ノ二倍ノ水圧力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

第一百十三條乃至第一百二十二條削除

第一百二十三條 正汽管及ヒ給水管ハ特別検査ニ於テ左ノ水圧力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

- 一 新ニ使用スルモノニ在リテハ鈔ヲ取付ケ仕上ヲ爲シタル後銅製汽管ハ最大汽

壓ノ二倍、銅製給水管ハ最大汽壓ノ二倍半、鐵製又ハ鋼製汽管ハ最大汽壓ノ三倍、鐵製又ハ鋼製給水管ハ最大汽壓ノ四倍

既ニ使用シタルモノハ最大汽壓ノ二倍

汽罐、正汽管及ヒ給水管ニ附屬スル瓣匣膨脹接合及ヒ鑄造接合管ハ新ニ使用

スルトキハ最大汽壓ノ二倍ノ水圧力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

船舶検査法施行細則第三條第二項ニ掲クル船舶ノ正汽管及ヒ給水管ハ初メテ

使用スルトキ及ヒ以後六箇年毎ニ本條第一項ニ依リ其ノ水壓試験ヲ執行スヘシ

定期検査又ハ臨時検査ニ於テ検査官吏カ必要ト認ムルトキハ前各項ニ依リ

汽管及ヒ給水管ノ水壓試験ヲ執行スヘシ

第一百二十四條 燃油裝置ハ新ニ使用スルトキ又ハ検査官吏ニ於テ特ニ必要ト認ムルトキハ左ノ壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

- 一 送油管、加熱器及ヒ其ノ附屬具ハ船内取附後最大壓力ノ二倍但每平方吋四百封度ヲ下ルコトヲ得ス
- 二 前號以外ノ油管ニシテ機關室内ニ在ルモノハ之ヲ取附ケタル後每平方吋三十封度
- 三 燃料油ノ接觸スル加熱用蒸氣管ハ船内取附後最大壓力ノ二倍

第一百二十五條乃至第三十條削除

○船舶検査規程

第三百三十一條 驗壓器ハ特別検査又ハ定期検査ノトキ及ヒ検査官吏ノ必要ト認ムルト
 キ驗壓標準器ニ照ラシ其ノ適否ヲ検査スヘシ
 第三百三十二條 削除
 第三百三十三條 汽壓制限ヲ減少シタル爲メ安全瓣ノ面積カ造船規程第二編第五章第七
 十八條ニ依リ算出シタルモノヨリ小ナルトキハ第三百三十九條ノ規定ニ合格シタルト
 キニ限り其ノ安全瓣ヲ改造スルニ及ハス
 第三百三十四條乃至第三百三十八條 削除
 第三百三十九條 安全瓣ハ塞汽瓣ヲ閉チ充分ニ焚火シ十五分間以上蒸氣ヲ溢出セシメ汽
 壓ノ昇騰、尙汽壓制限ノ十分ノ一ヲ超エサルモノナルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ適
 度ノ給水ヲ行フモ妨ナシ
 第四百十條 屬具ハ第八號表又ハ第九號表ニ依リ之ヲ備フヘシ但機關ヲ有スル帆船ニ
 在リテハ平水航路ニ關スル規定ニ依ル
 第三編第五章 削除

第五號表

船體部屬具表

號	救命燭	救命浮環	斧	桶	消防用手	航路		稱
						屬具	限定	
一	四	六	二	一	二	汽船	遠洋航路及 近海航路及 近海航路及 近海航路及 近海航路及 近海航路及	<p>摘 要</p> <p>總噸數三十噸未満又ハ積石數三百石未満ノ帆船 ニハ之ヲ備ヘサリモ妨ナシ 總噸數五十噸未満ノ平水航路ノ汽船及ヒ總噸數三 十噸又ハ積石數三百石未満ノ帆船ニハ之ヲ一箇 ト爲スコトヲ得 平水航路ノ船舶ヲ除クノ外旅客船ニハ此ノ外二 箇以上ヲ増備シ且其ノ總噸數ヲ端艇ノ數以上ト爲 スヘシ 旅客船ニ非サル沿海航路ノ汽船ニハ之ヲ備ヘサ ルモ妨ナシ 徑八吋以上ニシテ音響妨ナキ適當ノ場所ニ懸垂 スルコトヲ要ス</p>
一	二	四	二	八	汽船帆船	近海航路		
一	二	四	一	六	汽船帆船	沿海航路		
一	一	二	一	六	汽船帆船	沿海航路		
一	二	二	一	四	汽船帆船	沿海航路		
一	一	二	一	四	汽船帆船	沿海航路		
一	一	二	一	二	汽船	平水航路		

○船舶検査規程

橋燈	羅針儀	航海曆	六分儀	時辰儀	測深機械
二	三	一	一	一	一
一	三	一	一	一	一
一	三	一	一	一	一
一	二	一	一	一	一
一	二	一	一	一	一
一	二	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一

船舶検査法施行細則第六十四條及第六十六條
 爲ノ二ノ規定ニ依ル旅客ヲ搭載スル爲メ旅客船ト
 爲リタルモノニハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
 近海航路以上ノ船舶ニ在リテハ一箇ハ天象脚角
 ヲ測リ得ヘキ器具ヲ備フルコトヲ要ス又沿海航
 路帆船ニ在リテハ一箇ハ日本形磁石ヲ用ウルモ
 妨ナシ
 湖川港内ヲ限リ航行スル船舶ニシテ検査官吏ニ
 於テ必要ナシト認ムルトキハ羅針儀ヲ備ヘサル
 モ妨ナシ
 總噸數四十噸以上ノ汽船ニハ甲種橋燈ヲ備ヘ總
 噸數四十噸未滿ノ汽船ニハ甲種又ハ乙種橋燈ヲ
 備フヘシ
 曳船ニ從事スル汽船ニハ橋燈二箇以上ヲ備フヘ
 シ
 機關ヲ有スル帆船ニハ汽船ニ準シ橋燈ヲ備フヘ
 シ
 湖川港内ヲ限リ晝間ノ航行ノミニ使用スル船舶
 ニハ橋燈ヲ備ヘサルモ妨ナシ

深海測鉛	手用測鉛	測程機械	砂漏計	具手用測程	暖計	海水用寒	晴雨計	雙眼鏡	時計
一	二	一	二	一	一	一	一	一	二
一	二	一	二	一	一	一	一	一	二
一	二	一	二	一	一	一	一	一	二
一	二	一	二	一	一	一	一	一	二
一	二	一	二	一	一	一	一	一	二
一	二	一	二	一	一	一	一	一	二
一	二	一	二	一	一	一	一	一	二
一	二	一	二	一	一	一	一	一	二

湖川港内ヲ限リ航行スル船舶ニハ検査官吏ノ見
 込ハ依リ船長ノ所持品ヲ以テ之ニ代用セシムル
 コトヲ得
 總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ帆船
 ニハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
 總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ沿海
 航路ノ帆船ニハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
 總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ帆船
 ニハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ
 測鉛ノ重量ハ手用測鉛ニ在リテハ七封度以上ノ
 要ス
 深測鉛ニ在リテハ二十八封度以上ナルコトヲ
 要ス
 測鉛ニ附スル線ノ長ハ手用測鉛ニ在リテ二十五
 尋以上ノ深測鉛ニ在リテハ百二十尋以上ナルコ
 トヲ要ス
 總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ帆船
 ニハ測鉛ヲ備ヘサルモ妨ナシ
 旅客船ニ非サル船舶及ヒ總噸數八百噸未滿ノ旅
 客船ニ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ

◆船舶滿載吃水線法

大正十年三月公布 (法律)

第一條 日本船舶ハ左ニ掲クルモノヲ除クノ外本法ニ依リ滿載吃水線ノ指定ヲ受ケ之ヲ標示スヘシ

一 船舶検査法第一條各號ニ掲クル船舶

二 沿海航路又ハ平水航路ヲ航路定限トスル船舶

三 總噸數百噸未満ニシテ近海航路ヲ航路定限トスル帆船

四 漁獵、曳船、海難救助、浚渫又ハ測量ニノミ從事スル船舶其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ滿載吃水線ヲ標示スル必要ナシト認メタル船舶

第二條 滿載吃水線ノ指定ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ヲ滿載吃水線ノ標示ヲ要スル船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ之ヲ受クヘシ

本法施行地ニ於テ製造スル船舶ハ製造中ト雖滿載吃水線ノ指定ヲ受クルコトヲ得

第三條 滿載吃水線ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ指定ス

第四條 滿載吃水線ノ指定ヲ受ケ之ヲ標示シタル船舶ニハ船舶滿載吃水線證書ヲ交付ス

第五條 本法ニ依リ滿載吃水線ヲ標示シタル船舶ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行スルコトヲ得ス

第六條 滿載吃水線ノ標示ハ捕獲ヲ避ケムトスル場合其ノ他正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ隱蔽、變更又ハ抹消スルコトヲ得ス

第七條 検査官吏ハ本法ニ違反スル行爲アリト認メタルトキハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ又ハ其ノ航行ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第八條 滿載吃水線ノ指定、標示及指定手数料ニ關シ必要ナル規程ハ主務大臣之ヲ定ム

第九條 主務大臣ノ認定シタル船級協會ニ於テ本法及ヒ本法ニ基ク規程ニ準據シ滿載吃水線ヲ指定シ船舶滿載吃水線證書ヲ發給シタルトキハ其ノ證書及ヒ之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示ハ之ヲ本法ニ依リタルモノト看做ス

第十條 本法ハ本法施行地内ノ港ニ出入スル日本船舶ニ非サル船舶ニ之ヲ準用ス

第十一條 主務大臣ニ於テ前條ノ船舶ノ所屬地ノ滿載吃水線ニ關スル法令ヲ相當ト認メタルトキハ之ニ依リテ受ケタル船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示ハ之ヲ本法ニ依リタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ本法ニ依リ發給シタル船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示效力ヲ認メサル外國ニ屬スル船舶ニハ之ヲ適用セス

第十二條 主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶滿載吃水線證書ヲ受ケサル船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ滿載吃水線ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行シ若ハ航行セムトシタルトキハ船長又ハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ヲ百圓以上貳千圓以下ノ罰金ニ處ス

○船舶滿載吃水線法

第六條ノ規定ニ違反シ滿載吃水線ノ標示ヲ隱蔽、變更又ハ抹消シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第十三條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ船舶滿載吃水線證書ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 検査官吏ノ臨視ヲ拒ミ若ハ妨ケ又ハ航行停止ノ命ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 本法施行ノ際主務大臣ノ認定シタル船級協會ノ船舶滿載吃水線證書ヲ受ケ之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示ヲ有スル日本船舶ハ本法ニ依ル船舶滿載吃水線證書及ヒ之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示ヲ有スルモノト看做ス

第十七條 前條第一項ノ規定ニ該當セサル日本船舶ニハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ノ指定ヲ受ケル迄本法ヲ適用セス

注意 勅令ニテ本法ハ大正十一年二月十一日ヨリ施行スト定メラレタリ

◆船舶滿載吃水線法施行規則

大正十年 九月公布 (省令)

第一章 總 則

第一條 水先案内船及石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要セス

第二條 滿載吃水線ヲ標示シタル船舶カ修繕、自然衰耗其ノ他ノ事由ニ依リ滿載吃水線ヲ變更スヘキ必要ヲ生シタルトキハ再指定ヲ受クヘシ

第三條 船舶滿載吃水線規程ニ掲クル冬季節ノ航海又ハ熱帶若ハ冬期北大西洋ノ航路ノ航海ヲ爲ス船舶ハ淡水中ニ於テハ同規程ニ依ル限度迄當該季節又ハ航路ノ海水ニ對スル滿載吃水線ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行スルコトヲ得

第四條 汽船ハ河川又ハ内海ニ於テハ滿載吃水線ノ標示又ハ前條ノ限度ニ相當スル吃水線ヲ超エ外海ニ達スル迄ニ消費スヘキ燃料ト同一重量ノ旅客又ハ貨物ヲ積載シタル吃水ヲ以テ航行スルコトヲ得

第五條 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶滿載吃水線證書ヲ受ケサル船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

一 船舶検査法施行細則第三十二條第一項第二號乃至第四號、第七號及第八號並

○船舶滿載吃水線法施行規則

- ニ第三十三條ニ該當スルトキ
- 二 船舶滿載吃水線法第一條各號ノ船舶カ船舶検査執行地外ニ於テ滿載吃水線ノ指定ヲ受クヘキモノト爲リタル場合ニ於テ指定ヲ受クル爲之ヲ検査執行地迄回航セシムルトキ
- 三 滿載吃水線ノ一部ノ指定ヲ受ケタル船舶ヲ殘餘ノ指定ヲ受クル爲工場所在地又ハ検査執行地迄回航セシムルトキ
- 四 第十八條ノ規定ニ依リ指定ノ引繼又ハ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ他ノ管海官廳ノ管轄区域内迄船舶ヲ回航セシメ且囑託ノ場合ニ於テハ囑託ヲ爲シタル管海官廳ノ管轄区域内迄更ニ回航セシムルトキ
- 五 第二十八條ノ規定ニ依リ船舶滿載吃水線證書ノ再交付ヲ申請シ未タ其ノ交付ヲ受ケサルトキ
- 六 正當ノ事由ニ依リ管海官廳ノ許可ヲ受ケタルトキ

第二章 滿載吃水線指定ノ申請

- 第六條 滿載吃水線ノ指定ハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人ヨリ之ヲ申請スヘシ但シ正當ノ事由アルトキハ船長ニ於テ之ヲ申請スルコトヲ得
- 第七條 船舶滿載吃水線指定申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

- 一 船舶ノ種類及名稱
- 二 船舶ノ番號
- 三 總噸數
- 四 所有者ノ住所及ヒ氏名又ハ名稱
- 五 船籍港
- 六 船舶ノ資格
- 七 航路制限
- 八 申請人ニ於テ吃水ノ限度ヲ豫定スルトキハ龍骨ノ上面ヨリ測リタル其ノ限度機關ヲ有ヘル帆船ニシテ船舶滿載吃水線規程ニ依リ特殊ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ其ノ旨
- 九 臨檢ヲ受ケムトスル期日及場所
- 十 申請ノ事由
- 十一 船舶滿載吃水線法第二條第二項ノ規定ニ依リ製造中ノ船舶ノ指定ヲ申請スル場合ニ於テハ前項ノ記載事項ノ外製造番號及起工年月ヲ記載シ未定ノモノハ未定ト記載スルカ又ハ計畫若ハ豫定ノモノヲ記載シ確定次第更ニ届出ツヘシ
- 第十一條但書ノ場合ニ於テハ申請人ハ船舶検査執行地ニ於テ指定ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ申請書ニ附記スヘシ
- 第八條 申請書ニハ左ニ掲クル圖面及製造中ノ指定ヲ申請スル場合ニハ船體製造仕様

○船舶滿載吃水線法施行規則

書ヲ添附スヘシ但シ管海官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 船體中央橫截面圖(縮通板各條ノ幅ヲモ記入スヘシ)

二 船體中心線縱截面ノ諸材構造配置圖

三 甲板及艙内平面ノ諸材構造配置圖

四 甲板平面圖

第九條 申請人ニ於テ排水量ニ依ル肥瘠係數ヲ用井乾舷ノ算定ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記シ且之ニ船體線圖及排水量曲線圖(最上層全通甲板迄ノ各吃水ニ對スル全排水量及每一吋排水量ヲ示スモノ)ヲ添附スヘシ

前項ノ圖面ハ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スルモノナルコトヲ要ス

第十條 船舶検査手帖ヲ受ケタル船舶ニ在リテハ申請書ニ之ヲ添附スヘシ但シ船舶検査法施行細則ニ依リ現ニ提出中ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

船級協會ノ滿載吃水線證書ヲ受ケタルカ管船舶海官廳ニ於テ再指定ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ其ノ證書ノ謄本ヲ添附スヘシ

第三章 滿載吃水線ノ指定

第十一條 滿載吃水線ノ指定ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ但シ申請人検査執行地ニ於テ之ヲ受ケルコト能ハサル事由ヲ疏明シタルトキハ検査執行地外ニ於テ之ヲ受

クルコトヲ得

第十二條 船舶検査法施行細則第十八條ノ二ノ規定ニ依リ特ニ定メタル船舶検査執行地ニ於テハ急速ノ指定ヲ必要トスル事由アル場合ニ限り休暇日ト雖滿載吃水線ノ指定ヲ行フ

管海官廳ハ事務ノ都合ニ依リ前項ノ船舶検査執行地外ニ於テモ臨時ニ滿載吃水線ノ休暇日指定ヲ行フコトヲ得

第十三條 初メテ滿載吃水線ノ指定ヲ受ケムトスルトキハ申請人ハ船舶検査規程ニ定ムル特別検査ノ三種準備中船體内外ノ構造及現状ノ検査ニ關スル準備其ノ他指定ニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

検査官吏ハ船舶ノ大小、年齢、構造及ヒ現状ニ依リ前項ノ準備ヲ増減セシムルコトヲ得

第十四條 滿載吃水線ノ再指定ヲ受ケムトスルトキハ申請人ハ検査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第十五條 滿載吃水線ノ指定ニ關シ検査官吏ノ臨檢ヲ受クルトキハ船長之ニ立會フヘシ

前項ノ場合ニ於テ船長差支アルトキハ運轉士代リテ之ニ立會フヘシ
船長又ハ運轉士ノ乗組マサル船舶ニ在リテハ申請人ハ相當ノ者ヲシテ臨檢ニ立會ハシムヘシ

○船舶滿載吃水線法施行規則

第十六條 検査官吏ノ臨檢ニ立會ヒタル者ハ其ノ要求ニ應シ幫助ヲ爲シ書類ヲ檢閱ニ供シ又ハ訊問ニ對シ陳述ヲ爲スヘシ

第十七條 申請人指定ニ必要ナル準備ヲ爲サ、ルトキ又ハ臨檢ニ立會フ者ナキトキ若ハ之ニ立會ヒタル者前條ノ規定ニ違反シタルトキハ検査官吏ハ指定ヲ停止スルコトヲ得

第十八條 申請人ハ當該管海官廳ニ事由ヲ具シタル書面ヲ差出シ指定ヲ他ノ管海官廳ニ引繼キ又ハ囑託セムコトヲ申請スルコトヲ得
管海官廳ニ於テ前項ノ事由ヲ正當ナリト認メタルトキハ指定ヲ他ノ管海官廳ニ引繼キ又ハ囑託スルコトヲ得

第十九條 管海官廳ハ船舶滿載吃水線規程ニ依リ當該船舶ノ滿載吃水線ヲ定メタルトキハ船舶滿載吃水線指定書ヲ申請人ニ交付ス

第四章 滿載吃水線ノ標示

第二十條 申請人船舶滿載吃水線指定書ノ交付ヲ受ケタルトキハ該指定書及船舶滿載吃水線規程ニ依リ船舶ニ滿載吃水線ヲ標示スヘシ

第二十一條 申請人滿載吃水線ノ標示ヲ爲シタルトキハ書面又ハ口頭ヲ以テ當該管海官廳ニ標示ノ検査ヲ受ケムトスル期日及ヒ場所ヲ申出ツヘシ

第二十二條 前條ノ申出アリタルトキハ管海官廳ハ検査官吏ヲシテ其ノ標示ヲ検査セシメ之ヲ適當ナリト認メタルトキハ船舶滿載吃水線證書ヲ申請人ニ交付ス

第二十三條 滿載吃水線ヲ標示シタル船舶カ標示ヲ要セサルモノト爲リタルトキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ハ之ヲ抹消シ其ノ旨最寄管海官廳ニ届出ツヘシ但シ船舶滿載吃水線法第一條第四號ニ掲クル船舶及ヒ本令第一條ニ掲クル船舶ト爲リタル場合ニ於テハ豫メ最寄管海官廳ノ許可ヲ受クヘシ

前項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ事由ヲ具シタル申請書ニ通テ管海官廳ニ差出スヘシ
管海官廳ハ前項ノ事由ヲ正當ナリト認メタルトキハ申請書ニ標示ノ抹消ヲ許可スル旨ヲ記載シ其ノ一通ヲ申請人ニ返付スヘシ

第二十四條 前條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ノ標示ヲ抹消スル場合ニ於テハ船舶滿載吃水線規程第三十三條及ヒ第三十四條第二項ノ水平線ニ限り之ヲ存置スルモ妨ナシ

第二十五條 滿載吃水線ヲ標示シタル船舶カ臨時ニ標示ヲ要セサルモノト爲リ再ヒ標示ヲ要スルモノト爲ルコト明ナルトキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ハ一定ノ期間ヲ限リ其ノ標示ヲ存續セムコトヲ最寄管海官廳ニ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ申請ノ事由及ヒ標示ヲ存續セムトスル期間ヲ記載シタル申請書ニ通テ管海官廳ニ差出スヘシ
管海官廳ハ前項ノ事由ヲ正當ナリト認メタルトキハ申請書ニ當該期間標示ノ存續ヲ

○船舶滿載吃水線法施行規則

許可スル旨ヲ記載シ其ノ一通ヲ申請人ニ返付スヘシ
第二十六條 前條ノ許可ヲ受ケタル船舶ハ當該期間滿了ノ際指定ヲ受クルコトヲ要セ
ス但シ特ニ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五章 滿載吃水線ノ指定ニ關スル書類

第二十七條 船舶滿載吃水線指定書ハ附錄第一號書式ニ依ル
船舶滿載吃水線證書ハ附錄第二號書式ニ依ル

第二十八條 船舶滿載吃水線證書カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事
由ヲ具シ證書ノ交付ヲ受ケタル管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

第二十九條 船舶滿載吃水線證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ遲
滯ナク新舊事項ヲ列記シ最寄管海官廳ニ其ノ書換ヲ申請スヘシ但シ再指定ヲ申請ス
ル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ管海官廳ノ要求アリタルトキハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書
ヲ當該管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

第三十條 船舶滿載吃水線證書ノ毀損ニ依リ其ノ再交付ヲ受ケムトスルトキ又ハ其ノ
書換ヲ受ケムトスルトキハ船長ハ前二條ノ規定ニ依リ申請書ヲ提出スルト同時ニ舊
船舶滿載吃水線證書ヲ返還スヘシ

第三十一條 再指定ヲ申請スル場合ニ於テハ申請人ハ申請書ヲ提出スルト同時ニ當該

管海官廳ニ舊船舶滿載吃水線證書ヲ返還スヘシ

第三十二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶所有者、船舶借入人、船舶借入人又ハ船長
ハ船舶滿載吃水線證書ヲ遲滯ナク最寄管海官廳ニ返還スヘシ但シ返還スルコト能ハ
サルトキハ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

- 一 船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ
- 二 船舶カ第二十三條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ノ標示ヲ抹消シタルトキ
- 三 船舶カ船級協會ニ於テ再指定ヲ受ケタルトキ

第三十三條 船長ハ船舶滿載吃水線證書ヲ船内最見易キ場所ニ掲ケ置クヘシ

第三十四條 船舶滿載吃水線證書ノ英譯書ヲ受ケムトスル者ハ最寄管海官廳ニ之ヲ申
請スヘシ

英譯書ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム

第三十五條 船舶滿載吃水線證書ノ英譯書ヲ受ケタル者ハ原證書ヲ返還スルトキ之ヲ
管海官廳ニ返還スヘシ但シ毀損ニ因リ原證書ヲ返還スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 船舶滿載吃水線證書又ハ其ノ英譯書ノ交付、再交付若ハ書換ハ當事者ノ
申請アリタルトキハ急速ヲ必要トスル事由アル場合ニ限り休暇日ト雖之ヲ爲スコト
ヲ得

第三十七條 第五條第六號ニ掲クル航行ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ船舶所有者、船
舶管理人船舶借入人又ハ船長ヨリ申請ノ事由、航行セムトスル航路及ヒ吃水ヲ記載

○船舶滿載吃水線法施行規則

シタル申請書ニ通テ最寄管海官廳ニ差出スヘシ
管海官廳ハ前項ノ申請書ニ記載シタル事項ヲ正當ナリト認メタルトキハ申請書ニ航
行ヲ許可スル旨ヲ記載シ其ノ一通ヲ申請人ニ返付スヘシ

第六章 手数料及旋費

第三十八條 滿載吃水線ノ指定ヲ受クルトキハ申請人ハ當該管海官廳ノ指示スル所ニ
從ヒ附録船舶滿載吃水線指定手数料表ニ定ムル手数料ヲ納付スヘシ
申請人ノ都合ニ依リ申請ヲ取下ケ又ハ船舶カ指定ヲ要セサルモノト爲リタル場合ト
雖指定著手後ナルトキハ指定手数料ヲ徵收ス

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ各號ニ相當スル手数料ヲ納付スヘシ
一 船舶滿載吃水線證書ノ交付再交付、又ハ書換ヲ受ケムトスルトキ
汽船 貳圓
帆船 壹圓
二 船舶滿載吃水線證書ノ英譯書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケムトスルトキ
汽船 四圓
帆船 貳圓
前項ノ手数料ハ第三十六條ノ規定ニ依リ休暇日ニ於テ證書ノ交付、再交付又ハ書換
ヲ受ケムトスルトキハ各號ニ定ムル金額ノ倍額トス

第四十條 前二條ノ手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手数料納付書ニ貼付シテ
之ヲ納付スヘシ

手数料納付書ニ貼付シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘシ但シ申請人ニ於テ
自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ
指定手数料納付書ニハ船舶ノ名稱、總噸數、再指定ノ場合ニ於テハ其ノ旨、製造中
ノ特別檢査ト同時ニ指定ヲ受クルトキハ其ノ旨、休暇日ニ於ケル臨檢回数及ヒ手數
料額ヲ記載スヘシ

第四十一條 船舶檢査執行地外ニ於テ指定ヲ受クルトキハ申請人ハ當該管海官廳ノ指
示スル所ニ從ヒ檢査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スヘシ
船舶法施行細則第五十三條第一項又ハ船舶檢査法施行細則第七十八條第一項ノ場合
ニ於テ出張シタル檢査官吏ノ指定ヲ受クルトキハ其ノ旅費ハ相互ニ之ヲ通算ス
第四十二條 本章ノ規定ニ依ル手数料及ヒ旅費ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徵
收セス

第七章 船級協會

第四十三條 船舶滿載吃水線法第九條ノ規定ニ依リ滿載吃水線指定ノ業務ニ從事スル
爲認可ヲ受ケムトスル船級協會ハ營利ヲ目的トセサルモノナルコトヲ要ス
前項ノ認可ヲ受ケムトスル外國ノ船級協會ハ日本ニ於テ前項ノ業務ヲ管理スル委員

○船舶滿載吃水線法施行規則

會ヲ設ケタルモノニ限ル

第四十四條 船級協會カ滿載吃水線指定ノ業務ニ從事スル爲認可ヲ受ケムトスルトキ

ハ申請書ニ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ遞信大臣ニ之ヲ差出スヘシ

一 主タル事務所及ヒ出張所ノ名稱及ヒ所在地

二 役員ノ氏名並船船検査員ノ氏名及ヒ履歴

三 定款、寄附行爲又ハ之ニ準スヘキモノ

四 滿載吃水線ノ指定ニ關スル規定並ニ手数料及ヒ旅費ニ關スル規定

第四十五條 外國ノ船級協會カ滿載吃水線指定ノ業務ニ從事スル爲認可ヲ受ケムトス

ルトキハ申請書ニ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ遞信大臣ニ之ヲ差出ス

ヘシ

一 主タル事務所及ヒ日本ニ於ケル出張所ノ名稱及ヒ所在地

二 役員ノ氏名並ニ日本ニ於ケル検査員ノ氏名及ヒ履歴

三 定款、寄附行爲又ハ之ニ準スヘキモノ

四 委員會ノ組織及ヒ權限ニ關スル規定

五 委員會ノ委員及ヒ役員ノ氏名

六 委員會ノ定メタル滿載吃水線ノ指定ニ關スル規定並ニ手数料及ヒ旅費ニ關スル規定

第四十六條 遞信大臣ハ前二條ノ書類ヲ審査シ當該船級協會カ滿載吃水線ノ指定ヲ行

フニ適當ナリト認ムルトキハ認可書ヲ交付ス

第四十七條 船級協會ハ第四十四條第四號及ヒ第四十五條第四號乃至第六號ニ掲クル

事項ヲ變更セムトスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

船級協會ハ前項ニ掲クルモノヲ除クノ外第四十四條及ヒ第四十五條ニ依リ提出シタル

ル書面ノ記載事項ヲ變更シタルトキハ遞信大臣ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第四十八條 船級協會ハ滿載吃水線ノ指定ヲ爲シ船舶滿載吃水線證書ヲ發給シタルト

キハ遲滯ナク該證書ノ謄本、乾舷計算表並ニ第八條及ヒ第九條ニ掲クル圖面アルト

キハ其ノ圖面ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ

第四十九條 遞信大臣ハ前條ノ書類ヲ審査シ滿載吃水線ノ指定ヲ適當ナラスト認ムル

トキハ之ヲ改訂セシムルコトアルヘシ

第五十條 船級協會ハ三月毎ニ滿載吃水線指定ノ業務ニ關スル報告書ヲ遲滯ナク遞信

大臣ニ差出スヘシ

第五十一條 船級協會ハ自己ニ直接ノ利害關係アル船舶ノ滿載吃水線ノ指定ヲ行フコ

トヲ得ス

第五十二條 船級協會ハ船舶検査員ニ直接ノ利害關係アル船舶ニ付其ノ者ヲシテ滿載

吃水線ノ指定ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得ス

第五十三條 遞信大臣ハ船級協會カ滿載吃水線ノ指定ヲ行フニ適セサルモノト認ムル

トキハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

○船舶滿載吃水線法施行規則

第五十四條 遞信大臣ハ船舶検査員ヲ適當ナラスト認ムルトキハ滿載吃水線ノ指定ノ事務ニ從事スルコトヲ差止ムルコトアルヘシ
第五十五條 船級協會ハ滿載吃水線指定ノ業務ヲ廢止シタルトキ又ハ認可ヲ取消サレタルトキハ遲滞ナク認可書ヲ遞信大臣ニ返還スヘシ

附 則

第五十六條 本令ハ船舶滿載吃水線法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第五十七條 總噸數五百噸未満ノ近海航路ヲ航路定限トスル船舶ニ付テハ追テ定ムル期日迄滿載吃水線ノ指定ヲ行ハス
第五十八條 船舶滿載吃水線法第十六條第一項ニ掲クル船舶ヲ除クノ外本令施行ノ際現存スル船舶ノ滿載吃水線ノ指定ハ左ノ順序ニ依リ當該期間内ニ於テ初メテ申請スル定期検査ト同時ニ之ヲ行フ但シ特ニ申請アリタルトキハ管海官廳ニ於テ事務上差支ナキ限リ期間ヲ繰上ケ指定ヲ行フコトヲ得
一 本令施行ノ日ヨリ滿一年間
遠洋航路ヲ航路定限トスル船舶並ニ近海航路ヲ航路定限トスル總噸數二千噸以上ノ汽船及ヒ總噸數五百噸以上ノ帆船
二 前號ノ期間終了ノ日ヨリ滿一年間
近海航路ヲ航路定限トスル總噸數千噸以上二千噸未満ノ汽船

三 前號ノ期間終了ノ日以後

近海航路ヲ航路定限トスル總噸數五百噸以上千噸未満ノ汽船
前項第一號及ヒ第二號ニ掲クル船舶ニシテ當該期間内ニ定期検査ヲ受ケサルモノ、指定ハ順次次ノ期間ニ於テ之ヲ行フ
第五十九條 前條ノ規定ニ依ル滿載吃水線ノ指定ハ管海官廳ニ於テ當該船舶カ急速ノ發航ヲ必要トスルモノト認メタル場合ニ限リ次回定期検査ノ時期ヲ限度トシ其ノ一部ノ延期ヲ許可スルコトヲ得
前項ノ延期ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ヨリ申請ノ事由及ヒ延期ノ期限ヲ記載シタル申請書ニ通テ當該管海官廳ニ差出スヘシ
管海官廳ハ前項ノ申請書ニ記載シタル事項ヲ正當ナリト認メタルトキハ申請書ニ延期ヲ許可スル旨ヲ記載シ其ノ一通ヲ申請人ニ返付スヘシ
第六十條 船舶滿載吃水線法第十六條第一項ニ掲クル船舶ニ在リテハ本令施行後始メテ申請スル定期検査ノ申請書ニ現ニ有スル船舶滿載吃水線證書ノ謄本ヲ添ヘ管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

附 錄

船舶滿載吃水線指定手数料表

○船舶滿載吃水線法施行規則

指定手数料	總噸數
二十圓	二百噸 未滿
四十圓	二百噸以上 三百噸 未滿
六十圓	三百噸以上 五百噸 未滿
九十圓	五百噸以上 一千噸 未滿
百三十圓	一千噸以上 二千噸 未滿
百七十圓	二千噸以上 三千噸 未滿
二百圓	三千噸以上 四千噸 未滿
二百三十圓	四千噸以上 五千噸 未滿
二百六十圓	五千噸以上 六千噸 未滿
十圓ヲ加フ	六千噸以上 超過噸數千噸又ハ其ノ未滿毎ニ二十圓ヲ加フ

備考

- 一 再指定ヲ受クルトキハ其ノ指定手数料ハ本表ニ掲クル金額ノ四割トス但シ船舶滿載吃水線法第十六條ノ規定ニ依ル日本船舶カ本令施行後最初ニ指定ヲ受クル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
- 二 前項ノ規定ニ拘ラス航路定限變更ノ爲冬期北大西洋滿載吃水線ノ標示ヲ附加又ハ抹消スル場合ニ限り其ノ指定手数料ハ本表ニ掲クル金額ノ一割トス
- 三 船體ノ製造中ノ特別検査ト同時ニ指定ヲ受クルトキハ其ノ指定手数料ハ本表ニ掲クル金額ノ半額トス
- 四 休暇日ニ於テ臨檢ヲ受クルトキハ検査官吏一人臨檢一回毎ニ本表ニ掲クル金額ノ三割ヲ指定手数料ニ加算ス但シ三割ノ金額カ貳拾五圓ヲ超ユルトキハ之ヲ貳拾五圓ニ止ム

- 四 休暇日ニ於テ臨檢カ午前及ヒ午後ニ亘ルトキハ之ヲ臨檢ニ一回ト看做ス
- 五 第三十八條第二項ノ場合ニ於テ總噸數ヲ定ムルコト能ハサルトキハ計畫總噸數ニ依リ指定手数料ヲ算定ス
- 第一號甲乙丙書式略ス
- 第二號甲乙丙丁書式略ス

○船舶滿載吃水線法施行規則

船舶滿載吃水線規程

大正十年九月公布 (省令)

第一編 總 則

- 第一章 定 義
- 第二章 乾舷ノ種類
- 第三章 乾舷ノ決定
- 第四章 滿載吃水線ノ標示
- 第二編 乾舷表ノ適用
- 第五章 肥瘠係數
- 第六章 表定乾舷
- 第三編 表定乾舷ノ修正
- 第七章 船樓ニ關スル修正
- 第八章 木甲板、船ノ長、梁矢及舷弧ニ關スル修正
- 第九章 排水口及船員通路ニ關スル修正
- 第四編 鋼船ノ強力
- 第十章 縱抵抗率及橫抵抗率
- 第十一章 標準強力
- 第十二章 強力ニ依ル吃水ノ算定
- 第五編 遮浪甲板船、部分覆甲板船及水汽船ニ關スル特別規定

- 第十三章 遮浪甲板船ノ乾舷
- 第十四章 部分覆甲板船ノ乾舷
- 第十五章 水汽船ノ乾舷
- 第六編 帆船ニ關スル特別規定
- 第十六章 帆船ノ乾舷

第一編 總 則

第一章 定 義

- 第一條 乾舷甲板ト稱スルハ上甲板ヲ謂フ但シ全通船樓船ニ在リテハ第二甲板ヲ謂フ遮浪甲板船、部分覆甲板船、水汽船及帆船ノ乾舷甲板ハ第五編及第六編ノ規定ニ依ル
- 第二條 船ノ長ト稱スルハ滿載吃水線ニテ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面迄ノ距離ヲ謂フ
- 第三條 船ノ幅ト稱スルハ船ノ長ノ中央ニ於テ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面ヨリ外面迄木船ニ在リテハ外板ノ外面ヨリ外面迄ノ最大幅ヲ謂フ
- 第四條 乾舷ト稱スルハ船ノ長ノ中央ニ於ケル乾舷甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ滿載吃水線迄測リタル垂直距離ヲ謂フ但シ乾舷甲板ニ舷側水道又ハ梁壓材ヲ設クル場合ニ於テハ其ノ内側ニ於ケル甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ測リタルモノトス

○船舶滿載吃水線規程

第五條 鋼船ニ於テ船ノ深ト稱スルハ船ノ長ノ中央ニ於ケル龍骨ノ上面ヨリ前條ニ規定セル交點迄ノ垂直距離ヲ謂フ但シ左ニ掲クル場合ニ於テハ該垂直距離ヲ第六條ノ規定ニ依リ修正シタルモノトス

- 一 船樓ヲ有スルトキ
 - 二 乾舷甲板ニ部分木甲板ヲ張りタルトキ
 - 三 乾舷甲板ニ張りタル木甲板カ舷側水道ノ内縁ヨリ内縁迄又ハ艙口若ハ機關室圍壁迄達セサルトキ
 - 四 乾舷甲板ニ設ケタル舷側水道ノ幅カ船ノ幅ノ二十五分ノ一ヲ超ユルトキ
- 第六條 前條但書ノ修正ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ増減シテ之ヲ爲スヘシ

- 一 船ノ長ノ中央ニ於テ乾舷甲板ニ木甲板ヲ張ラサル場合ニ増加スヘキ修正高ノ算式

$$\frac{L}{2} \times \frac{1}{2}$$
 - 二 船ノ長ノ中央ニ於テ乾舷甲板ニ木甲板ヲ張りタル場合ニ減少スヘキ修正高ノ算式

$$\left(\frac{L}{2} - 1\right) \times \frac{1}{2}$$
- L ハ船ノ長 1 及 1/2 ハ以下各項ノ規定ニ依ル

前項ノ算式ニ用ウル1ハ乾舷甲板ニ張りタル木甲板ノ長ノ和ニシテ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算定スヘシ但シ其ノ和カ船ノ長ノ十分ノ一未滿ナルトキハ之ヲ零ト看做ス

- 一 船樓ヲ有スル場合ニ於テ船樓内ノ乾舷甲板ニ木甲板ヲ張ラサルカ又ハ之ニ張りタル木甲板ノ平均ノ厚カ造船規程ニ定ムル柔材木甲板ノ厚ヨリ小ナルトキハ船樓内ニ造船規程ニ定ムル厚ノ柔材木甲板ヲ張りタルモノト看做シ其ノ長ハ之ヲ1ニ算入スヘシ
- 二 船樓ヲ有スル場合ニ於テハ船樓外ノ乾舷甲板ニ張りタル木甲板、船樓ヲ有セサル場合ニ於テハ乾舷甲板ニ張りタル木甲板カ舷側水道ノ内縁ヨリ内縁迄又ハ艙口若ハ機關室圍壁迄達セサル部分及該甲板ニ設ケタル舷側水道ノ幅カ船ノ幅ノ二十五分ノ一ヲ超ユル部分ニ於テハ木甲板ヲ張ラサルモノト看做シ其ノ長ハ之ヲ1ニ算入スヘカラス

第一項ノ算式ニ用ウル1ハ1ニ算入シタル各部分ノ木甲板ノ厚ニ其ノ長ヲ乘シタルモノ、和ヲ1ニテ除シタルモノトス

第七條 鋼帆船ノ深ハ第五條ニ規定セル深ヨリ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ減シタルモノト爲スコトヲ得

$$\frac{1}{2} \times \left(R - \frac{1}{8}\right) \times \frac{B}{2}$$

○船舶滿載吃水線規程

R ハ船ノ長ノ中央ニ於ケル船底ノ傾斜率但シ其ノ傾斜率カ二十四分ノ五ヲ超ユ
ルトキハ二十四分ノ五

B ハ船ノ幅

第八條 木船ニ於テ船ノ深ト稱スルハ船ノ長ノ中央ニ於テ龍骨ノ溝ノ下縁ヨリ第四條
ニ規定セル交點迄測リタル垂直距離ヲ謂フ但シ龍骨ノ溝ノ下縁カ船底外板ノ外面ノ
扁平部ノ延長ト龍骨ノ側面トノ交點ヨリ下方ニ在ル場合ニ於テハ該交點ヨリ測リタ
ルモノトス

第九條 吃水ト稱スルハ船ノ深ノ下端ヨリ滿載吃水線迄ノ垂直距離ヲ謂フ

第二章 乾舷ノ種類

第十條 汽船ニ標示スヘキ滿載吃水線及之ニ對スル乾舷ハ左表ニ掲クル五種トス

滿載吃水線	乾舷
夏期滿載吃水線	夏期乾舷
冬期滿載吃水線	冬期乾舷
冬期北大西洋滿載吃水線	冬期北大西洋乾舷
熱帶滿載吃水線	熱帶乾舷
淡水滿載吃水線	淡水乾舷

帆船ニ標示スヘキ滿載吃水線及之ニ對スル乾舷ハ左表ニ掲クル三種トス

滿載吃水線	乾舷
海水滿載吃水線	海水乾舷
冬期北大西洋滿載吃水線	冬期北大西洋乾舷
淡水滿載吃水線	淡水乾舷

第十一條 夏期乾舷ト稱スルハ日本ノ港灣ニ於テハ二月十五日ヨリ八月十四日迄其ノ
他ノ地方ニ於テハ之ニ相當スル平穩ナル季節間海水中ニ於テ保持スヘキ最小乾舷ヲ
謂フ

第十二條 冬期乾舷ト稱スルハ日本ノ港灣ニ於テハ八月十五日ヨリ翌年二月十四日迄
其ノ他ノ地方ニ於テハ之ニ相當スル平穩ナル季節間海水中ニ於テ保持スヘキ最
小乾舷ヲ謂フ

第十三條 冬期北大西洋乾舷ト稱スルハ十月一日ヨリ翌年三月末日ニ至ル期間歐羅巴
洲又ハ地中海ニ於ケル港灣ト「ハツテラス」岬以北ノ北亞米利加洲ニ於ケル港灣トノ
間ヲ航行スル場合ニ帆船及長三百三十呎以下ノ汽船ニ限り海水中ニ於テ保持スヘキ
最小乾舷ヲ謂フ

第十四條 熱帶乾舷ト稱スルハ平穩ナル季節間蘇士ヨリ新嘉坡ニ至ル印度洋及兩回歸

○船舶滿載吃水線規程

線間ノ太平洋ヲ航行スル場合ニ海水中ニ於テ保持スヘキ最小乾舷ヲ謂フ
第十五條 海水乾舷ト稱スルハ第十三條ニ掲クル場合ヲ除クノ外海水中ニ於テ保持スヘキ最小乾舷ヲ謂フ

第十六條 淡水乾舷ト稱スルハ汽船ニ在リテハ第十一條ニ掲クル場合ニ於テ、帆船ニ在リテハ第十三條ニ掲クル場合ヲ除クノ外淡水中ニ於テ保持スヘキ最小乾舷ヲ謂フ

第三章 乾舷ノ決定

第十七條 本章ノ規定ハ載貨ノ種類及方法カ滿載状態ニ於テ船舶ノ復原性ヲ保持スルニ適當ナル場合ニ付之ヲ定メタルモノトス

第十八條 夏期乾舷ハ第六章ノ規定ニ依ル表定乾舷ヲ必要ニ應シ第三編ノ規定ニ依リ修正シタルモノト爲スヘシ

強力カ第十一章ニ掲クル標準強力ニ達セサル鋼汽船ノ夏期乾舷ハ前項ノ規定ニ拘ラス第八十一條乃至第八十四條及第八十六條又ハ第八十五條及第八十六條ノ規定ニ依リ算定シタル各吃水ノ中最小ナルモノニ相當スルモノト爲スヘシ

前項ノ規定ハ造船規程ニ合格スル重構船及全通船樓船ニ付テハ之ヲ適用セス但シ吃水ニ依リ構造寸法ヲ輕減シタル全通船樓船ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 遮浪甲板船、部分覆甲板船及木汽船ノ夏期乾舷ハ前條及第五編ノ規定ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第二十條 海水乾舷ハ第六編ノ規定ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第二十一條 滿載吃水線ノ指定申請人ニ於テ吃水ノ限度ヲ豫定スル場合ニ於テ其ノ限度ニ對スル乾舷カ前三條ノ規定ニ依ル夏期乾舷又ハ海水乾舷ヨリ小ナラサルトキハ之ヲ夏期乾舷又ハ海水乾舷ト爲スヘシ

第二十二條 冬期乾舷ハ第十八條、第十九條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ定メタル夏期乾舷ニ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ加ヘタルモノトス

$$\frac{1}{4} \times (D - 10) + \frac{1}{45} \times (59 - D) \quad \text{耳}$$

D ハ船ノ深ニテ、但シ船ノ深カ十四呎未滿ナルトキハ一四、〇〇
ハ船樓ヲ有セサル汽船ニ在リテハ零、全通船樓船ニ在リテハ一、部分船樓ヲ有スル汽船ニ在リテハ第五十六條ノ規定ニ依リ定メタル樓船ノ有效ノ長ノ和ト

船ノ長トノ比

第二十三條 冬期北大西洋乾舷ハ汽船ニ在リテハ冬期乾舷ニ二吋ヲ加ヘタルモノ、帆船ニ在リテハ海水乾舷ニ三吋ヲ加ヘタルモノトス但シ船首樓及船尾樓ノミヲ有スル汽船ニシテ第四十九條但書ノ規定ヲ適用スル場合竝遮浪甲板船ニシテ第八十九條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ船ノ長及第五十六條又ハ第九十條ノ規定ニ依リ定メタル船樓ノ有效ノ長ノ和ト船ノ長トノ比ニ應シ左表ニ掲クル修正高ヲ加ヘタルモノトス

船 長 ト 比 ノ 長 ト ノ 比	修正高ニテ			
	300	260	220	180
0.60	3.0	3.5	3.5	4.0
0.65	3.0	3.0	3.5	3.5
0.70	2.5	2.5	3.0	3.0
0.75	2.0	2.0	2.5	2.5
0.80 以上	2.0	2.0	2.0	2.0

備考 船ノ長又ハ船樓ノ有效ノ長ノ和ト船ノ長トノ比カ表ニ掲クルモノ、中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ修正高ヲ算定スヘシ

- 第二十四條 熱帶乾舷ハ第十八條、第十九條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ定メタル夏期乾舷ヨリ第二十二條ニ掲クル算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ減シタルモノトス
- 第二十五條 海水中ニ於ケル滿載吃水線ハ本章前諸條ノ規定ニ拘ラス乾舷甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交線ノ最低點ヨリ高キ箇所ニ在ルトコトヲ得ス
- 第二十六條 海水中ニ於ケル滿載吃水線ヨリ舷窓ノ下緣迄ノ高ハ本章前諸條ノ規定ニ

拘ラス之ヲ六吋未滿ト爲スコトヲ得ス但シ遞信大臣ノ適當ト認ムル構造ヲ強力有及スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 淡水乾舷ハ本章前諸條ノ規定ニ依リ定メタル夏期乾舷又ハ海水乾舷ヨリ之ニ相當スル吃水一呎ニ付四分ノ一吋ヲ減シタルモノトス

船舶滿載吃水線法施行規則ニ依リ滿載吃水線ノ指定申請書ニ船體線圖及排水量曲線圖ヲ添附シタル場合ニ於テ検査官吏之ヲ適當ナリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス本章前諸條ノ規定ニ依リ定メタル夏期乾舷又ハ海水乾舷ヨリ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ減シタルモノヲ淡水乾舷ト爲スヘシ

$$\frac{40 \times T}{40 \times T}$$

- △ ハ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水ニ於テ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スル海水排水量ニテ
- T ハ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水ニ於テ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スル吃水每一吋海水排水量ニテ
- 前二項ノ規定ハ海水ノ一立方呎ノ重量カ六十四封度、淡水ノ一立方呎ノ重量カ六十
- 二封度半ナル場合ニ相當スルモノトス
- 第二十八條 汽船ニ在リテハ第十二條、第十三條又ハ第十四條ニ掲クル場合ニ於テハ當該乾舷ヨリ夏期乾舷ト淡水乾舷トノ差ヲ又帆船ニ在リテハ第十三條ニ掲クル場合

○ 船舶滿載吃水線規程

ニ於テハ當該乾舷ヨリ海水乾舷ト淡水乾舷トノ差ヲ減シタルモノヲ淡水中ニ於テ保
持スヘキ最小乾舷トス

第二十九條 遞信大臣ハ船舶ノ構造、用途又ハ航路ノ難易ニ應シ本令ニ該當セサル乾
舷ヲ指定セシムルコトアルヘシ

第三十條 特種ノ船形ヲ有スル船舶ノ乾舷ハ遞信大臣ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第三十一條 検査官吏ハ必要ト認ムルトキハ船體ノ現狀、局部ノ構造又ハ工事ノ良否
ニ應シ本令ニ定ムル乾舷ヲ増加スルコトヲ得

第四章 滿載吃水線ノ標示

第三十二條 船舶ニハ以下本章ノ規定ニ依リ船ノ長ノ中央ニ於ケル兩舷側ニ幅一吋ノ
線ヲ以テ滿載吃水線ヲ標示スヘシ（船舶滿載吃水線法施行規則附錄船舶滿載吃水線
指定書書式附圖參照）但シ長三百三十呎ヲ超ユル汽船及近海航路ヲ航路定限トスル

船舶ニ在リテハ冬期北大西洋滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要セス

第三十三條 乾舷甲板ノ位置ハ船ノ長ノ中央ニ於テ長十二吋ノ水平線ヲ以テ之ヲ標示
シ其ノ上縁ノ中央點ヲ第四條ニ規定セル交點ニ一致セシムヘシ但シ該上縁ヨリ第三
十四條ノ圓標ノ中心迄ノ垂直距離カ七吋未滿ナルトキハ水平線ノ長ヲ十吋ト爲スヘ
シ

第三十四條 前條ノ水平線ノ直下ニ外徑十二吋ノ圓標ヲ畫キ其ノ中心ヨリ該水平線ノ

上縁迄ノ垂直距離ヲ滿載吃水線指定書ニ記載シタルモノト爲スヘシ但シ該垂直距離
カ七吋未滿ナルトキハ圓標ノ上半部ハ之ヲ標示セサルモノトス

圓標ヲ貫通シ長十八吋ノ水平線ヲ畫キ其ノ上縁ノ中央點ヲ圓標ノ中心ニ一致セシメ
該中心ヲ通過スル滿載吃水線ノ標示ト爲スヘシ

第三十五條 圓標ノ中心ヨリ前方二十一吋ノ箇所ニ後縁ヲ有スル垂直線ヲ畫キ其ノ前
縁ヨリ前方ニ向フ長九吋ノ水平線ノ上縁ヲ以テ該中心ヲ通過セサル海水中ニ於ケル

滿載吃水線ヲ標示シ又其ノ後縁ヨリ後方ニ向フ長九吋ノ水平線ノ上縁ヲ以テ淡水滿
載吃水線ヲ標示スヘシ但シ垂直線ハ最高水平線ノ上縁ト最下水平線ノ下縁トノ間ニ

之ヲ畫クモノトス

第三十六條 前條ノ規定ニ依ル滿載吃水線ノ標示ニハ左表ニ掲クル記號ヲ附スヘシ

滿載吃水線ノ種類	記號
冬期滿載吃水線	W
冬期北大西洋滿載吃水線	WNA
熱帶滿載吃水線	IS
淡水滿載吃水線	FW

○船舶滿載吃水線規程

第三十七條 第三十四條第二項ノ水平線ノ上方ニ於テ圓標ノ外側ニ高四吋半幅三吋ノ記號J及Gヲ標示スヘシ

第三十八條 標示ハ鋼船ニ在リテハ外板ニ切込ムカ又ハ之ニ點刻シ木船ニ在リテハ外板ニ八分ノ一吋以上ノ深ニ切込ミ且暗色ノ船側ニ於テハ白色又ハ黃色ニ塗リ白色ノ船側ニ於テハ黑色ニ塗リ見易キモノト爲スヘシ

第二編 乾舷表ノ適用

第五章 肥瘠係數

第三十九條 全通セル二重底又ハ普通肋板ヲ有スル鋼汽船ノ肥瘠係數ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定スヘシ

$$\frac{100 \times (V + v)}{L \times (B - 2b) \times (D + d + d_1)} + p$$

L ハ船ノ長ニテ

B ハ船體最廣部ニ於テ外板ノ外面ヨリ外面迄ノ水平距離ニテ

DV ハ船舶積量測定規程ニ依リ測定シタル乾舷甲板下ノ噸數

d ハ船ノ長ノ中央ニ於テ中心線ニテ乾舷甲板梁ノ上面ヨリ二重底内底板又ハ普通肋板ノ上面迄ノ垂直距離ニテ

b ハ肋骨ノ深ト船側内張板ノ厚トノ和ヨリ之ニ對スル標準寸法ヲ減シタルモノ

d₁ ハ船ノ長ノ中央ニ於テ中心線ニテ測リタル二重底又ハ普通肋板ノ深ヨリ其ノ標準ノ深ヲ減シタルモノニテ

d₂ ハ第六十條及第六十一條ノ規定ニ依リ算定シタル乾舷甲板ノ舷弧ノ平均高ヨリ第六十二條ノ規定ニ依リ算定シタル舷弧ノ標準平均高ヲ減シタルモノニテ

v ハ二重底ヲ有スルトキハ零、普通肋板ヲ有スルトキハ〇・〇一

v_± ハ左表ニ依ル

二重底又ハ普通肋板ノ深ト船底内張板ノ厚トノ和カ之ニ對ル標準寸法ニ比シ	符號	V
大小アル場合	十	二重底又ハ普通肋板ノ深ト船底内張板ノ厚トノ和カ標準寸法ニ等シキトキノ船内底張板ノ上面ト實際ノ船底内張板ノ上面トノ間ノ噸數
大ナルトキ	一	二重底又ハ普通肋板ノ深ト船底内張板ノ厚トノ和カ標準寸法ニ等シキトキハ二吋トス
小ナルトキ		

二重底、普通肋板又ハ肋骨ノ標準ノ深ハ重構船ニ對シ造船規程ニ規定セル二重底、普通肋板又ハ正肋材及副肋材ヲ以テ構造シタル船首尾艙内ノ肋骨ノ深トス
船底内張板ノ標準ノ厚ハ船ノ長百五十呎ヲ超ユルトキハ二吋半、船ノ長百五十呎以下ナルトキハ二吋トシ船側内張板ノ標準ノ厚ハ二吋トス
第四十條 部分二重底ヲ有スル鋼汽船ノ肥瘠係數ハ全通セル二重底又ハ普通肋板ヲ有

○船舶滿載吃水線規程

スル場合ニ引直シ之ヲ算定スヘシ

第四十一條 二重底又ハ普通肋板ノ深若ハ船底内張板ノ厚ニ階段アルカ又ハ二重底ノ上面カ水平ナラサル鋼汽船ノ肥瘠係數ハ前二條ニ準シ適當ニ之ヲ算定スヘシ

第四十二條 木汽船ノ肥瘠係數ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定スヘシ

$$\frac{100 \times V}{L \times B \times D} + 0.08$$

D ハ船ノ長ノ中央ニ於テ中心線ニテ乾舷甲板梁ノ上面ヨリ船底内張板ノ上面迄ノ垂直距離ニテ

L、B 及 V ハ第三十九條ノ規定ニ依ル

外板、肋骨及内張板ノ寸法カ普通ノ寸法ト異ナル木汽船ノ肥瘠係數ハ検査官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第四十三條 船舶滿載吃水線法施行規則ニ依リ滿載吃水線ノ指定申請書ニ排水量ニ依ル肥瘠係數ヲ用井乾舷ノ算定ヲ受ケムトスル旨ヲ記載シタル場合ニ於テハ本章前諸條ノ規定ニ拘ラス左ノ算式ニ依リ肥瘠係數ヲ算定スヘシ但シ検査官吏ニ於テ申請書ニ添附シタル船體線圖及排水量曲線圖ヲ適當ナラスト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

$$\frac{35 \times \Delta}{L \times B \times d} + 0.04$$

L ハ船ノ長ニテ

B ハ船ノ幅ニテ

d ハ船ノ長ノ中央ニテ鋼汽船ニ在リテハ龍骨ノ上面ヨリ、木汽船ニ在リテハ龍骨ノ溝ノ下縁ヨリ乾舷甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ深ノ百分ノ八十五ニテ

△ ハ鋼汽船ニ在リテハ龍骨ノ上面ヨリ、木汽船ニ在リテハ龍骨ノ溝ノ下縁ヨリ

d ノ距離ニ於ケル龍骨ニ平行ナル吃水線迄測リ鋼汽船ニ在リテハ肋骨ノ外面、

木汽船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スル海水排水量ニテ

第四十四條 帆船ノ肥瘠係數ハ之ヲ汽船ト看做シ本章前諸條ノ規定ニ依リ定メタルモノニ〇・〇四ヲ加ヘタルモノトス

第六章 表定乾舷

第四十五條 表定乾舷ハ船ノ深ト肥瘠係數トニ應シ附錄乾舷表及左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算定スヘシ

一 船ノ深カ表ニ掲クルモノ、中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依ル

二 肥瘠係數カ〇・七〇未滿ナルトキハ之ヲ〇・七〇ト看做シ〇・八四ヲ超ユルトキハ之ヲ〇・八四ト看做ス

第三編 表定乾舷ノ修正

第七章 船樓ニ關スル修正

○船舶滿載吃水線規程

第四十六條 船樓ノ高ト稱スルハ乾舷甲板ノ上面ヨリ船樓甲板ノ上面迄ノ最小垂直距離ヲ謂フ

第四十七條 船樓ノ標準ノ高ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス但シ長百呎以下ノ船舶ニ在リテハ之ヲ三呎トシ長三百五十呎以上ノ船舶ニ在リテハ之ヲ七呎六吋トス
 $0.018 \times L + 1.2$ 呎

L ハ船ノ長ニテ

第四十八條 全通船樓船ニ在リテハ左ニ掲クル修正高ヲ表定乾舷ヨリ減スヘシ

- 一 船樓ノ高カ其ノ標準ノ高ヨリ小ナラサルトキハ附錄乾舷表ニ掲クル全通船樓ニ對スル修正高
- 二 船樓ノ高カ其ノ標準ノ高ヨリ小ナルトキハ前號ノ修正高ニ船樓ノ高ト其ノ標準ノ高トノ比ヲ乘シタルモノ

第四十九條 部分船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ附錄乾舷表ニ掲クル全通船樓ニ對スル修正高ニ以下本章ノ規定ニ依リ算定シタル船樓ノ有效ノ長ノ和ト船ノ長トノ比及船型ニ應シ左表ニ掲クル船樓係數ヲ乘シタルモノヲ表定乾舷ヨリ減スヘシ但シ凹甲板船ニ對スル船樓係數ハ船首樓及船尾樓ノミヲ有スル汽船ニシテ船樓ヲ以テ機關室圍壁ヲ蔽圍シ且船尾樓ノ前壁開口ヲ設クルトキハ第五十一條ニ掲クル第一級閉鎖裝置ヲ備ヘタルモノニ限り之ヲ適用スルコトヲ得

鎖裝置ヲ備ヘタルモノニ限り之ヲ適用スルコトヲ得

船型	船	樓	係	數	船首樓及船尾樓ノミヲ有スル船舶	船首樓及船尾樓ノミヲ有スル船舶	船首樓及船尾樓ノミヲ有スル船舶	船首樓及船尾樓ノミヲ有スル船舶	船首樓及船尾樓ノミヲ有スル船舶	船首樓及船尾樓ノミヲ有スル船舶
凹甲板船	0.95	0.900	0.750							
	0.90	0.850	0.700							
	0.85	0.800	0.650							
	0.80	0.700	0.600	0.540	0.540	0.480	0.480	0.480	0.480	0.480
	0.70	0.550	0.500	0.450	0.450	0.400	0.400	0.400	0.400	0.400
	0.60	0.400	0.400	0.375	0.375	0.280	0.298	0.315	0.358	0.358
	0.50		0.320	0.300	0.300	0.160	0.195	0.230	0.265	0.265
	0.40		0.256	0.240	0.240	0.128	0.156	0.184	0.212	0.212
	0.30		0.192	0.180	0.180	0.096	0.117	0.138	0.159	0.159
	0.20		0.128	0.120	0.120	0.064	0.078	0.092	0.106	0.106
	0.10		0.064	0.060	0.060	0.032	0.039	0.046	0.053	0.053
	0		0	0	0	0	0	0	0	0

備考 船樓ノ有效ノ長ノ和ト船ノ長トノ比カ表ニ掲クルモノ、中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ船樓係數ヲ算定スヘシ

第五十條 船樓端ノ隔壁ニ設クル開口ノ閉鎖裝置ヲ分チテ第一級乃至第四級ノ四種トス

第五十一條 第一級閉鎖裝置ト稱スルハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ謂フ

一 蝶番ヲ備ヘ堅牢ナル木密鋼製戸

二 戸板ト隔壁板トヲ貫通シ六吋以内ノ心距ニ於テ螺釘ヲ以テ締附クル鋼製戸

第五十二條 第二級閉鎖裝置ト稱スルハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ謂フ

一 戸板ト隔壁板トヲ貫通シ六吋ヲ超エ十二吋以内ノ心距ニ於テ螺釘ヲ以テ締附クル鋼製戸

二 隔壁板ノミヲ貫通シ十二吋以内ノ心距ニ於テ鈎形螺釘ヲ以テ締附クル鋼製戸

三 隔壁ニ鉸釘ヲ以テ固着シタル豎溝形材ヲ開口ノ兩側ニ設ケ之ニ開口ノ上端迄挿板ヲ爲セル裝置

四 螺番ヲ備フル木製戸

第五十三條 第三級閉鎖裝置ト稱スルハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ謂フ

一 戸板ト隔壁板トヲ貫通シ十二吋ヲ超ユル心距ニ於テ螺釘ヲ以テ締附クル鋼製戸

二 隔壁板ノミヲ貫通シ十二吋ヲ超ユル心距ニ於テ鈎形螺釘ヲ以テ締附クル鋼製戸

三 隔壁ニ鉸釘ヲ以テ固着シタル豎溝形材ヲ開口ノ兩側ニ設ケ之ニ開口ノ上端迄挿板ヲ爲セル裝置

四 螺番ヲ備フル木製戸

第五十四條 第四級閉鎖裝置ト稱スルハ船樓ノ高ノ中央ニ達スル挿板ヲ爲セル裝置又ハ之ト同一效力ノモノヲ謂フ

第五十五條 船樓ノ長ハ船ノ長ノ兩端ニ於ケル垂直線ヲ超エテ之ヲ測ルヘカラス

第五十六條 船樓ノ有效ノ長ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

一 隔壁ヲ有セサル船樓又ハ末端ニ隔壁ヲ有スル船樓ニ在リテハ其ノ平均ノ長ニ船樓ノ閉鎖狀態ニ應シ左表ニ掲クル係數ヲ乘スヘシ

二 隔壁ヲ船樓ノ末端ヨリ内方ニ設ケタル爲閉鎖部ト開放部トヲ有スル船樓ニ在リテハ各部ノ平均ノ長ニ其ノ閉鎖狀態ニ應シ左表ニ掲クル係數ヲ乘シ各部ノ有效ノ長ヲ定メ之ヲ加フヘシ

三 船樓ノ高カ其ノ標準ノ高ヨリ小ナル場合ニ於テハ前各號ニ依リ算定シタル長ニ船樓ノ高ト其ノ標準ノ高トノ比ヲ乘スヘシ

四 船橋樓ヲ有スル船舶ニ於テ機關室圍壁ヲ船樓又ハ堅牢ナル鋼製甲板室ヲ以テ蔽圍セサルトキハ船橋樓ノ有效ノ長ハ前各號ニ依リ算定シタルモノ、二分ノ一

〇 船舶滿載吃水線規程

二四一

○船泊滿載吃水線規程

船橋樓					
IV		III	I又ハII		
O	IV	I.II又ハIII	I.II.III.IV又ハO	O	I.II.III又ハIV
0.50	* 0.50	* 0.50	0.75	0.75	1.00
0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
0.50	0.50	0.75	0.75	0.75	0.75

*
機開室圍壁カ船橋樓内ニ在リテ堅牢ナル水密構造ニシ
テ開口ヲ有セザルニテ開口ヲ有セザル水密構造ニシ
口ニ第一級有セザルニテ開口ヲ有セザル水密構造ニシ
鎖ラ第一級有セザルニテ開口ヲ有セザル水密構造ニシ
ニラ第一級有セザルニテ開口ヲ有セザル水密構造ニシ
○七五ヲ用フヘシ

船首樓			船種
I	I	I	隔離閉鎖状態 (備考参照) 壁前壁後壁 壁前壁後壁
O	IV	I.II又ハIII	第二船種ニ開ク 第一船種ニ開ク 第二船種ニ開ク 第一船種ニ開ク
0.75	* 1.00	1.00	放前壁後壁 放前壁後壁 放前壁後壁 放前壁後壁
I	I	I	
0.75	0.75	0.75	

ノ條○對長*
限ノトス船首樓及船尾樓ノミヲ有スル汽船ニ於テ四甲板船ニ
リ規定スヘシ但シ連浪甲板船ニ於テ甲板口ニ第九十一
ニ在ラズ

ト爲スヘシ
五 船尾樓ノミヲ有スル汽船並船首樓及船尾樓ノミヲ有スル汽船ニ於テ機關室圍
壁ヲ船樓又ハ堅牢ナル鋼製甲板室ヲ以テ蔽圍セサルトキハ各船樓ノ有效ノ長ハ
第一號乃至第三號ニ依リ算定シタルモノ、十分ノ六ト爲スヘシ
六 船首樓ノミヲ有スル船舶ニ於テ機關室圍壁ヲ船首樓又ハ堅牢ナル鋼製甲板室
ヲ以テ蔽圍セサルトキハ船首樓ノ有效ノ長ハ第一號乃至第三號ニ依リ算定シタ
ルモノ、十分ノ七ト爲スヘシ

船尾樓				O	
O	IV	III	I又ハII	V又ハO	I,II又ハIII
				0.50	0.50
0.50	** 0.50	0.75	1.00	0.50	0.50
0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
				0.50	0.75

備考 第二段及第三段ニ掲クル符號中Iハ開口ヲ有セサル隔壁ヲ設クル場合又ハ開口ニ第一級閉鎖装置ヲ備フル場合、II、III又ハIVハ開口ニ第二級、第三級又ハ第四級閉鎖装置ヲ備フル場合、Oハ隔壁ヲ設ケサル場合又ハ開口ニ第一級乃至第四級閉鎖装置ヲ備ヘサル場合ヲ示スモノトス

第八章 木甲板、船ノ長、梁矢及舷弧ニ關スル修正

第五十七條 第五條各號ノ場合ニ該當スル鋼船ニ在リテハ左ノ規定ニ依リ表定乾舷ヲ修正スヘシ

- 一 船ノ長ノ中央ニ於テ乾舷甲板ニ木甲板ヲ張ラサルトキハ第六條第一項第一號ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ヨリ減少ス
- 二 船ノ長ノ中央ニ於テ乾舷甲板ニ木甲板ヲ張リタルトキハ第六條第二項第二號ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ニ増加ス

第五十八條 船ノ長カ深ノ十二倍ニ等シカラサル船舶ニ在リテハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ正負ノ符號ヲ附シタル儘表定乾舷ニ加フヘシ

- 一 船ノ深三十五呎未満ナルトキ

$$\frac{1}{300} \times \left(1 - \frac{e}{2}\right) \times (D + 16) \times (L - 12 \times D) \text{ ft}$$
- 二 船ノ深三十五呎以上ナルトキ

$$0.17 \times \left(1 - \frac{e}{2}\right) \times (L - 12 \times D) \text{ ft}$$

- L ハ船ノ長ニテ
- D ハ船ノ深ニテ
- e ハ船樓ヲ有セサル船舶ニ在リテハ零、全通船樓船及船樓ノ有效ノ長ノ和ト船ノ長トノ比カ〇・六〇以上ナル船舶ニ在リテハ一、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ第四

○船舶滿載吃水線規程

十九條ニ掲クル船樓係數

第五十九條 船ノ長ノ中央ニ於テ乾舷甲板ノ梁矢カ梁ノ長ノ五十分ノ一ニ等シカラサル船舶ニ在リテハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ正負ノ符號ヲ附シタル儘表定乾舷ニ加フヘシ

$$\frac{1}{4} \times (R_0 - R) \text{ 呎}$$

R₀ 吋ハ船ノ長ノ中央ニ於ケル梁ノ長ノ五十分ノ一ニテ

R ハ船ノ長ノ中央ニ於ケル梁矢ニテ

第六十條 乾舷甲板ノ舷弧ノ高ハ船ノ長ノ中央ニ於ケル舷弧上ノ點ヲ通過スル龍骨ニ平行ナル直線ヨリ垂直ニ之ヲ測ルヘシ

第六十一條 舷弧ノ平均高ヲ算定スルニハ船ノ長ノ六等分點ニ於ケル舷弧ノ高ヲ測リ船ノ長ノ一端ヨリ數ヘ第二及第六等分點ニ於ケル高ヲ四倍シ第三及第五等分點ニ於ケル高ヲ二倍シ其ノ和ニ第一及第七等分點ニ於ケル高ヲ加ヘ之ヲ十八ニテ除スヘシ

$$\frac{1}{3} \times \left(\frac{L}{10} + 10 \right) \text{ 呎}$$

L ハ船ノ長ニテ

第六十三條 乾舷甲板ノ舷弧ノ平均高カ標準平均高二等シカラサル船舶ニ在リテハ左

ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ正負ノ符號ヲ附シタル儘表定乾舷ニ加フヘシ但シ船橋樓ヲ有セサル船舶又ハ閉鎖裝置完全ナラサル船橋樓ヲ有スル船舶ニ於テ舷弧ノ平均高カ標準平均高ノ一、五倍ヨリ大ナルトキハ之ヲ一、五倍ト看做シ算定スヘシ

$$\frac{3}{4} \times (1 - e) \times (S_0 - S) \text{ 呎}$$

S₀ ハ舷弧ノ標準平均高ニテ

S ハ舷弧ノ平均高ニテ

e ハ船樓ヲ有セサル船舶ニ在リテハ零、全通船樓船ニ在リテハ一、部分船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ第四十九條ニ掲クル船樓係數

第九章 排水口及船員通路ニ關スル修正

第六十四條 船ノ深十五呎未満ニシテ船首樓、船橋樓及船尾樓ヲ有シ其ノ有效ノ長ノ和カ船ノ長ノ二分ノ一ヲ超ユル船舶ニ於テ船首樓ト船橋樓トノ間ノ閉鎖舷牆ニ設ケタル排水口ノ面積カ左表ニ掲クルモノヨリ小ナルトキハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ニ加フヘシ

$$1.2 \times (r - 0.5) \times D \text{ 呎}$$

D 吋ハ船ノ深ニテ

r ハ船樓ノ有效ノ長ノ和ト船ノ長トノ比但シ其ノ比カ〇・六〇ヲ超ユルトキハ

○船舶滿載吃水線規程

〇六〇

舷橋ノ長ニテ	各舷ニ設クヘキ排水口ノ全面積ニテ
5	4.5
10	6.5
15	7.5
20	8.5
25	9.0
30	9.5
35	10.0
40	10.5
45	11.0
50	11.5
55	12.0
60	12.5
65以上	一舷橋ノ長五呎毎ニ平方呎ノ割合

第六十五條 船首樓及長船尾樓ノミテ有シ船員室ヲ船首樓ニ設ケタル汽船ニ於テ第四十九條但書ノ規定ニ依リ凹甲板船ニ對スル船樓係數ヲ用ウル場合ニ船樓間ニ第六十七條ノ規定ニ適合スル通路ヲ設ケサルトキハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ニ加フヘシ但シ船樓ノ間隔八十呎以上ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

0.012 x (80 - L) x D 但シ其ノ間隔カ七十呎未満ナルトキハ七〇・〇〇

第六十六條 船ノ深十五呎未満ニシテ船首樓、船橋樓及船尾樓ヲ有シ其ノ有效ノ長ノ和カ船ノ長ノ二分ノ一ヲ超エ且船員室ヲ船首樓ニ設ケタル船舶ニ於テ船首樓ト船橋樓トノ間ニ第六十七條ノ規定ニ適合スル通路ヲ設ケサルトキハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ニ加フヘシ

$1.2 \times (L - 0.5) \times D$ 但

D ハ船ノ深ニテ
r ハ船樓ノ有效ノ長ノ和ト船ノ長トノ比但シ其ノ比カ〇・六〇ヲ超ユルトキハ〇・六〇

第六十七條 船員通路ハ成ルヘク船ノ中心線ニ近キ箇所ニ設ケ左ノ各號ノ規定ニ依リ堅牢ニ構造シタルモノナルコトヲ要ス

- 一 暴露甲板ノ上面ヨリ通路ノ上面ニ至ル高ハ二呎六吋以上、通路ノ幅ハ一呎六吋以上ト爲スヘシ
 - 二 艙口縁材ノ高カ二呎六吋以上ナルトキハ該艙口ノ上面ヲ通路ニ代用スルモ妨ナシ
 - 三 通路ハ適當ナル間隔ニ支柱ヲ設ケテ之ヲ支ヘ其ノ兩端ハ船樓端ニ於ケル隔壁艙口縁材又ハ甲板ニ鉸釘ニテ固着シタル鋼材ニ螺釘ヲ以テ固着スヘシ
 - 四 通路ニハ其ノ上面ヨリ二呎六吋以上ノ高ニ手摺又ハ救命索ヲ設ケ鍛鋼製支柱ヲ以テ之ヲ支持スヘシ
- 艙口ノ上面ヲ通路ニ代用スル場合ニ於テハ手摺又ハ救命索ハ艙口ノ上面ヲ通シテ之ヲ設クヘシ

第四編 鋼船ノ強力

第十章 縦抵抗率及横抵抗率

〇船舶滿載吃水線規程

第六十八條 強力甲板ト稱スルハ船ノ長ノ任意ノ箇所ニ於テ船體ノ主要部ヲ構造スル最上層甲板ヲ謂フ

第六十九條 縱抵抗率ト稱スルハ中央部船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル船體ノ各横截面ノ抵抗率中最小ナルモノヲ謂フ

第七十條 船體横截面ノ抵抗率ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

一 船體横截面ノ水平中性軸ニ對スル惰率ヲ該軸ヨリ強力甲板ノ甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ニテ除スヘシ

二 強力甲板以下ニ在リテハ中央部船ノ長ノ二分ノ一以上ニ達スルカ又ハ同一ノ效力ヲ有スル總テノ縦通鋼材ヲ算入シ強力甲板ノ上部ニ在リテハ梁上側板ニ附スル縦通山形材及舷側厚板ノ延長部ヲ算入スヘシ

三 鉸釘孔又ハ螺釘孔ハ之ヲ無キモノト看做ス

四 面積ノ單位ハ平方吋トシ距離ノ單位ハ呎トス

第七十一條 横抵抗率ト稱スルハ各種船内肋骨ノ截面ノ抵抗率ヲ謂フ

第七十二條 船内肋骨ノ截面ノ抵抗率ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

一 船内肋骨カ正肋材及之ト同一寸法ノ副肋材ヲ以テ構造シタルモノナルトキハ其ノ截面ノ中性軸ニ對スル惰率ヲ該軸ヨリ該截面ノ端ニ至ル距離ニテ除スヘシ

二 船内肋骨カ前號ニ掲クルモノニ該當セサル場合ニ於テハ船内肋骨ト同一效力ヲ有シ正肋材及之ト同一寸法ノ副肋材ヲ以テ構造シタル肋骨ニ付前號ニ依リ算

定スヘシ

三 鉸釘孔又ハ螺釘孔ハ之ヲ無キモノト看做ス

四 寸法ノ單位ハ吋トス

第十一章 標準強力

第七十三條 強力深ト稱スルハ船ノ長ノ中央ニテ龍骨ノ上面ヨリ中央部船ノ長ノ二分ノ一間ニ於テ最下ニ在ル強力甲板ノ甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ヲ謂フ

第七十四條 第七十五條及第七十七條乃至第七十九條ノ規定ハ造船規程ニ定ムル材料試驗ニ合格シタル材料ヲ以テ構造シタル鋼船ニ付之ヲ定メタルモノトス

第七十五條 標準縱抵抗率ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$R = \frac{L \times B \times d}{f}$$

ハ第十八條第一項、第十九條、第九十九條又ハ第一百一條ノ規定ニ依リ定メタル船體ノ形狀ニ基ク乾舷ニ相當スル吃水ニテ

B 船ノ幅ニテ

f 船ノ長ニ應シ定メタル係數ニシテ左表ニ依ル

f	船長ニテ
1.80	100
2.03	120
2.34	140
2.70	160
3.15	180
3.60	200
4.14	220
4.77	240
5.49	260
6.21	280
6.93	300
7.74	320
8.55	340
9.45	360
10.35	380
10.25	400
12.15	420
13.14	440
14.13	460
15.12	480
16.20	500
17.28	520
18.36	540
19.53	560
20.79	680
22.14	600

備考 船ノ長カ表ニ掲クルモノ、中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リテ算定スベシ
 第七十六條 前條ノ標準縦抵抗率ハ左ノ各號ノ範圍内ニ在ル寸法ノ鋼船ヲ標準トシ之ヲ定メタルモノトス

一 船ノ長カ百呎以上ニシテ六百呎以下

二 船ノ幅カ長ノ十分ノ一ニ五呎ヲ加ヘタルモノ以上ニシテ長ノ十分ノ一ニ二十呎ヲ加ヘタルモノ以下

三 船ノ長ト強力深トノ比カ一〇・〇以上ニシテ一三・五以下

第七十七條 船側外板ノ標準ノ厚ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$\frac{1}{100} \times (0.105 \times L + 17) \text{ 吋}$$

L ハ船ノ長ニテ

第七十八條 肋骨ノ標準心距ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス但シ船ノ長百六十呎以下ナルトキハ之ヲ二十一吋トス

$$0.025 \times L + 17$$

L ハ船ノ長ニテ

第七十九條 標準横抵抗率ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$S \times (d-t) \times (f_1 + f_2)$$

1000

S ハ肋骨ノ心距ニテ

d ハ第十八條第一項、第十九條、第九十九條又ハ第一百一條ノ規定ニ依リ定メタル船體ノ形狀ニ基ク乾舷ニ相當スル吃水ニテ
 t ハ二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ船側ニ於ケル内底板ノ上面ト二重底縁板ノ外側ニ附スル肘板ノ上端トノ中央ヨリ、普通肋骨ヲ有スル船舶ニ在リテハ中心線ニ於ケル肋骨ノ上面ト船側ニ於ケル肋骨ノ上端トノ中央ヨリ龍骨ノ上面迄ノ垂直距離ニテ

f₁ ハ係數ニシテ左表ニ依ル

f ₁	H
9.0	0
11.0	8
12.5	10
15.0	12
19.0	14
24.0	16
29.5	18
36.0	20
43.0	22
51.0	24
59.0	26

備考

一 H ハ二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ船側ニ於ケル内底板ノ上面ト二重底縁板ノ外側ニ附スル肘板ノ上端トノ中央ヨリ、普通肋骨ヲ有スル船舶ニ在リテハ中心線ニ於ケル肋骨ノ上面ト船側ニ於ケル肋骨ノ上端トノ中央ヨリ最下層梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ニテ
 二 H カ表ニ掲クルモノ、中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リテ算定スベシ
 f₂ ハ係數ニシテ左表ニ依ル

○船舶滿載吃水線規程

f_2	K
0.0	0
0.5	5
1.0	10
2.0	15
3.0	20
4.5	25
6.5	30
9.0	35
12.0	40

備考

一 Kハ最下層梁ノ船側ニ於ケル上面ヨリ乾舷甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ニテニ船樓ヲ有スル場合ニ於テハ一一・五ヲ、船樓ヲ有セサル場合ニ於テハ七・五ヲ加ヘタルモノ

二 Kカ表ニ掲クルモノ、中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ f_2 ヲ算定スヘシ

第八十條 前條ノ標準横抵抗率ハ左ノ各號ノ範圍内ニ在ル寸法ノ鋼船ヲ標準トシ之ヲ定メタルモノトス

- 一 強力深カ十五呎以上ニシテ六十呎以下
- 二 船ノ幅カ長ノ十分ノ一ニ五呎ヲ加ヘタルモノ以上ニシテ長ノ十分ノ一二二十呎ヲ加ヘタルモノ以下
- 三 船ノ長ト強力深トノ比カ一〇・〇以上ニシテ一三・五以下
- 四 肋骨ノ外面ヨリ之ニ最モ近キ梁柱列ノ中心線迄ノ水平距離カ二十呎以下

第十二章 強力ニ依ル吃水ノ算定

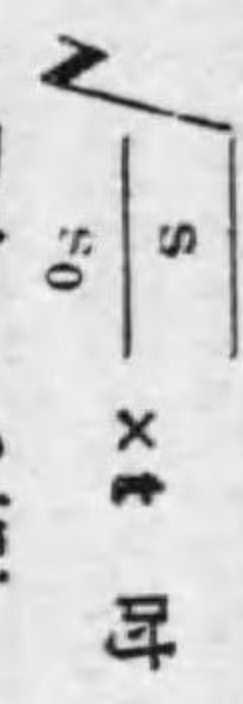
第八十一條 縦抵抗率カ標準縦抵抗率ヨリ小ナル場合ニ於テハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヲ縦抵抗率ニ依ル吃水トス

$$\frac{M}{f \times B} \times \frac{1}{M} \times \frac{1}{B}$$

M ハ縦抵抗率
B及f ハ第七十五條ノ規定ニ依ル

第八十二條 中央部船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル船側外板ノ厚カ其ノ標準ノ厚ヨリ小ナル場合ニ於テハ船側外板ノ厚ニ依ル吃水ハ検査官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第八十三條 肋骨ノ心距カ標準心距ヨリ大ナル場合ニ於テハ左ノ算式ニ依リ算定シタル厚ヲ船側外板ノ標準ノ厚ト看做シ前條ノ規定ヲ適用スヘシ但シ肋骨ヲ標準心距ニ配置シタル場合ト同一效力ノ構造ヲ以テ外板ヲ支持スルトキハ此ノ限ニ在ラス



第八十四條 横抵抗率カ標準横抵抗率ヨリ小ナル場合ニ於テハ左ノ算式ニ依リ算定シタル吃水ノ中最小ナルモノヲ横抵抗率ニ依ル吃水トス

○船舶滿載吃水線規程

$$1000 \times \frac{m}{S \times (f_1 \times f_2)} \times t \text{ DR}$$

m 呎ハ横抵抗率
S、t、f₁及f₂ ハ第七十九條ノ規定ニ依ル

第八十五條 強力ニ依ル吃水ハ第十八條第三項ニ掲クル重構船及全通船樓船ノ強力ヲ標準トシ其ノ中間ノ強力ヲ有スル鋼船ニ在リテハ重構船及全通船樓船ノ形狀ニ基ク吃水ノ間ニ挿間法ニ依リ之ヲ算定シ其ノ以下ノ強力ヲ有スル鋼船ニ在リテハ該船ノ強力ト全通船樓船ノ強力トノ割合ニ依リ全通船樓船ノ形狀ニ基ク吃水ヲ基礎トシ之ヲ算定スルコトヲ得

第八十六條 造船規程ニ定ムル材料試験ニ合格セサル材料又ハ該試験ヲ受ケサル材料ヲ以テ船體ノ要部ヲ構造シタル船舶ノ強力ニ依ル吃水ハ検査官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第五編 遮浪甲板船、部分覆甲板船及木汽船ニ關スル特別規定

第十三章 遮浪甲板船ノ乾舷

第八十七條 遮浪甲板船ニ在リテハ第二甲板ヲ乾舷甲板トス
第八十八條 遮浪甲板船ハ遮浪甲板ニ於ケル常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ノ部分ヲ

船樓ナキ部分ト看做シ部分船樓ヲ有スル船舶トシテ取扱フヘシ

第八十九條 遮浪甲板船ニ於テ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ヲ前部又ハ後部ニ設ケタルトキハ第四十九條ニ掲クル凹甲板船ニ對スル船樓係數ヲ用ウルコトヲ得

第九十條 遮浪甲板船ニ在リテハ船樓ノ有效ノ長ノ和ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ之ヲ算定スルコトヲ得

一 常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ニ第九十一條ノ規定ニ適合スル一時的閉鎖裝置ヲ備フル場合
 $1 + (1 - p) \times (L - 1) \text{ DR}$

二 常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ニ第九十一條ノ規定ニ適合スル一時的閉鎖裝置ヲ備ヘサル場合
 $1 + \frac{1}{2} \times (1 - p) \times (L - 1) \text{ DR}$

L ハ船ノ長ニテ

l ハ第五十六條ノ規定ニ依リ算定シタル船樓ノ有效ノ長ノ和ニテ

p ハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ノ幅ト該甲板口ノ長ノ中央ニ於ケル遮浪甲板ノ幅トノ比但シ其ノ比カ〇・五未満ナルトキハ〇・五

第九十一條 甲板口ノ一時的閉鎖裝置ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ構造シタルモノ又ハ之ト同一效力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

〇船舶滿載吃水線規程

一 造船規定ニ定ムル遮浪甲板ニ張ルヘキ木甲板ノ厚ヨリ小ナラサル厚ノ蓋板ヲ備ヘ之ヲ眼付螺釘及索ヲ以テ締附ケ得ル構造ト爲スヘシ

二 前號ノ蓋板ヲ支持スル爲仕切梁ヲ縦又ハ横ニ五呎ヲ超エサル間隔ニ配置シ其ノ兩端ヲ堅牢ニ支持スヘシ

三 甲板口ノ部分ニ於テ遮浪甲板下ニ有效ナル支柱ヲ設クヘシ

第九十二條 常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ヲ前部ノミニ設ケタル遮浪甲板船ニ於テ第八十九條、第九十條又ハ第八十九條及第九十條ノ規定ヲ適用スル場合及常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ヲ前部及後部ニ設ケタル遮浪甲板船ニ於テ第九十條ノ規定ヲ適用スル場合ニ前部ニ設ケタル甲板口直下ノ甲板間ノ各舷ノ排水口ノ面積カ該甲板口ノ長ヲ舷牆ノ長トシ第六十四條ニ掲クル表ニ依リ定メタル排水口ノ面積ヨリ小ナルトキハ船ノ深ノ千分ノ五ヲ表定乾舷ニ加フヘシ但シ該甲板口ニ前條ノ規定ニ適合スル一時的閉鎖裝置ヲ備フルトキ此ノ限ニ在ラス

第十四章 部分覆甲板船ノ乾舷

第九十三條 部分覆甲板船ト稱スルハ長船首樓ト之ニ連續セル低船尾樓トヲ有スル船舶ヲ謂フ

第九十四條 部分覆甲板船ニ在リテハ長船首樓ノ部分ニ於テ上甲板ト平行シテ低船尾樓甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ乾舷甲板トス

第九十五條 部分覆甲板船ニ在リテハ乾舷甲板ヨリ上部ニ在ル長船首樓ノ部分ヲ船樓ト看做シ取扱フヘシ

第十五章 水汽船ノ乾舷

第九十六條 水汽船ニ在リテハ上甲板ヲ乾舷甲板トス

第九十七條 水汽船ノ夏期乾舷ハ表定乾舷ヲ零トシ第五十八條ノ規定ニ依リ修正シタルモノニ其ノ構造ノ種類ニ應シ左表ニ掲クル係數ヲ乘シタルモノト爲スヘシ

構造ノ種類		係數
重	甲 板 船	1.40
輕	甲 板 船	2.00

検査官吏ハ船體ノ材料、構造、固着方、工事又ハ現状ノ良否ニ應シ前項ノ係數ヲ適當ニ増減スルコトヲ得

前項ニ依リ第一項ノ係數ヲ減少シテ得タル乾舷ハ表定乾舷ヲ第三編ノ規定ニ依リ修正シテ得タル乾舷ヨリ小ナルコトヲ得ス

第六編 帆船ニ關スル特別規定

第十六章 帆船ノ乾舷

○船舶滿載吃水線規程

第九十八條 帆船ニ在リテハ上甲板ヲ乾舷甲板トス
 第九十九條 鋼帆船ノ海水乾舷ハ表定乾舷ニ附録乾舷表ニ掲クル帆船ニ對スル修正高
 ヲ加ヘ之ヲ第三編ノ規定ニ依リ修正シタルモノト爲スヘシ但シ船首樓及船尾樓ノミ
 ヲ有スル鋼帆船船首樓ノミヲ有スル鋼帆船並船尾樓ノミヲ有スル鋼帆船ニ付テハ船
 樓ニ關スル修正ハ第百條ノ規定ニ依リ又第五十八條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ
 船樓ハ之ヲ無キモノトシテ取扱フヘシ

第百條 前條但書ニ掲クル鋼帆船ノ船樓ニ關スル修正ハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修
 正高ヲ表定乾舷ヨリ減少シテ之ヲ爲スヘシ

○× $\frac{1}{2}$

F ハ表定乾舷ニ附録乾舷表ニ掲クル帆船ニ對スル修正高ヲ加ヘ且船樓ハ之ヲ無
 キモノト看做シ第五十八條ノ規定ニ依リ修正シタルモノ
 C ハ第五十六條ノ規定ニ依リ算定シタル船樓ノ有效ノ長ノ和ト船ノ長トノ比及
 船型ニ應シ定メタル係數ニシテ左表ニ依ル

船型	船樓ノ有效ノ長ノ和ト船ノ長トノ比	
	係	數
船首樓及船尾樓ノミヲ有スル鋼帆船	0.120	0
	0.100	
	0.080	
	0.060	
	0	0

船首樓ノミヲ有スル鋼帆船	船尾樓ノミヲ有スル鋼帆船
—	—
—	—
0.030	0.060
0.020	0.040
0	0

備考 船樓ノ有效ノ長ノ和ト船ノ長トノ比カ表ニ掲クルモノ、中間ニ在ルトキハ
 挿間法ニ依リ係數ヲ算定スヘシ

第百一條 機關ヲ有スル鋼帆船ニ於テ船舶滿載吃水線法施行規則ニ依リ特ニ申請アリ
 タルトキハ試運轉ヲ行ヒ其ノ成績ニ應シ第九十九條ノ規定ニ依ル海水乾舷ヨリ検査
 官吏ノ適當ト認ムル修正高ヲ減シタルモノヲ海水乾舷ト爲スコトヲ得

前項ノ修正高ハ燃料庫ニ搭載シ得ヘキ燃料ノ重量ニ相當スル吃水ノ増加高ヲ超ユル
 コトヲ得ス

第百二條 第十八條第二項及第三項ノ規定ハ鋼帆船ノ海水乾舷ヲ定ムル場合ニ之ヲ準
 用ス

第百三條 木帆船ノ海水乾舷ハ之ヲ汽船ト看做シ第四十二條又ハ第四十三條ノ肥瘠係
 數ヲ用ヒ第九十七條第一項ノ規定ニ依リ算定シタル夏期乾舷ト等シク爲スヘシ
 検査官吏ハ船體ノ材料、構造、固着方、工事又ハ現状ノ良否ニ應シ前項ノ乾舷ヲ適
 當ニ増減スルコトヲ得

○船舶滿載吃水線規程

前項ノ規定ニ依リ乾舷ヲ減少スル場合ト雖其ノ乾舷ハ當該帆船ヲ鋼帆船ト看做シ第九十九條及第一百一條ノ規定ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ス

附 則

第四百四條 本令ハ船舶滿載吃水線法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附錄乾舷表略ス

◆ 船 員 法

明治三十二年三月公布 (法律)

第一章 總 則

第一條 本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、港灣ノミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラス
第二條 本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ海員ヲ謂ヒ海員トハ船長以外ノ一切ノ乗組員ヲ謂フ

第二章 船員手帖

第三條 日本ニ於テ船員ト爲ラント欲スル者ハ管海官廳ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス
申請人ハ戶籍吏ノ書面其他ノ公正證書ニ依リテ左ノ事項ヲ證スルコトヲ要ス但申請人カ其本籍地又ハ寄留地ニ於テ申請ヲ爲ス場合ニ於テ其地ノ管海官廳カ戶籍吏ノ職務ヲ行フトキハ此限ニ在ラス

- 一 氏 名
- 二 本籍地
- 三 身 分

○ 船員法

四 出生ノ年月日

第四條 未成年者カ船員ト爲ルニハ其法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス未成年者カ船員手帖ノ交付ヲ申請スルニハ前條第二項ニ掲ケタル事項ノ外前項ノ許可ヲ得タル旨ヲ證スルコトヲ要ス

第五條 船員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者ハ雇傭契約ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

第六條 外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到着シタルトキハ其到着ノ日ヨリ一个月内ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第七條 船員手帖ニ記載シタル事項ニシテ第三條第二項ニ掲ケタルモノニ錯誤アリタルトキ又ハ同條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタルモノニ變更ヲ生シタルトキハ船員ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ管海官廳ニ船員手帖ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ錯誤又ハ變更ノ事實ヲ知リタルトキハ前項ノ期間ハ其船員カ日本ニ到着シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第八條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 船員手帖カ滅失シタルトキハ船員ハ遲滞ナク更ニ其交付ヲ申請スルコトヲ要ス

船員手帖カ毀損シタルトキハ船員ハ遲滞ナク其書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十條 船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ船員手帖カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船員カ日本ニ到着シタル後遲滞ナク船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十一條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第十二條 船員カ廢業ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク管海官廳ニ其船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

船員カ死亡シタルトキハ其船員手帖ヲ保管スル者之ヲ返還スルコトヲ要ス

第三章 船 長

第十三條 船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル者ニ對シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條 船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ提出スルコトヲ要ス

第十五條 船舶カ港灣ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ其他危險ノ虞アリタルトキハ船長ハ甲板ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第十六條 日本ト外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到着シタルトキハ船長ハ二十四時間内ニ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ其檢閲ヲ

○船員法

受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶カ入港ノ時ヨリ十二時間内ニ發航スル場合ニハ之ヲ適用セス
管海官廳ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其他船中ニ在リタル者ヲ呼出
タシテ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十七條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告
ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
 - 二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ
 - 三 衝突其他ノ海難カ生シタルトキ
 - 四 船舶カ捕獲セラレタルトキ
 - 五 船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ
- 船舶カ豫定セサル港ニ寄港シタルトキ又ハ前項第二號乃至第五號ニ掲ケタル事由カ
碇泊中ニ生シタルトキハ船長ハ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其
後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス
- 前條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第十八條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テハ船長ハ報告書ヲ作り其認證ヲ申請ス
ルコトヲ得
- 第十九條 船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ船長ハ人命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル

手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ其指揮スル
船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第二十條 船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及ヒ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ
盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及ヒ到達港ヲ告クルコトヲ要ス但自己ノ指揮ス
ル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラス

第二十一條 船長カ航海中救援ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキハ人命ヲ救フコトヲ要ス
但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラス

第二十二條 海員カ船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ其船中ニ在ル遺産ヲ保管スル
コトヲ要ス

第二十三條 外國ニ駐在スル日本ノ公使、領事又ハ貿易事務官カ法令ノ定ムル所ニ依
リ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命シタルトキハ船長ハ正當ノ理由アルニ非サ
レハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

送還費用ノ償還ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 船長ハ其指揮セントスル船舶ニ乗込ム前ニ其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出
シテ就職ノ認證ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ就職ノ認證ヲ得タル船長カ其職ヲ退キタルトキハ遲滞ナク退職
ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十五條 船長カ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタルトキ又ハ之ヲ指揮スルコト能ハ

○船員法

サルニ至リタル場合ニ於テ他人ヲ選任セサルトキハ運航ニ従事スル海員ハ其職掌ノ
順位ニ從ヒテ船長ノ職務ヲ行フ

第四章 海員

第二十六條 海員ノ雇入若クハ雇止ヲ爲シ又ハ雇入契約ノ更新若クハ變更ヲ爲シタル
トキハ管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條 管海官廳カ公認ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者雙方ニ讀
聞カセタル後之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス但海員ノ雇止ヲ爲シタル場合ニ於
テ正當ノ理由アルトキハ當事者ノ一方カ出頭セサルトキト雖モ公認ヲ爲スコトヲ得
當事者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名
ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏
名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リ捺印セス又ハ氏名ヲ代署セシメ若クハ捺印シタル場合ニ於テハ海
員名簿ニ其理由ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十八條 當事者ハ正當ノ理由アル場合ニ限り代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコト
ヲ得

第二十九條 公認アリタルトキハ海員ハ遲滯ナク其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ公
認ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第三十條 海員ノ雇止ニ關シテ爭アルトキハ當事者ノ一方ハ管海官廳ニ其事由ヲ申立
テ雇止ノ公認ヲ申請スルコトヲ得

管海官廳カ前項ノ申請ヲ正當ナリト認メタルトキハ當事者雙方ヲ呼出タシ海員名簿
及ヒ船員手帖ヲ提出セシメテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ要ス

當事者ノ一方カ出頭セサルトキハ管海官廳ハ相手方ノ申立テニ因リテ雇止ノ公認ヲ
爲スコトヲ得此場合ニ於テハ海員名簿及ヒ船員手帖ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス
前二項ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船員手帖ヲ提出ヲ強制スルコトヲ得

第三十一條 船長ハ海員ノ雇入期間中其船員手帖ヲ保管スルコトヲ要ス

第三十二條 海員カ雇入期間中脱船シタルトキハ船長ハ遲滯ナク管海官廳ニ其海員ノ
船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

第三十三條 海員ハ雇止アリタル場合ニ於テハ船長ニ對シ其職務ノ執行又ハ品行ニ關
スル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十四條 海員名簿カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ更ニ海員名簿ヲ作り之ヲ管
海官廳ニ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條及ヒ第二十八條ノ規定ハ海員名簿及ヒ船員手帖カ共ニ滅失又ハ毀損シタ
ル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ公認ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第三十五條 海員カ雇入期間中第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リテ船員手帖ノ交付又ハ
書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付又ハ書換アリタルトキハ海員ハ遲滯ナク第二十

○船員法

九條ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第五章 紀 律

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ懲戒スルコトヲ得

- 一 海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ
 - 二 海員カ其職務ヲ怠リタルトキ
 - 三 海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ
 - 四 海員カ喧爭シタルトキ
 - 五 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ船舶ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時マテニ歸船セサリシトキ
 - 六 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ點火又ハ焚火シタルトキ
 - 七 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ端艇ヲ使用シタルトキ
 - 八 海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ
 - 九 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタルトキ
 - 十 海員カ酩酊シテ事ヲ省セサルトキ
 - 十一 其他海員カ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ
- 第三十七條 懲戒ハ左ノ四種トス
- 一 監禁

二 上陸禁止

三 加役

四 減給

第三十八條 監禁ハ三日以下トシ船中ノ一室ニ拘置ス

上陸禁止ハ七日以下トス此期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノミヲ算入ス

加役ハ七日以下トシ常務時間外ニ於テ役務ニ服セシム但一日二時間ヲ超ユルコトヲ得ス

減給ハ給料月額十分ノ一以下トス

第三十九條 前條第一項乃至第三項ノ期間ニハ初日ヲ算入ス

第四十條 懲戒ノ適用ハ行爲ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定ム但二種以上ノ懲戒ヲ併科スルコトヲ得ス

第四十一條 海員カ兇器、爆發若クハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物又ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ニ於テ其物ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ得

第四十二條 海員カ人身又ハ船舶ニ危害ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲サントスルトキハ船長ハ必要ノ期間内其海員ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

第四十三條 船長ハ必要アルトキハ旅客其他船中ニ在ル者ニ對シテモ前二條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキ又ハ船長ノ許可

○船員法

ヲ得スシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ乗船ヲ強制スルコトヲ得
第四十五條 船長ノ命令ニ服從セサル者アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ船長ハ海軍ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六章 罰 則

- 第四十六條 詐僞ノ所爲ヲ以テ船員手帖ノ交付ヲ受ケタル者ハ十五日以上六ヶ月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 詐僞ノ所爲ヲ以テ海員名簿ニ公認ヲ受ケ又ハ船員手帖ニ認證ヲ受ケタル者亦同シ
- 第四十七條 第七條、第九條、第十條、第十二條、第二十九條、第三十二條又ハ第三十五條ノ規定ニ反シ船員手帖ノ交付、訂正若クハ公認ノ認證ヲ申請シ又ハ船員手帖ヲ返還スルコトヲ怠リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第四十八條 虛僞ノ海員名簿又ハ船員手帖ヲ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 公認ヲ受ケタル海員名簿又ハ認證ヲ受ケタル船員手帖ヲ増減、變換シテ行使シタル者亦同シ
- 第四十九條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ參拾圓以上參百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 船長カ正當ノ理由ナクシテ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ船中

- ニ備ヘサルトキ又ハ之ヲ毀棄シタルトキ
- 二 船長カ第十四條ノ規定ニ反シテ書類ノ提出ヲ拒ミタルトキ
- 三 船長カ商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 四 船長カ第十七條第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テ虛僞ノ報告ヲ爲シタルトキ
- 第五十條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ拾圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 船長カ商法第五百六十一條ノ検査ヲ爲サスシテ發航ヲ爲シタルトキ
- 二 船長カ船舶ヲ安全ニ碇泊セシメ且商法第五百六十三條ノ規定ニ從ヒ其職務ヲ委任セスシテ船舶ヲ去リタルトキ
- 三 船長カ第十五條ノ規定ニ反シテ甲板ニ在ラサルトキ
- 四 船長カ必要ナクシテ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
- 第五十一條 船長カ第十六條第一項、第十七條第一項、第二項、第二十二條又ハ第三十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五十二條 船長カ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス
- 第五十三條 船長カ第二十條ノ規定ニ違反シテ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡サ、ルトキハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五拾圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○船員法

船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ告知ヲ爲サ、ルトキハ拾圓以上參百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 船長カ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ參拾圓以上參百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 船舶ニ急迫ノ危険アル場合ニ於テ海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ其船舶ヲ去リタルトキハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五十六條 第十九條又ハ第二十條ノ場合ニ於テ船長カ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ爲スニ當タリ海員カ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 船長カ第二十三條第一項ノ規定ニ反シテ送還ノ命令ヲ拒ミタルトキハ參拾圓以上參百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條 船舶所有者又ハ船長カ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ拾圓以上參百圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條 船長カ第三十三條ニ定メタル證明書ヲ交付セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタル證明書ヲ交付シタルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待ツテ之ヲ論ス

第六十條 船長カ第三十四條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 海員カ雇入手續ノ終リタル後正當ノ理由ナクシテ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 船長カ第五章ニ定メタル處分ヲ爲スニ當タリ海員ニ助力ヲ爲スヘキコトヲ命シタル場合ニ於テ海員カ其命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條 船員、旅客其他船中ニ在リタル者カ本法ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ呼出ヲ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十五條 船長カ正當ノ理由ナクシテ船舶ヲ遺棄シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第六十六條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ兇器、爆發又ハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ重禁錮ニ處ス

○船員法

危險物ヲ所持スルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル屬具ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ船舶ノ運航ヲ妨ケタルトキハ一等ヲ加ヘ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ重懲役ニ處ス

第六十八條 船舶ノ運航ヲ妨ケル目的ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重懲役ニ處シ因テ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ刑法第六十九條ノ例ニ依リ處斷ス

第六十九條 海員カ上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

刑法第三百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第七十條 海員カ上長ニ對シテ毆打創傷ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十一條 船長カ旅客、海員其他船中ニ在ル者ニ對シテ其職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ拾圓以上參百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス

第七十二條 海員カ相黨與シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷シ首魁ハ一等ヲ加フ

一 職務ニ服セス又ハ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

二 脫船シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

三 第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十三條 船員カ著シク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆没シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ拾圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十四條 本章ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス
附則略ス

◆船員法施行細則

明治三十二年六月公布
大正十二年十月迄數度改正 (省令)

第一章 總 則

第一條 船員法又ハ本則ノ規定ニ依ル申請ハ特ニ明文ヲ掲クル場合ヲ除ク外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二條 代理人ニ依リテ前條ノ申請ヲ爲ストキハ代理人ハ其權限ヲ證スル書面ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第三條 船員法及本則中最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ト稱スルハ最初ニ到着シタル管海官廳アル港ノ管海官廳ヲ謂フ

第四條 本則第二章乃至第四章ノ事務ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ依リ理由アリト認ムルトキハ休暇日ト雖モ之ヲ行フコトアルヘシ

第二章 船員手帖

第五條 船員法第三條第一項又ハ第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請セントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官廳ニ差出スヘシ

船員法第三條第二項但書ノ場合ヲ除ク外申請者ハ同項ニ掲クル事項ヲ證スル戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ申請書ニ添附スヘシ但申請書ニ其證明ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第六條 未成年者ハ前條ノ規定ニ從フ外左ノ事項ヲ記載シ法定代理人ノ署名捺印シタル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

ル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

一 未成年者ノ氏名及本籍地

二 船員ト爲ルコトヲ許シタル旨

三 船員ト爲ルコトヲ許シタル年月日

四 法定代理人ノ本籍地及住所

第七條 船員法第七條ニ依リ船員手帖ノ訂正ヲ申請セントスル者ハ船員手帖ヲ添ヘ同法第三條第二項但書ノ場合ヲ除ク外訂正ヲ要スル事項ヲ證スル戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ最寄管海官廳ニ差出スヘシ

第八條 船員法第九條又ハ第十條ニ依リ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請セントスル者ハ第十一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官廳ニ差出シ且書換ヲ申請スル場合ニハ船員手帖ヲ差出スヘシ

第五條第二項及第六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但船員法第十一條但書ノ場合ハ此限ニアラス

海員雇入期間中第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニハ申請書ニ船長連署スルコトヲ要ス

第八條ノ二 船員カ汽船ニ乗組マムトスルトキハ船員手帖ニ新ニ撮影シタル自己ノ寫眞(名刺形又ハ手札形、單獨、)ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テハ船員手帖ニ前項ノ寫眞ヲ貼附シ年月日ヲ記載シタル後之ヲ當該受有者ニ還付ス

前二項ノ規定ハ船員手帖ニ貼附シタル寫眞カ滅失若ハ毀損シ又ハ貼附ノ日ヨリ十年

○船員法施行細則

ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス
 第九條 船員法第十二條又ハ第三十二條ニ依リ船員手帖ヲ返還セントスル者ハ其事由ヲ疎明シ最寄管海官廳ニ海員手帖ヲ差出スヘシ
 第九條ノ二 雇入期間中行衛不明トナリタル海員ノ雇止ヲ爲シタル者ハ其雇止公認ヲ申請シタル管海官廳ニ該海員ノ船員手帖ヲ差出スヘシ若シ之ヲ差出スコト能ハサルトキハ其事由ヲ疎明スヘシ
 他人ノ海員手帖ヲ保管スルモノ該船員手帖受有者ノ所在不分明ニシテ之ヲ本人ニ還付スル能ハサルトキハ最寄管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ
 前二項ノ規定ニ依リ船員手帖ヲ受領シタル管海官廳ハ受領ノ日ヨリ一箇年内ニ本人又ハ代理人ヨリ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ廢棄スヘシ
 第九條ノ三 海員カ最後雇止ノ公認ヲ受ケタル日ヨリ引續キ三年間雇入ノ公認ヲ受ケサルトキハ其ノ受有スル船員手帖ハ之ヲ無効トス雇入雇止ノ公認ヲ受クルヲ要セサル船員カ最後下船ノ日ヨリ引續キ三年間乗船セサルトキ亦同シ
 雇入雇止ノ公認ヲ受クルヲ要セサル船員ハ乗船又ハ下船ノ日ヨリ十四日以内ニ第十二號又ハ第十三號書式ニ依リ最寄管海官廳ニ届出ヲ爲スヘシ但シ船長就職又ハ退職ノ認證ヲ申請シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 前項ノ規定ニ依リ乗船若ハ下船ノ届出又ハ退職認證ノ申請ヲ爲ササルトキハ第一項ノ期間ハ船員手帖交付ノ日又ハ最後乗船ノ届出若ハ最後就職認證ノ申請書ニ掲クル乗船若ハ就職ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十條 船員手帖餘白ナキニ至リタルトキハ船員ハ現ニ受有スル船員手帖ヲ最寄管海官廳ノ檢閱ニ供シ更ニ其交付ヲ申請スヘシ
 第十一條 本章ニ掲クル申請ハ日本ニ於ケル管海官廳ニ之ヲ爲スヘキモノトス
 第十二條 船員手帖ノ様式ハ第二號書式ニ依ル

第三章 船 長

第十三條 船長ハ海員名簿、屬具目錄、航海日誌又ハ旅客名簿ヲ船中ニ備ヘタルトキ遲滞ナク書式ニ從ヒ必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ
 前項ニ依リ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ遲滞ナク之ヲ訂正スヘシ
 第十四條 左ノ場合ニ於テ船長ハ事實ノ發生後遲滞ナク書式ニ從ヒ航海日誌ニ事實ノ顛末、發生ノ年月日、時場所其他關係ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
 二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ
 三 衝突其他ノ海難ニ罹リタルトキ
 四 豫定セサル港ニ寄港シタルトキ
 五 船舶ニ急迫ノ危險アリタル爲メ船長ニ於テ船舶ヲ去リタルトキ
 六 船長ニ於テ海員ヲ懲戒シタルトキ
 七 船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲シタルトキ
 八 船員法第四十五條ニ依リテ援助ヲ求メタルトキ
 九 船中ニ於テ犯罪アリタルトキ

○船員法施行細則

- 十 船中ニ於テ出生アリタルトキ
- 十一 船中ニ於テ死亡アリタルトキ及死亡者ノ遺産ヲ處分シタルトキ
- 十二 前各號ニ掲クル場合ノ外船中ニ於テ異常ノ事變發生シタルトキ
- 第十五條 船長ハ旅客乗船シタルトキハ其乗船後、下船シタルトキハ其下船後遲滯ナク旅客名簿ノ書式ニ定ムル事項ヲ記載スヘシ
- 第十六條 本章ニ掲クル書類ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ欄外ニ其旨及字數ヲ記載シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ様抹消スヘシ
- 第十三條 第二項ニ依リ書類ヲ訂正シタルトキハ前項ノ規定ニ從フ外其行端ニ訂正ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ船長之ニ認印スヘシ
- 第十七條 管海官廳ニ於テ船員法第十六條第一項ニ依リ航海日誌ノ檢閲ヲ爲シタルトキハ之ニ檢閲ヲ爲シタル旨及檢閲ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ船長ニ還付ス
- 第十八條 船員法第十七條第一項又ハ第二項ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス前項ノ書面及船員法第十八條ノ報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スルコトヲ要ス
 - 一 船舶ノ番號、種類及名稱
 - 二 船籍港
 - 三 船舶所有者ノ氏名又ハ名稱

- 四 船長ノ氏名、住所並ニ海技免狀ノ種類及機關ニ關スル事項ニ付テハ機關長ノ氏名、住所並ニ海技免狀ノ種類
- 五 船舶ノ發航港並ニ到達港及報告スヘキ事實ノ發生シタル場所並ニ年月日時
- 六 報告スヘキ事實ノ顛末
- 第十九條 報告書ノ認證ハ報告書ニ認證ヲ爲シタル旨及認證ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ爲ス
- 第二十條 海員船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ遲滯ナク重立チタル海員二名以上ノ立會ヲ以テ其遺産ヲ取調ヘ遺産目錄ヲ作ルヘシ
- 遺産目錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印シ遺産ノ取調ニ立會ヒタル海員之ニ連署スルコトヲ要ス
 - 一 死亡シタル海員ノ氏名、本籍地、住所及死亡ノ年月日時
 - 二 遺産ノ品名及各品ノ數量、若シ金錢ナルトキハ其金額
 - 三 遺産目錄ヲ作りタル年月日
- 第二十一條 船長ハ戶籍法ノ規定ニ依リ死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ戶籍吏、公使又ハ領事ニ送付スル場合ニ於テハ其港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ遺産目錄ヲ差出スヘシ
- 船中ニ死亡者アリタルモ前項ニ掲クル謄本ノ送付ヲ要セサルトキハ船長ハ遺産目錄ヲ作りタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキ場合又ハ航行中ニ之ヲ作りタル場合ニ在リテハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ遺産目錄ヲ差出スヘシ

○船員法施行細則

第二十二條 前條ニ依リ遺產目錄ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ其管海官廳又ハ其指定スル管海官廳ニ遺產ヲ差出スヘキコトヲ船長ニ命スルコトヲ得

第二十二條ノ二 船員法第二十三條第一項ニ依リ日本臣民ノ送還スヘキコトヲ命セラレタル船長カ公使、領事又ハ貿易事務官ノ指定シタル港ニ到着シタルトキハ其港ニ於ケル警察署ニ送還ノ事由ヲ疎明シ被送還人ヲ引渡スヘシ

前項ニ依リ被送還人ヲ引渡シタル船長カ被送還者ヨリ送還費用ノ償還ヲ得サルトキハ被送還者ノ氏名出生年月日、出生地、身分、本籍地、住所、扶養義務者ノ氏名、住所及送還ノ事實ヲ記載シタル書面ヲ作り之ヲ被送還者ヲ引渡シタル警察署ニ提出シテ其證明ヲ申請スルコトヲ得

船長カ明治三十三年勅令第四百十五號ノ規定ニヨリ臺灣總督府、北海道又府縣ニ送還費用ノ請求ヲ爲ス場合ニハ請求書ニ前項ノ書類ヲ添付スヘシ

第二十三條 船長就職又ハ退職ノ認證ヲ申請セントスルトキハ就職ノ場合ニハ第九號書式退職ノ場合ニハ第十號書式ノ申請書ニ就職又ハ退職及其年月日ヲ證スル書面ヲ添ヘテ船員手帖ヲ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

就職ノ認證ヲ申請セントスル場合ニハ船長ハ前項ノ規定ニ從フ外其海技免狀ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

第二十四條 第十九條ノ規定ハ前條ノ認證ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四章 海員

第二十五條 海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第三號書式ノ申請書

二 被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第二十六條 海員名簿及前條第一號ノ書面ニ被雇者ノ氏名及之ニ關スル事項ヲ記載スルニハ左ノ順序ニ從フヘシ

第一 甲板部海員

第二 機關部海員

第三 事務部海員

同一ノ部ニ屬スル海員間ニ在リテハ上長ヲ先ニスヘシ

第二十七條 當事者代理人ヲシテ海員雇入ノ公認ヲ受ケシメントスルトキハ其理由ヲ記載シ且其權限ヲ證スル書面ヲ代理人ニ交付シ代理人ハ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二十八條 海員雇入ノ公認ヲ爲スニ當リ管海官廳ニ於テ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者ニ讀聞カスニハ被雇者ニ付テハ第二十六條ノ順序ニ依リ之ヲ爲ス

當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ雇者ヲ先ニシ被雇者ヲ後ニス被雇者間ニ在リテハ第二十六條ノ順序ニ依ル

第二十九條 被雇者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第二十五條第二號ノ書類ト共ニ之

○船員法施行細則

ヲ雇者ニ還付ス

第三十條 船員法第二十九條ニ依リ雇入ノ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ海員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第三十一條 船員法第三十五條ニ依リ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ書式ニ從ヒ船員手帖ニ現在ノ契約條項其他ノ事項ヲ記載シ最寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ船長ハ現在ノ契約條項ヲ記載シタル海員名簿ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第三十二條 船員法第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請シタル者其雇入期間中船員手帖ノ交付アリタルトキハ遲滞ナク前條第一項ノ手續ヲ爲シ公認ノ認證ヲ申請スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 左ノ場合ニ於テハ船員雇止ノ公認ヲ申請スヘシ

- 一 海員雇入期間カ滿了シタルトキ
 - 二 海員カ死亡シタルトキ
 - 三 海員雇入契約ヲ解除シタルトキ
 - 四 海員雇入契約カ終了シタルトキ
 - 五 雇入期間中ニ船舶カ船員法ノ適用ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキ
- 第三十四條 海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル

事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ掲クル事實ノ發生シタル港ノ管海官廳其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中其事實發生シタルトキニハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第四號書式ノ申請書

二 被雇者ニ關シ記載ヲ爲シタル航海日誌

第三十五條 第二十六條乃至第二十八條及第三十條ノ規定ハ海員雇止ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條ノ二 管海官廳アラサル港ニ於テ雇止ラレタル海員ハ船長ニ對シ左ノ事項ヲ記載シタル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

- 一 雇入年月日
- 二 職務
- 三 雇止年月日
- 四 雇止事由
- 五 雇止地

前項ノ請求ヲ受ケタル船長ハ證明書ヲ作り署名捺印シテ之ヲ請求者ニ交付シ其後第三十四條及第三十五條ニ依リ該海員ノ雇止公認ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其公認アリタル管海官廳ノ名稱及年月日ヲ該海員ニ通知スヘシ

第一項ニ掲クル海員カ前項ノ證明書及雇止公認ノ通知ヲ受ケタルトキハ船員手帖ニ

○船員法施行細則

書式ニ定ムル事項ヲ記載シ前項ノ證明書及通知書ヲ添ヘ其後最初ニ到着シタル港ノ
 管海官廳ニ提出シテ雇止公認ノ認證ヲ申請スヘシ
 第三十六條 被雇者總員又ハ船員法第二十七條第一項但書ノ場合ニ在リテハ出頭シタ
 ル當事者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇止ノ公認ヲ爲シタ
 ル年月日竝當事者ノ一方出頭セスシテ公認ヲ爲シタルトキハ其事由ヲ記載シ管海官
 廳ノ印ヲ捺シテ第三十四條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス
 第三十七條 船員法第三十條第一項ニ依リ雇止ノ公認ヲ申請スル者ハ其申立ヲ確ムヘ
 キ證憑アルトキハ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ
 第三十八條 管海官廳ニ於テ船員法第三十條第二項ニ依リ當事者雙方ヲ呼出シタルト
 キハ當事者ノ争ニ關シ各申立ヲ爲サシムヘシ此場合ニ於テ申請者ノ相手方ハ其申立
 ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ提出スルコトヲ得
 第三十九條 管海官廳ニ於テ前條ノ手續ヲ爲シタル後申請ヲ理由アリトスルトキハ海
 員名簿ノ書式ニ定ムル事項、船員法第三十條ニ依リ海員雇止ノ公認ヲ爲シタルコト
 及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ還付ス
 第四十條 海員雇入契約更新ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ノ書式ニ
 定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ更新ヲ爲シタルトキハ港ノ管海官廳其港ニ管
 海官廳ナキトキ又ハ航行中更新ヲ爲シタルトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官
 廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第五號書式ノ申請書
 二 第二十五條第二號ノ書類
 三 第三十四條第二號ノ書類
 第四十一條 海員雇入契約變更ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ノ書式
 ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ變更ヲ爲シタル港ノ管海官廳其港ニ管海官
 廳ナキトキ又ハ航行中變更ヲ爲シタルトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ
 之ヲ提出スヘシ
 一 第六號書式ノ申請書
 二 契約ノ變更被雇者ノ職務ニ係ル場合ニ於テ被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其
 免狀
 第四十二條 第二十六條乃至第二十九條ノ規定ハ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認
 ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第四十條第二號及第三號ノ書類又ハ前條第二號ノ書類ハ更新又ハ變更ノ公認アリタ
 ルトキ之ヲ雇者ニ還付ス
 第四十二條ノ二 海員雇入契約ノ更新若ハ變更ノ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ
 海員ハ船員手帖ノ相當欄ニ更新又ハ變更ノ年月日、場所及其要旨ヲ記載シ公認ヲ爲
 シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ
 第四十三條 海員雇入雇止又ハ雇入契約ノ更新若ハ變更ノ公認ノ認證ヲ申請シタルト

キハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船長ノ證明書ニ依リ船員手帖ノ記載事項ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ船員手帖ニ公認ノ認證年月日及第三十一條、第三十二條又ハ第三十五條ノ二ノ場合ニ在リテハ公認ノ認證ノ事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シ雇止ノ場合ニハ之ヲ海員ニ還付シ其他ノ場合ニハ之ヲ雇者ニ交付ス

第四十三條ノ二 船員カ船員手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ法令ニ特別ノ規定ナキ場合ニ於テモ管海官廳ニ申請シテ船員手帖ニ記載アリタル事項ニ關スル認證ヲ受クルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲スニハ認證ヲ受クヘキ事項ヲ船員手帖ニ記載シテ提出シ公認アリタル海員名簿、船長ニ於テ證明シタル海員名簿ノ謄本、毀損シタル船員手帖又ハ相當官廳ノ證明書ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ認證ノ申請ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ前項ノ書類ニ依リ新手帖ノ記載事項ヲ證查シ正當ト認ムルトキハ前條ノ手續ニ依リ且認證ノ事由ヲ記載シテ認證ヲ爲ス

第四十四條 船員法第三十四條第一項ニ依リ公認ヲ申請セントスルトキハ左ノ書類ヲ添ヘ船員名簿ヲ作りタル港ノ管海官廳、其港ニ官海管廳ナキトキ又ハ航行中之ヲ作りタルトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

- 一 第七號書式ノ申請書
- 二 第二十五條第二號ノ書類

三 被雇者ノ船員手帖現存スルトキハ其手帖

前項ノ海員名簿ニハ現ニ雇入期間中ニ係ル海員ニ付テ書式ニ定ムル事項及原管海官廳ニ海員名簿ヲ提出スル場合ニ在リテハ被雇者總員ノ氏名其他ノ場合ニ在リテハ前項ニ依リ提出スル船員手帖ヲ受有スル被雇者ノ氏名ヲ之ニ記載スヘシ

第二十六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 第二十七條及第二十八條ノ規定ハ被雇者全部又ハ一部ノ船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ前條ノ海員名簿ヲ提出スルトキハ此限ニアラス

第四十六條 船員法第三十四條第一項ノ申請ニ依リ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ同項ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第四十四條第二號及第三號ノ書類ト共ニ之ヲ船長ニ還付ス

第四十七條 第十六條第一項ノ規定ハ認印及欄外ノ記載ニ關スル規定ヲ除ク外第二十五條、第三十條、第三十一條、第三十二條、第三十四條、第三十五條、第四十條、第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲スニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニハ管海官廳ニ於テ公認又ハ公認ノ認證ヲ爲スニ當リ之ヲ認印スルニアラサレハ文字ノ訂正挿入又ハ削除ハ其效ヲ有セス

第四十七條ノ二 管海官廳ハ年月日及管海官廳ノ名稱ヲ刻シタル印ヲ以テ第十七條、

第十九條、第二十四條、第二十九條、第三十六條、第三十九條、第四十二條第一項、第四十三條、第四十三條ノ二第三項、第四十六條ノ年月日ノ記載及捺印ニ代フルコトヲ得

第四十八條 公認及公認ノ認證ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ依リ理由アリト認ムルトキハ管海官廳外ノ場所ニ於テ之ヲ行フコトアルヘシ

第五章 手 數 料

第四十九條 手數料ノ額左ノ如シ

- 一 船員手帖ノ交付又ハ書換 一部ニ付 貳拾錢
- 二 船員手帖ノ訂正 船員法第三條第二項ノ事項一箇ニ付 五錢
- 三 報告書ノ認證 一通ニ付 壹圓
- 四 船長就職又ハ退職ノ認證 一件ニ付 貳拾錢
- 五 公 認 被雇者一人ニ付 拾錢
- 六 公認ノ認證 被雇者一人ニ付 拾錢
- 外國ニ於テ手數料ヲ納付スヘキトキハ其額ハ左ノ規定ニ依ル
 - 一 報告書ノ認證 一通ニ付 貳圓
 - 二 船長就職又ハ退職ノ認證 一件ニ付 四拾錢

三 公 認

但船員法第三十四條ノ場合ニ於テハ

被雇者一人ニ付	貳拾錢
被雇者一人ニ付	拾錢
一件ニ付	拾錢

前二項ノ手數料ハ第四條又ハ前條ノ場合ニ於テハ前二項ニ定ムル所ノ二倍トス

四 公認ノ認證

第五十條 前條第一項第一號ノ手數料ハ第八號書式ノ手數料納付書ニ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ
前條第一項第二號乃至第六號ノ手數料ハ遞信大臣ノ告示スル場所ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ、其他ノ場所ニ於テハ現金ヲ以テ之ヲ納付スヘシ
前二項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但申請者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第六章 罰 則

第五十一條 第十三條第二項、第二十條第一項、第二十一條、第二十二條ノ二第一項、第三十一條第二項又ハ第三十二條ニ違反シタル者第二十二條ノ命令ニ違反シテ管海官廳ニ遺産ヲ差出ササル者又ハ第三十五條ノ二第二項ニ定メタル證明書ノ交付又ハ公認ノ通知ヲ爲ササル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
附則略ス

第二號 船員手帖書式略ス

○船員法施行細則

第一號書式(用紙美濃版)

船員手帖交付申請書

船員手帖ノ番號	氏名印
本籍地	
身分	男女別
出生ノ年月日	
船員手帖交付ノ年月日	

備考
 氏名ニハ片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スヘシ
 身分欄ニハ戸主家族ノ別、家族ナルトキハ月主ノ氏名及月主トノ續柄ヲ記載スヘシ
 船員手帖ノ番號同交付年月日欄ハ管海官廳ニ於テ記載スルモノナルニ付申請人ハ何等記載ヲ要セス

第三號書式(用紙美濃判)

男女別欄ニハ男子ナルトキハ記入ニ及ハス

乘甲板		組機關		員事務		實部		數計	
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
計名	第號	第號	第號	第號	第號	第號	第號	第號	第號
氏名	被雇者名	船員手帖番號	職務	海技免狀種類	給料手當	雇入期間	雇入地	雇入年月日	船種船名
第號	第號	第號	第號	第號	第號	第號	第號	第號	第號
船種船名	船丸	船種船名	船丸	船種船名	船丸	船種船名	船丸	船種船名	船丸
船舶番號	船舶番號	船舶番號	船舶番號	船舶番號	船舶番號	船舶番號	船舶番號	船舶番號	船舶番號
船舶使用ノ目的	航路又ハ航路定限	航路又ハ航路定限	航路又ハ航路定限	航路又ハ航路定限	航路又ハ航路定限	航路又ハ航路定限	航路又ハ航路定限	航路又ハ航路定限	航路又ハ航路定限
總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數
船舶所有者ノ氏名又ハ名稱	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱

(管海官廳名)

御中

海員雇入公認申請書

雇者(氏名印)

備考

海員名簿ニ飲食物又ハ其ノ代料ニ關スル記事及特別契約情項ヲ記載シタルトキハ其寫ヲ添付スヘシ
 船員手帖番號欄ニハ船員手帖ヲ交付シタル管海官廳ノ所在地ヲ其ノ番號ニ冠付シ之ヲ記載スヘシ例ヘハ東京ノ管海官廳ニテ交付シタル第一號ノ船員手帖ニハ東京第一號ト記載スルカ如シ第四號乃至第七號及第九號乃至第十三號書式ニ付亦同シ雇者氏名ノ肩書ニハ船舶所有者又ハ船長ト記載シ若シ代理人トナルトキハ其ノ職名又ハ職業名ヲ記載スヘシ例ヘハ船長何某代理人運轉士何某ト記載スルカ如シ第四號乃至第七號書式ニ付亦同シ
 船舶使用ノ目的欄ニハ船舶ノ用途例ヘハ旅客船貨物船漁船等ノ區別ヲ記スヘシ第九號及第十二號書式ニ付亦同シ

第四號書式(用紙美濃判)

(管海官廳名)				年 月 日	雇者(氏名印)	
御中				海員雇止公認申請書		
番 號	船 種 船 名	雇 止 日 年 月 日	雇 止 地	第 號	船 種 船 名	雇 止 日 年 月 日
乘 甲 板	雇 入 公 認 ノ 年 月 日 官 廳 名	船 員 手 帖 ノ 番 號	雇 止 事 由	第 號	船 種 船 名	雇 止 日 年 月 日
組 機 關	被 雇 者 氏 名	職 務		第 號	船 種 船 名	雇 止 日 年 月 日
實 務				第 號	船 種 船 名	雇 止 日 年 月 日
數 計				第 號	船 種 船 名	雇 止 日 年 月 日
人				第 號	船 種 船 名	雇 止 日 年 月 日
人				第 號	船 種 船 名	雇 止 日 年 月 日
人				第 號	船 種 船 名	雇 止 日 年 月 日
人				第 號	船 種 船 名	雇 止 日 年 月 日

第五號書式(用紙美濃判)

年 月 日

雇者

(氏名印)

(管海官廳名)

御中

海員雇入契約更新公認申請書

番 號	船種船名	更新年月日	更新地	期間滿了ノ日
第 號	船 丸	年 月 日		
雇入公認ノ年 月日、官廳名	被雇者氏名	船員手帖ノ番號	職 務	更新契約ノ期間
		第 號		
		第 號		
		第 號		
計	名			

第六號書式(用紙美濃判)

三〇〇

年 月 日

(管海官廳名)

御中

雇者(氏名印)

海員雇入契約變更公認申請書

計	名	第 號	第 號	第 號	被雇者氏名	雇入公認ノ年月日、官廳名	第 號	第 號	第 號	船員手帖ノ番 號	海技免狀種類	變 更	職 務	又ハ給料	變 更	船種船名	變更年月日	變 更 地
							第 號	第 號	第 號									

第七號書式(用紙美濃判)

雇者(氏名印)

年 月 日

(管海官廳名)
御中

海員名簿滅失(毀損)ニ付公認申請書

計	名	第 號	第 號	第 號	被雇者氏名	雇入公認ノ年月日、官廳名	第 號	第 號	第 號	船員手帖ノ番 號	職 務	給 料	雇入期間	船種船名	航路又ハ航路定限	船舶所有者ノ名名又ハ名稱
							第 號	第 號	第 號							

○船員法施行細則

三〇一

(備考) 船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニハ當該被雇者ノ氏名ノ上ニ〇ヲ附スヘシ
第八號書式

手数料納付書

私儀 申請候ニ付右手敷料金 圓 錢ニ相當スル收入印紙貼用納附候也

印紙

年 月 日

(氏名印)

(管海官廳名)
御中

(備考) 船員手帖ノ訂正ヲ申請スル場合ニハ訂正事項何箇、報告書何通公認ヲ申請スル場合ニハ報告書何通、公認ヲ申請スル場合ニハ被雇者何人ト印紙ノ下ニ記載スヘシ

第九號書式(用紙美濃判)

年 月 日

船 丸 船長(氏名印)

(管海官廳名)

御中

船長就職認證申請書

第 號	船舶番號	船種船名	船舶使用ノ	航路又ハ	總噸數	船舶所有者ノ 氏名又ハ名稱
	第 號	船 丸	目的	航路定限		
第 號	就職年月日	年 月 日	就職ノ地			
	船員手帖番號	海技免狀種類	給 料	手 當		

第十號書式(用紙美濃判)

年 月 日		船 丸		船 長 (氏名印)	
(管海官廳名)		御 中		船 長 退 職 認 證 申 請 書	
第 號	船 丸	退 職 年 月 日	退 職 ノ 地	第 號	船 丸
就職認證ノ年月日 官廳名	船員手帖番號	年 月 日	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱	船 舶 番 號	船 種 船 名

第十一號書式(用紙美濃紙)

船員手帖再交付(書換)申請書

船員手帖 交付ノ年月日	身 分	本 籍 地	船員手帖 番 號	氏 名 印
年 出 生 日ノ				
原手帖交付管海官廳名、番號、滅失(毀損)ノ年月日、場所及事由				

(備考) 氏名ニハ片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スヘシ
 身分欄ニハ戸主家族ノ別家族ナルトキハ戸主ノ氏名及戸主トノ續柄ヲ記載スヘシ
 原手帖番號不明ノ場合ニ於テハ原手帖番號不明ト記載スヘシ又船員手帖滅失ノ事由ハ可成詳細ニ記載スルヲ要ス
 船員法施行細則第八條第三項ノ場合ニ在リテハ船員手帖滅失(毀損)ノ事由ヲ記載シタル次行ニ當該船長ハ「右相違ナキコトヲ證明ス」ト記載シ署名捺印スヘシ
 船員手帖ノ番號及同交付年月日欄ハ管海官廳ニ於テ記載スルモノナルニ付申請人ハ何等記載ヲ要セス

第十二號書式(用紙美濃判)

年 月 日		(管海官廳名)		(氏 名 印)	
御 中		乘 船 届			
船舶番號	船種船名	船舶使用ノ目的	航路又ハ航路制限	總噸數	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
第 號	船 丸				
乘船年月日	年 月 日	乘船地			
船員手帖番號	職 務	海技免狀種類	給 料	手 當	
第 號					

第十三號書式(用紙美濃判)

三〇三ノ六

年 月 日		年 月 日		(氏 名 印)	
(管海官廳名)		御 中			
下 船 届					
船舶番號	船種船名	下船年月日	下 船 地		
第 號	船 丸	年 月 日			
乘船年月日	船員手帖番號	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱			
年 月 日	第 號	號			

◆船員證明規則

明治三十七年七月公布 (省令)

第一條 船員手帖ヲ受有シタル者カ之ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ左ニ掲クル事項ノ證明ヲ遞信省ニ申請スルコトヲ得

- 一 海員雇入ノ公認
 - 二 海員雇止ノ公認
 - 三 海員雇入契約更新ノ公認
 - 四 海員雇入契約變更ノ公認
 - 五 船長就職ノ認證 (明治三十七年八月一) 日以後ノ認證ニ限ル
 - 六 船長退職ノ認證 (右ニ同シ)
- 前項ノ申請ヲ爲スニハ船員手帖ヲ交付シタル管海官廳ノ名稱、船員手帖ノ番號及證明ヲ受ケントスル事項ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ
但記載スヘキ事項不明ナルトキハ其旨ヲ記載スヘシ
- 第二條 前條ノ證明ヲ申請スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ
- 一 海員雇入ノ公認 每一件 拾 錢
 - 二 海員雇止ノ公認 每一件 拾 錢
 - 三 海員雇入契約更新ノ公認 每一件 拾 錢

- 四 同契約變更ノ公認 每一件 拾 錢
 - 五 船長就職ノ認證 每一件 四 拾 錢
 - 六 船長退職ノ認證 每一件 四 拾 錢
- 手数料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用シ消印ヲ爲サスシテ之ヲ納付スヘシ但申請者ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ
- 第三條 第一條ノ證明ヲ申請スル者ハ手数料ノ外郵送料ニ相當スル郵便切手ヲ納付シテ證明書ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

○遞信省令第六十二號
 明治三十七年遞信省令第五十號 船員證明規則ニ依ル證明ハ當分ノ間之ヲ行ハス
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 大正十二年九月十九日

◆水夫適任證書交付規則

大正五年二月公布
大正七年四月改正 (省令)

第一條 亞米利加合衆國諸港ニ出入セントスル日本船舶ノ船員ニシテ千九百十五年三月四日ノ亞米利加合衆國海員法ニ依ル水夫適任證書ヲ受有セントスルモノハ其交付ヲ管海官廳ニ申請スルコトヲ得

第二條 水夫適任證書ハ左ニ掲クル資格ノ一ヲ有シ且體格検査ニ合格シタル者ニ之ヲ交付ス

一 總噸數百噸以上ノ沿海航路以上ノ船舶ニ乗組ミ三年以上甲板部員トシテ執務シ年齡滿十九年以上ナルコト

二 沿海航路以上ノ船舶ニ乗組ミ一年以上甲板部員トシテ執務シ且船舶ノ運用ニ關スル試験ニ合格シタルコト

遊覽船、捕鯨船又ハ無甲板漁船ニ乗組ミタル期間ハ前項第一號ノ期間ニ算入セス
第一項第二號ノ試験ハ羅針盤方位、船燈、霧中信號、航路信號、機關傳令、結索、端艇ノ卸方及操縱、航海用語並操舵ニ關スル要領ニ付之ヲ行フ

第三條 水夫適任證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スベシ
前項ノ場合ニ於テ申請者ハ船員手帖又ハ之ニ準スヘキ證明書ヲ管海官廳ノ檢閲ニ供

シ本籍地、出生年月日及乗船履歴ヲ證明スヘシ

第四條 水夫適任證書ハ第二號書式ニ依ル

第五條 水夫適任證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之カ再交付ヲ申請スルコトヲ得

水夫適任證書ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之カ書換ヲ申請スヘシ

水夫適任證書不用トナリタルトキハ遲滞ナク該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第六條 本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納付スヘシ

一 水夫適任證書ノ交付ヲ申請スルトキ 五拾錢
二 水夫適任證書ノ再交付又ハ書換ヲ申請スルトキ 貳拾錢

手数料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

第七條 本令ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

本令ハ大正五年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式 (表)

○水夫適任證書交付規則

海員懲戒法

明治二十九年四月公布 (法律)

第一章 總 則

- 第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ
- 一 正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
 - 二 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ
 - 三 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ
 - 四 海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡サ、ルトキ
 - 五 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡サ、ルトキ
 - 六 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
 - 七 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ
- 第二條 懲戒ハ左ノ三種トス
- 一 免狀行使ノ禁止
 - 二 免狀行使ノ停止

三 譴責

- 第三條 前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所之ヲ定ム
- 第四條 免狀行使ノ停止ハ一月以上三年以下トス
- 第五條 海員審判所ハ左ノ原因アルトキハ審判ヲ行ハ
- 一 確定裁決
 - 二 時効
- 第一條各號ニ該當スルモノハ廢業ノ故ヲ以テ懲戒ヲ免ルコトヲ得ス
- 第六條 時効ノ期間ハ審判ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年トス
- 第七條 海員審判所ノ審判ニ關シ此ノ法律ニ規程ナキモノニ付テハ刑事訴訟法ノ規程ヲ準用ス

第二章 海員審判所ノ組織及管轄

- 第八條 海員審判所ハ地方海員審判所及高等海員審判所ノ二トス
- 第九條 地方海員審判所ハ船舶司檢所ニ置キ高等海員審判所ハ逕信省ニ置ク
- 海員審判所ニハ審判長、審判官、理事官及書記ヲ置ク
- 審判所長、審判官、理事官及書記ノ定員並其ノ任用ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十條 地方海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ三人高等海員審判所ノ審判

○海員懲戒法

ハ審判長及審判官ヲ併セテ五人ノ列席合議ヲ以テ之ヲ行フ

第十一條 地方海員審判所ノ管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 審判ニ付スヘキ事件ノ管轄權ハ其ノ事件ノ生シタル船舶ノ定繫場ヲ管轄ス

ル地方海員審判所ニ屬ス

同一ノ事件ニ付二箇以上ノ地方海員審判所管轄權ヲ有スルトキハ其ノ事件ノ生シタル地ニ最モ近キモノ、管轄トス

第十三條 地方海員審判所ノ理事官又ハ被審人ハ其ノ事件ヲ他ノ地方海員審判所ニ移付スルノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ審判期日前ニ管轄海員審判所ヲ經由シ高等海員審判所ニ申請書ヲ差出スヘシ

高等海員審判所ハ前項ノ申請アリタル場合ニ於テ審判上便益ナリト認ムルトキハ其ノ決定ヲ以テ他ノ地方海員審判所ニ該事件ヲ移付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ該事件ハ移付ヲ受ケタル地方海員審判所ノ管轄權ニ屬ス

第十四條 高等海員審判所ハ左ノ場合ニ於テ理事官又ハ被審人ノ申請書ニ依リ何レノ海員審判所ニ於テ本件ヲ審判スルノ權アルヤヲ決定ス

一 權限アル地方海員審判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ審判權ヲ行フコトヲ得サルトキ

二 二以上ノ地方海員審判權ヲ有シ又ハ有セストノ確定裁決ヲ爲シタルトキ

第三章 審判前ノ手續

第十五條 船舶司檢官、同司檢官補、警察官吏、市町村長及浦役人ニ於テ此ノ法律ニ依リ審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ詳記シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

第十六條 領事官及貿易事務官帝國外ニ於テ前條ノ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證據ヲ集取シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

第十七條 理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證據ヲ集取シ又必要ニ應シ實地臨檢スルコトヲ得

第十八條 理事官ハ職權ヲ以テ審判ノ開始ヲ地方海員審判所ニ申立ツヘシ

前項ノ申立ヲ爲ストキハ證據其ノ他必要ノ書類ヲ添附スヘシ

第四章 地方海員審判所ノ審判

第十九條 地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開始スヘキヤ否ヤヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘシ

開始決定ハ理事官及被審人ニ之ヲ通知スヘシ

第二十條 地方海員審判所ニ於テ下調ノ必要アリト決定スルトキハ審判所長ハ審判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ

第二十一條 下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得

受命審判官ハ必要ナル證憑ヲ集取スヘシ

受命審判官ハ證人鑑定人ヲ呼出シ又ハ通事ヲ命シ若ハ臨檢ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 被審人若ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應セサルトキハ

受命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得

引致狀ハ理事官ノ命令ニ因リ拘引狀執行ノ手續ヲ準用シテ之ヲ執行ス

第二十三條 被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ

爲シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十四條 被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スルコト能ハサル

コトヲ疏明スルトキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之レヲ訊問シ若ハ他ノ地方海員

審判所ニ其ノ訊問ヲ囑託スルコトヲ得

第二十五條 受命審判官下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證憑ヲ審判所長ニ差出シ

審判所長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ

理事官ハ三日以内ニ意見ヲ付シ其ノ書類ヲ審判所長ニ還付スヘシ

第二十六條 地方海員審判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ審判ヲ繼續スルヤ否

ヤヲ決定スヘシ

審判ヲ繼續スヘシト決定スルトキハ審判期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ

審判ヲ繼續セスト決定スルトキハ被審人ヲ放免スヘシ

第二十七條 審判ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ地方海

員審判所ノ決定ニ依リ其ノ公開ヲ停止ス

第二十八條 第二十一條乃至第二十四條ハ地方海員審判所ノ審判ノ場合ニモ亦之ヲ適

用ス

第二十九條 開廷中秩序ノ維持ハ審判長ニ屬ス審判長ハ審判ヲ妨クル者又ハ不當ノ言

語ヲ發スル者ヲ退廷セシムルコトヲ得

第三十條 被審人及證人ノ訊問ハ審判長之ヲ爲ス

審判官及理事官ハ審判長ニ告ケ被審人及證人ヲ訊問スルコトヲ得

第三十一條 理事官ハ審判ニ立會ヒ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十二條 被審人ハ補佐人ヲ用ウルコトヲ得

但シ地方海員審判所ノ認許シタル者ニ限ル

第三十三條 地方海員審判所ハ呼出ヲ受ケタル被審人審判期日ニ出頭セサルトキハ闕

席裁決ヲ爲スヘシ

但シ被審人ノ疾病其ノ他ノ故障ニ依リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ

其ノ審判ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得

第三十四條 刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審判ヲ開始スルコトヲ得ス

被審人刑事訴訟ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ判決ヲ終ルマテ審判ヲ中止スヘシ

第三十五條 理事官及被審人ハ本案ノ裁決アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ審判ヲ行フ

ヘカラサルノ申立ヲ爲スコトヲ得

地方海員審判所ハ職權ヲ以テ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 地方海員審判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ裁決ヲ待タス直ニ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

第三十七條 裁決ニハ其ノ理由及證據ヲ明示スヘシ

第三十八條 裁決及裁決始末書ノ原本ハ審判ヲ爲シタル地方海員審判所之ヲ保存スヘシ

第五章 高等海員審判所ノ審判

第三十九條 理事官及被審人ハ地方海員審判所ノ裁決ニ對シ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

第四十條 控告ノ期間ハ裁決言渡アリタル日ヨリ七日トス

第四十一條 控訴ノ期間ハ被審人自ラ裁決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十四日トス

第四十二條 高等海員審判所ノ審判ニ付テハ地方海員審判所ノ審判ニ關スル規程ヲ適用ス

第四十三條 高等海員審判所ハ控告ヲ理由アリトスルトキハ原裁決ヲ取消シ更ニ裁決

ヲ爲スヘシ

控告ヲ理由ナシトスルトキハ裁決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第六章 執行處分

第四十四條 懲戒ハ裁決確定ノ後之ヲ執行ス

第四十五條 免狀行使ノ禁止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ遞信省ニ送付スヘシ

免狀行使ノ停止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期限滿了ノ後之ヲ本人ニ還付スヘシ

免狀行使ノ禁止若ハ停止ヲ言渡サレタル者海員審判所ニ免狀ヲ差出サ、ルトキハ海員審判所ハ其ノ免狀ヲ無効ト爲シ官報ニ告示スヘシ

第七章 罰則

第四十六條 海員審判所又ハ受命審判官ヨリ證人トシテ呼出サレタル者及鑑定又ハ通事ノ爲呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス若ハ其ノ義務ヲ盡サ、ルトキハ貳圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 證人トシテ海員審判所ニ呼出サレタル者偽證ヲ爲シタルトキ及ヒ鑑定又ハ通事ノ爲メ海員審判所ニ呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦同シ
前二項ノ罪ヲ犯シタルモノ其ノ事件ノ裁決言渡ニ至ラサル前ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス
附則略ス

◆船舶職員法

明治二十九年四月公布
明治三十八年三月改正 (法律)

第一條 日本船舶ニハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク外此法律ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乗組マシムヘシ但船舶検査法第一條各號ニ掲クル船舶ハ此限りニ在ラス
船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ謂フ
第二條 海技免狀ヲ有スル者ニ在ラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス
第三條 海技免狀ハ左ノ十二種トス

- 甲種船長
- 甲種一等運轉士
- 甲種二等運轉士
- 乙種船長
- 乙種一等運轉士
- 乙種二等運轉士
- 丙種船長
- 丙種運轉士
- 機關長
- 一等機關士

○船舶職員法

二等機關士
三等機關士

逋信大臣ハ海技免狀ノ效力ニ制限ヲ加ヘタルモノヲ授與スルコトヲ得

第四條 各船舶ニ乗組マシムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀ノ種類ハ第一號表ニ依ル
第一號表ニ定ムル免狀ハ命令ノ定ムル所ニ依リ他ノ種類ノ免狀ヲ以テ代用スルコト
ヲ得

第五條 海技免狀ハ逋信大臣ノ定ムル試験規程ニ依リ試験ヲ受ケ合格シ且海技免狀原
簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ授與ス

海軍艦船艇ニ乗組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ商船學校全科卒業證書ヲ有シ逋
信大臣ニ於テ試験規程ニ合格スト認ムル者ニハ試験ヲ用井スシテ相當ノ免狀ヲ授與
スルコトヲ得

第六條 左ニ記載スル事項ニ該當スル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス又船舶職員タルコ
トヲ得ス

- 一 公權ヲ剝奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者
- 二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨
償ヲ終ヘサル者
- 三 瘋癲白痴者若ハ身體不具ニシテ執職ニ不適當ナル者
- 四 海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者及其ノ行使停止中ノ者

第七條 左ニ掲クル船舶ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ職員ニ關シ別段ノ規程ヲ設クルコト
ヲ得

- 一 外國各港間ノミテ航行スル船舶
- 二 漁獵其他特殊ノ目的ニ專用スル船舶
- 三 特殊ノ構造ヲ有スル船舶

第八條 此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ相當スル船舶職員ヲ乗組
マシメサルトキハ船舶所有者、船舶共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人、船舶貸借ノ
場合ニ於テハ賃借人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シテ船舶職員トナリタル者
海技免狀行使ノ假停止若ハ差押中其職務ヲ執リタルモノ又ハ海技免狀ヲ貸付シ之ヲ
行使セシメタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第九條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井ス
前條第一項ノ罰則ハ船舶所有者、船舶管理人又ハ賃借人カ法人ナルトキハ其ノ代表
者、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ船舶管理ニ
關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限りニアラス

第九條ノ二 此法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ
之ヲ船舶検査法第十七條ニ掲クル外國船舶ニ準用スルコトヲ得
附則略ス

第一號表

遠洋航路						航路
汽	帆			汽	船	種類
二百噸未滿	五百噸以上	五百噸未滿	二百噸未滿	五百噸以上	五百噸未滿	總噸數
壹船 等 關運 轉 士長	貳船 等 運 轉 士長	壹船 等 運 轉 士長	壹船 等 運 轉 士長	壹機貳船 等 關運 轉 士長	壹機壹船 等 關運 轉 士長	職員名稱
貳等 機 關 士	乙種 壹等 運 轉 士	甲種 壹等 運 轉 士	甲種 壹等 運 轉 士	壹機甲甲 等 關運 轉 士	貳壹甲甲 等 關運 轉 士	免狀種類
						定員

沿海			近海航路				
汽			帆		船		
五百噸未滿	二百噸未滿	百噸未滿	五百噸以上	五百噸未滿	二百噸未滿	千噸以上	千噸未滿
壹船 等 關運 轉 士長	乙種 壹等 運 轉 士	乙種 壹等 運 轉 士	甲種 壹等 運 轉 士	甲種 壹等 運 轉 士	丙種 運 轉 士	壹機甲甲 等 關運 轉 士	壹機壹船 等 關運 轉 士

本表ヲ適用ス	路航水平		路航		
	船汽	船帆	船帆	船	
二百噸以上	二百噸未滿	二百噸以上	二百噸未滿	五百噸以上	
機船	機船	壹船	船	壹機壹船	
關	關	等運轉		等機關轉	
長	長	士長	長	士長士長	
貳種等機關	乙種壹等機關	丙種貳等運轉	丙種運轉	貳壹乙乙種等機關	
士	士	士長	士	士士士長	

一石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニハ其ノ積石數十石ヲ以テ總噸數一噸ノ割合ニ換算シ

船舶職員法施行細則

明治三十八年三月公布
大正三年十月迄數度改正
(省令)

第一章 總則

第一條 船舶職員法第一號表ニ掲クル航路ノ區域ハ本則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク
ノ外船舶検査法施行細則第四十九條乃至第五十二條ノ規定ニ依リ船舶ノ種別ハ船舶法施行細則第一條及第二條ノ規定ニ依ル
本則ニ於テ船舶所有者ト稱スルハ船舶管理人又ハ船舶賃借人ヲ包含ス

第二章 船舶職員

第二條 總噸數五百噸未滿ノ漁船ニ限リ第一號表ニ依リ其職員ヲ乗組マシムルコトヲ得
本則ニ於テ漁船ト稱スルハ船舶検査法施行細則第二條第三項ノ船舶ヲ云フ
第三條 機關ヲ有スル帆船ハ第二號表ニヨリ機關部員ヲ乗組マシムヘシ
第四條 外國各港間ノミナ航行スル船舶ニシテ其航路近海航路、沿海航路又ハ平水航路ニ該當スルトキハ逓信大臣ノ指定ヲ受ケ其航路ノ種別ニ從ヒ船舶職員ヲ乗組マシムルコトヲ得
外國ノ湖川港内ハ平水航路トス

○船舶職員法施行細則

第五條 第二條及第三條ニ掲クルモノ、外船舶職員法第七條第二號及第三號ニ該當スル船舶ニ於テハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケ同法第一號表ニ掲クル職員ヲ減シ又ハ他ノ海技免狀ヲ受有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充ツルコトヲ得

第六條 前二條ニ依リ逓信大臣ノ指定又ハ認可ヲ受ケントスルトキハ船舶所有者ヨリ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ逓信大臣ニ差出シ指定書又ハ認可書ノ交付ヲ受クルヘシ

- 一 船舶ノ種類、名稱、積量(總噸數)及速力
- 二 特殊ノ船舶ナルトキハ其構造
- 三 航行ノ目的(航行期間アルトキハ其期間ヲ合セ)
- 四 航行スヘキ區域及里程
- 五 乗組マシメントスル船舶職員ノ名稱及海技免狀ノ種類(第四條ニ依ル指定申請ノ場合ニハ之ヲ要セス)
- 六 申請ノ事由

第七條 左ノ場合ニ於テハ船舶職員法第四條又ハ本則ニ定ムル船舶職員ノ全部又ハ一部ヲ乗組マシメサルコトヲ得

- 一 外國ニ於テ所有權ヲ取得シタル船舶ヲ到達港マテ回航スルトキ
- 二 外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生シ補充ノ手續中ナルトキ

- 三 日本ト外國トノ間ヲ航行スル船舶外國ノ港ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生シ日本ノ到達港マテ回航スルトキ
 - 四 平水航路又ハ沿海航路ニ該當スル外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニシテ當該外國政府ノ規定ニ依リ相當免狀ヲ受有スル者ヲ乗組マシメタルトキ
 - 五 航行中船舶職員ニ缺員ヲ生シタルトキ
 - 六 他船ニ引カレテ航行スルトキ
 - 七 入渠、修繕又ハ其ノ他ノ事由ニヨリ船舶ヲ航行ノ用ニ供セサルトキ
- 前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ船舶所有者又ハ船長ヨリ海技免狀受有者ヲ雇入レ難キ事由ヲ具シ日本ノ領事官若クハ貿易事務官ノ認可ヲ受ケテ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乗組マシメ又第七號ノ場合ニ於テハ日本ニ在テハ管海官廳、外國ニ在テハ領事官若ハ貿易事務官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 船舶検査法施行細則第三十二條又ハ第三十四條ニ依リ船舶ヲ回航セントスルニ當リ旅客及貨物ヲ搭載セサルトキハ近海航路以下ノ航路ニ限り沿海航路又ハ平水航路ニ相當スル船舶職員ヲ乗組マシムルコトヲ得

第三章 海技免狀

第八條 船舶職員法第三條第二項ニ依リ效力ニ制限ヲ加ヘ授與スル海技免狀ハ左ノ如シ

○船舶職員法施行細則

一 甲種船長免狀 汽船又ハ帆船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
 二 甲種一等運轉士免狀 汽船又ハ帆船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
 三 甲種二等運轉士免狀 汽船又ハ帆船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
 四 乙種一等運轉士免狀 一定區域ノ湖川港内ノミテ航行スル汽船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ

五 乙種二等運轉士免狀

沿海航路若ハ平水航路ヲ航路定限トナス總噸數三十噸未滿ノ汽船又ハ一定區域ノ湖川港内ノミテ航行スル汽船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ

五ノ二 丙種運轉士免狀

沿海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數五十噸未滿ノ帆船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ

六 三等機關士免狀

湖川港内ノミテ航行スル汽船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ

各種運轉士免狀ハ效力ヲ漁船、漁業汽船又ハ漁業帆船ニ限リタルモノヲ、機關長免狀及機關士免狀ハ效力ヲ發動機船ニ限リタルモノヲ授與スルコトアルヘシ

第九條 高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得

甲種船長免狀ハ他ノ船長免狀及運轉士免狀ニ對シ、甲種一等運轉士免狀ハ他ノ運轉士免狀ニ對シ、甲種二等運轉士免狀ハ各乙種運轉士免狀及丙種運轉士免狀ニ對シ、乙種船長免狀ハ各乙種運轉士免狀ニ對シ、乙種一等運轉士免狀ハ乙種二等運轉士免

狀ニ對シ、丙種船長免狀ハ丙種運轉士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

機關長免狀ハ各機關士免狀ニ對シ、一等機關士免狀ハ二等機關士免狀及三等機關士免狀ニ對シ、二等機關士免狀ハ三等機關士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

同種免狀ニシテ效力ニ制限ヲ加ヘサルモノハ效力ニ制限ヲ加ヘタルモノニ對シ、效力ヲ汽船ニ限リタルモノハ效力ヲ漁業汽船ニ限リタルモノニ對シ、效力ヲ帆船ニ限

第十條 免狀ノ代用ニ付テハ前條ノ外第三號表ノ定ムル所ニ依ル

第四章 登 録

第十一條 船舶職員法第五條第一項ニ依リ海技免狀ヲ受ケントスル者ハ船舶職員試験ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ第一號書式ノ書面ヲ遞信省ニ差出シテ登録ヲ申請スヘシ

第十二條 船舶職員法第五條第二項ニヨリ海技免狀ヲ受ケントスル者ハ船舶職員試験

ヲ執行スル管海官廳ニ左ノ書類ヲ差出シ體格檢査ヲ申請スヘシ

- 一 第二號書式ノ申請書
- 二 戶籍ノ謄本及船舶職員法第六條第一號及第二號ニ該當セサルコトノ證明書
- 三 海軍艦船艇ニ乗組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シタル者ハ海上勤務ノ履歷書、最後任官ノ辭令書ノ寫

○船舶職員法施行細則

- 四 商船學校全科卒業生ハ卒業證書ノ寫
- 五 海技免狀ヲ受有スル者ハ該免狀ノ寫及該免狀受有後ノ乘船履歷書
前項第三號ノ履歷書ニ付テハ相當證明書、辭令書ノ寫又ハ卒業證書ノ寫ニ付テハ各
原本、第五號ノ乘船履歷書ニ付テハ船舶職員試驗規程第十五條ニ依ル證明書ヲ管海
官廳ノ檢閱ニ供スヘシ
- 體格檢査ヲ受ケ合格シタル者ハ之ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ第一號書式ノ書面ヲ
遞信省ニ差出シテ登錄ヲ申請スヘシ
- 第十三條 船舶職員法第五條第二項ニ依リ海技免狀ヲ受ケントスル者管海官廳ニ於テ
體格檢査ヲ受クルコト能ハサルトキハ該官廳ノ定ムル體格檢査例規ニ依リ相當醫師
ノ檢査ヲ受ケ其成績書ヲ添ヘ該官廳ニ於テ檢査ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ疎明シ
テ前條ノ體格檢査ノ執行ニ代フルコトヲ申請スルコトヲ得
- 管海官廳ハ前項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ體格檢査成績書ニ依リ申請人ノ體格ヲ
審査シ適當ト認ムルトキハ體格檢査ニ合格シタルモノト看做スコトヲ得
- 第十四條 遞信省ニ於テ第十一條又ハ第十二條第三項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左
ノ事項ヲ海技免狀原簿ニ登錄シ第三號書式ノ海技免狀ヲ申請人ニ授與ス
 - 一 海技免狀ノ種類
 - 二 氏名
 - 三 本籍地及族稱(外國人ナルトキハ國籍)

- 四 出生ノ年月日
- 五 船舶職員試驗又ハ體格檢査ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱
- 六 合格ノ年月日
- 第十五條 海技免狀ヲ受有スル者第十一條若ハ第十二條第三項ノ申請ヲ爲シタル場合
ニ於テ現ニ審判開始ノ決定ヲ受ケタル者ナルトキハ前條ノ手續ハ審判不繼續ノ決定
又ハ確定裁決ヲ受クルマテ之ヲ停止ス
前項ノ確定裁決ニヨリ免狀行使ヲ停止セラレタルトキハ尙其執行處分ヲ終ルマテ登
録ヲ停止シ又免狀行使ヲ禁止セラレタルトキハ登錄ノ申請ハ之ヲ却下ス
- 第十六條 第十四條第二號又ハ第三號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ當該免狀ヲ受有
スル者ハ其實事アリタル日又ハ其實事ヲ知リタル日ヨリ三十日以内ニ第四號書式ノ
書面ヲ遞信省ニ差出シテ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ變更ノ登錄ヲ申請スル者ハ登錄事
項ノ變更ニ關スル戶籍ノ謄本若ハ抄本外國人ニ在テハ本國領事ノ證明書ヲ申請書ニ
添付スヘシ
- 第十七條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ナリト認ムルトキハ變更ノ登錄ヲ爲シ必要
ノ場合ニハ海技免狀ヲ書換之ヲ申請人ニ交付ス
申請人前項ノ免狀ヲ受クルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ
- 第十八條 海技免狀ヲ受有スル者左ノ各號ニ該當スルトキハ其實事アリタル日又ハ其
事實ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ抹消

ノ登録ヲ申請スヘシ

- 一 公權ヲ剝奪セラレタルトキ
- 二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 三 船舶職員法第六條第三號ノ事項ニ該當シタルトキ
- 四 免狀行使ノ禁止ヲ言渡サレ其裁決確定シタルトキ
- 五 船舶職員試驗規程ノ規定ニ依リ合格無効トナリタルトキ
- 六 廢業シタルトキ

海技免狀ヲ受有スル者失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ相續人又ハ現ニ該免

狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
抹消ノ登録ヲ申請スル者ハ海技免狀ヲ申請書ニ添付シテ之ヲ遞信省ニ返還スヘシ若

シ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ届出ツヘシ

- 第十九條 遞信省ハ左ノ場合ニ於テ抹消ノ登録ヲ爲ス
- 一 前項ノ申請ヲ受ケタルトキ
 - 二 抹消ノ登録ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間ニ之ヲ爲サ、ルトキ
 - 三 詐偽ノ所爲ヲ以テ海技免狀ヲ受ケタルコト發覺シタルトキ
 - 四 海員審判所ニ於テ海技免狀ヲ無効トナシタルトキ
- 遞信省ハ前項第二號又ハ第三號ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ當該免狀
ヲ受有スル者又ハ之ヲ保管スル者ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタルモノハ遲滯ナク該免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ

第二十條 海技免狀ヲ受有スル者高等免狀ニ對スル登録ヲ受ケタルトキハ下等免狀ニ
對スル登録ハ遞信省ニ於テ之ヲ抹消ス但該高等免狀ノ效力ニ制限ヲ加ヘタルモノナ
ルトキハ此限ニ在ラス

效力ニ制限ヲ加ヘタル免狀ヲ受有スル者效力ニ制限ヲ加ヘサル同種ノ免狀ニ對スル
登録ヲ受ケタルトキハ效力ニ制限ヲ加ヘタル免狀ニ對スル登録ハ遞信省ニ於テ之ヲ
抹消ス

效力ニ制限ヲ加ヘタル免狀ヲ受有スル者其制限ヲ變更シタル同種ノ免狀ニ對スル登
録ヲ受ケタルトキ亦前項ニ同シ

前三項ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲サシメタルトキハ當該免狀ハ新ニ授與スル免狀ト引換
ニ之ヲ遞信省ニ返還スヘシ

第二十一條 海技免狀ヲ受有スル者登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ
遲滯ナク第四號書式ノ書面ヲ遞信省ニ差出シテ登録ノ訂正ヲ申請スヘシ

登録ノ錯誤又ハ遺漏第十四條第二號乃至第四號ノ事項ニ係ルトキハ前項ノ書面ニ戶
籍ノ謄本若ハ抄本外國人ニ在テハ本國領事ノ證明書ヲ添付スヘシ

遞信省ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ訂正シ其旨ヲ當
該免狀受有者ニ通知ス

第二十二條 前條第一項及第三項ノ規定ハ海技免狀ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アリタル場

合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 遞信省ニ於テ前二項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ登録ヲ訂正シ又ハ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ申請人ニ交付ス

第十七條第二項ノ規定ハ前條ノ免狀ヲ受クル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 海技免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ當該免狀受有者ハ其事實アリタル日又ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ十日以内ニ第五號書式ノ書面ヲ遞信省ニ差出シテ再交付ヲ申請スヘシ

第二十五條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ海技免狀ヲ申請人ニ交付ス

第十七條第二項ノ規定ハ海技免狀ノ毀損ニ依リ前項ノ免狀ヲ受クル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 行政區劃ノ變更アリタルトキハ海技免狀ヲ受有スル者ハ其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ海技免狀ノ書換ヲ申請スルコトヲ得

第十六條第二項ノ規定及第十七條ノ規定ハ變更ノ登録ニ關スル規定ヲ除クノ外前項ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五章 手数料

第二十七條 本則ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納付スヘシ

一 第十二條第一項ニ依リ體格検査ヲ申請スルトキ 貳拾錢

二 第二十二條ニ依リ海技免狀ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ記載事項ノ錯誤又ハ遺漏免狀受有者ノ過失ニ出テタルトキ 壹圓

三 海技免狀ノ再交付ヲ申請スルトキ 壹圓

四 前條第一項ニ依リ海技免狀ノ書換ヘテ申請スルトキ 壹圓

前項第二號乃至第四號ノ申請ヲ二件以上同時ニ爲ストキハ該申請ノ内一件ニ對スル手数料ヲ納付スルヲ以テ足ル

第十六條ニ依リ變更ノ登録ノ申請ヲ爲シ海技免狀ノ書換交付ヲ受クル場合ニ於テ同時ニ第一項第二號乃至第四號ノ申請ヲ爲ストキハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セス

第二十八條 第十一條第十二條第一項第三項第十六條第一項第二十二條第二十四條又ハ第二十六條第一項ノ申請ヲ爲ス者ハ登録税又ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタル納付書ヲ申請書ニ添付スヘシ

前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ當該官廳ニ於テ消印スヘキモノトス但申請人ニ於テ自己ノ便宜上消印ナスハ妨ナシ

第六章 雜則

第二十九條 海技免狀ヲ受有スル者公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキハ其裁判確定後遲滯ナク本人又ハ該免狀ヲ保管スル者ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添へ海

○船舶職員法施行細則

技免狀ヲ遞信省ニ差出スヘシ

- 一 公權停止ノ理由
 - 二 公權停止ノ期間
 - 三 裁判ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱
- 前項ニ依リ提出シタル海技免狀ハ公權停止ノ期間遞信省之ヲ保管シ期間滿了ノ後之ヲ還付ス

第三十條 第十六條第一項第十八條第十九條第三項第二十條第二十一條第一項第二十二條第二十四條第二十六條第一項又ハ第二十九條第一項ニヨリ申請書又ハ海技免狀ヲ遞信省ニ差出スニハ最寄管海官廳ヲ經由スルコトヲ得

第三十一條 海技免狀ハ本則ノ規定ニヨリ之ヲ返還シタル場合ニハ返還ノトキヨリ、之ヲ返還セサル場合ニハ返還ノ事由發生ノトキヨリ、第十八條第一項各號及第十九條第一項第二號第三號第四號ノ場合ニハ各號ノ事實發生シタルトキヨリ、減失シタル場合ニハ減失ノトキヨリ其效力ヲ失フ

第三十二條 海技免狀ヲ受有スル者ハ當該官吏又ハ公吏ノ要求アルトキハ之ヲ其檢閱ニ供スヘシ

第七章 罰 則

第三十三條 第十六條第十八條第二十一條第一項第二項第二十二條第二十四條第二十九條第一項第三十二條ニ違背シタル者又ハ本則ノ規定ニ依リ海技免狀ヲ返還スヘキ

場合ニ之ヲ怠リタル者ハ貳圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本令中第八條ノ規定ハ大正十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令中第一號表及第三號表ハ大正十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號表(漁船)

航 路		航 路		航 路	船 類	總 噸 數	職 員 名 稱	免 狀 種 類	定 員
遠 洋	航 路	汽 船	帆 船	汽 船	帆 船	總 噸 數	職 員 名 稱	免 狀 種 類	定 員
		二百噸未滿	二百噸未滿	二百噸未滿	二百噸未滿	船長 機關長	甲種二等運轉士 二等機關士		一
		五百噸未滿	五百噸未滿	五百噸未滿	五百噸未滿	船長 一等運轉士 一等機關長 一等機關士	甲種一等運轉士 甲種二等運轉士 二等機關士		一
						船長 一等運轉士	甲種一等運轉士 甲種二等運轉士		一

近海航路		
汽船		
百噸未満	二百噸未満	五百噸未満
船長	船長	船長
機關長	機關長	機關長
乙種二等運轉士	乙種一等運轉士	乙種一等運轉士
三等機關士	三等機關士	乙種二等運轉士
		乙種一等運轉士

第二號表(補助機關付帆船)

總噸數	職員名稱	免狀種類	免狀種類	定員
二百噸未満	機關長	二等機關士	參等機關士	
千噸未満	船長	乙種船長	貳等機關士	
千噸以上	機關長	一等機關士	壹等機關士	

第三號表(代用職員)

航路種類	船類	總噸數	職員名稱	免狀種類	代用免狀種類
近海	汽	二百噸未満	機關長	二等機關士	三等機關士
		千噸未満	船長	乙種船長	甲種一等運轉士
近海	帆	千噸以上	一等運轉士	甲種一等運轉士	甲種一等運轉士
		二百噸以上	二等運轉士	甲種二等運轉士	乙種船長但シ總噸數二千噸未満ノ汽船ニ限リ乙種一等運轉士

(第一號書式)

沿海航路				航路	
汽船		帆船		船	
二百噸以上	五百噸以上	二百噸未満	五百噸未満	五百噸以上	千噸以上
船長	船長	機關長	機關長	一等運轉士	一等運轉士
丙種船長	乙種船長	一等機關士	二等機關士	甲種一等運轉士	甲種一等運轉士
甲種一等運轉士	甲種一等運轉士	二等機關士	三等機關士	甲種二等運轉士	乙種船長但シ總噸數二千噸未満ノ汽船ニ限リ乙種一等運轉士

海技免狀原簿登録申請書

一 海技免狀ノ種類
 二 氏名(假名ニテ傍訓スヘシ)

○船舶職員法施行細則

三 本籍地及族稱
 四 出生ノ年月日
 五 船舶職員試験(体格検査)ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱
 六 合格ノ年月日
 右海技免狀原簿ニ登録ノ上海技免狀授與相成度船舶職員法施行細則第十一條(第十二條第三項)ニ依リ此段申請候也

年 月 日 申請人 氏 名
 現住所

遞信大臣宛

(第二號書式)

體格検査申請書

船舶職員法第五條第二項ニ依リ
 免狀授與申請致候間體格検査執行相成度依テ履歷書、証明書及戶籍謄本(抄本)相添此段申請候也

年 月 日 申請人 氏 名
 現住所

管海官廳宛

第三號書式 免狀様式略ス
 (第四號書式)

海技免狀原簿變更(訂正)登録申請書

一 海技免狀ノ番號
 二 海技免狀ノ種類
 三 登録ノ年月日
 四 氏 名 (假名ニテ傍訓スヘシ) 新(朱書)
 五 本籍地及族籍 新(朱書)
 六 出生ノ年月日 新(朱書)
 右何年何月何日(變更、訂正ノ事由ヲ記載ス)ニ依リ前記朱書ノ通り變更ニ付變更登録(訂正)相成度戶籍謄本(抄本)並登録稅(手数料)相添此段申請候也

年 月 日 申請人 氏 名
 現住所

遞信大臣宛

(第五號書式)

海枝免狀再交付申請書

- 一 海枝免狀ノ番號
- 二 海枝免狀ノ種類
- 三 登錄ノ年月日
- 四 氏名(假名ニテ傍訓スヘシ)
- 五 本籍地及族籍
- 六 出生ノ年月日

右何年何月何日(流失、遺失、紛失、毀損等ノ事由ヲ記載ス)ニ付再交付相成度手数料相
 添此段申請候也

年 月 日

申請人

氏

名

現住所

遞信大臣宛

勅令第三十一號

○船舶職員法ハ日本ノ沿岸又ハ湖川港内ノミテ航行スル外國船舶ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年九月二十七日

◆船舶職員試験規程

第一章 總 則

第一條 船舶職員試験ハ左ノ三十六種トス

- 小形船丙種運轉士試験
- 漁船丙種運轉士試験
- 丙種運轉士試験
- 丙種船長試験
- 湖川港乙種二等運轉士試験
- 湖川港乙種一等運轉士試験
- 小形船乙種二等運轉士試験
- 漁船乙種二等運轉士試験
- 漁船乙種一等運轉士試験
- 乙種二等運轉士試験
- 乙種一等運轉士試験
- 乙種船長試験
- 漁業帆船甲種二等運轉士試験

○船舶職員試験規程

- 漁業帆船甲種一等運轉士試験
- 漁業汽船甲種二等運轉士試験
- 漁業汽船甲種一等運轉士試験
- 漁船甲種二等運轉士試験
- 漁船甲種一等運轉士試験
- 帆船甲種二等運轉士試験
- 帆船甲種一等運轉士試験
- 帆船甲種船長試験
- 汽船甲種二等運轉士試験
- 汽船甲種一等運轉士試験
- 汽船甲種船長試験
- 甲種二等運轉士試験
- 甲種一等運轉士試験
- 甲種船長試験
- 發動機船三等機關士試験
- 湖川港三等機關士試験
- 三等機關士試験
- 發動機船二等機關士試験

二等機關士試験

發動機船一等機關士試験

發動機船機關長試験

第二條

船舶職員試験ハ別ニ告示スル試験ノ場所及期日ニ於テ管海官廳定期ニ之ヲ執

行シ臨時試験ヲ執行スル必要アルトキハ試験ノ場所及期日ヲ隨時告示ス

第三條 本令ニ規定スル乗船期間ヲ計算スルニハ乗船ノ翌日ヨリ之ヲ起算シ末日ハ終

了ニ至ラサルモ之ヲ算入ス

月又ハ年ヲ以テ定ムル乗船期間ハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算シ月又ハ年ノ始メヨリ起算セ

サルトキハ其ノ期間ハ最後ノ月又ハ年ニ於ケル起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿

了ス但シ最後ノ月又ハ年ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了スルモノトス

乗船期間ヲ計算スルニハ一月ニ滿タサル乗船日數ハ之ヲ合算シ三十日ニ滿ツルトキ

一月トシ又一年ニ滿タサル乗船月數ハ之ヲ合算シ十二月ニ滿ツルトキ一年トス

第二章 受験資格

第四條 船舶職員試験ヲ受ケムトスル者ハ試験期日ノ前日迄ニ年齢滿二十年ニ達シ試

○船舶職員試験規程

同一ノ試験ニ對シ規定ノ乗船期間ニ達セサルニ以上ノ履歴ヲ有スルトキハ之ヲ其ノ
一ニ通算スルコトヲ得但シ規定乗船期間ノ年數ヲ異ニスルモノヲ通算スル場合ニ在
リテハ各規定乗船期間ノ年數ノ比例ニ依リ其ノ一方ニ換算シテ之ヲ通算スルモノト
ス

第五條 高等ノ免狀ニ對スル受験履歴ハ下等ノ免狀ニ對スル受験履歴、高等ノ免狀ヲ
有シテ執職シタル履歴ハ下等ノ免狀ヲ有シテ執職シタル履歴又高等ノ職ヲ執リタル
履歴ハ下等ノ職ヲ執リタル履歴トシテ之ヲ認ムルコトヲ得

總噸數百噸以上ノ機關ヲ有セサル縱帆裝置ノ近海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ニ
乗組ミタル期間ハ其ノ二分ノ一ノ期間横帆裝置ノ近海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆
船ニ乗組ミタルモノトシテ之ヲ換算スルコトヲ得

機關部員ノ試験ニ在リテハ別表受験履歴表ニ掲クル航洋汽船又ハ汽船ニハ發動機船
ヲ包含セス但シ同表ニ掲クル乗船期間ノ二分ノ一ニ達スル迄汽船ニ乗組ミタル期間
ハ發動機船ニ又發動機船ニ乗組ミタル期間ハ汽船ニ乗組ミタルモノトシテ之ヲ換算
スルコトヲ得

湖川港三等機關士試験及三等機關士試験ニ對スル受験履歴ニ付テハ火夫トシテ勤務
シタル期間ハ其ノ二分ノ一ノ期間機關運轉ニ從事シタルモノトシテ之ヲ換算スルコ
トヲ得但シ換算シタル期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス
機關ヲ有スル帆船ニ乗組ミタル履歴ニ付テハ機關部員ノ試験ニ在リテハ其ノ乗船期

間ノ二分ノ一ニ相當スル期間該船舶ノ總噸數ノ二分ノ一ニ相當スル汽船又ハ發動機
船ニ乗組ミタルモノトシテ計算ス但シ此ノ場合ニ於テハ第三項但書ノ規定ヲ準用ス

第六條 遞信大臣ハ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ外國各港間ヲ航行スル船舶ニ乗組
ミタル履歴ヲ別表受験履歴表ニ掲クル履歴ニ相當スルモノトシテ認定スルコトヲ得
上海漢口間ヲ航行スル汽船ニ乗組ミタル期間ハ別表受験履歴表ニ掲クル乗船期間ノ
二分ノ一ニ達スル迄沿海航路ヲ航行スル汽船ニ乗組ミタルモノト看做ス

第七條 遞信大臣ハ朝鮮、臺灣、樺太若ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶又ハ外國船舶
ニ乗組ミタル履歴ヲ別表受験履歴表ニ掲クル履歴ニ相當スルモノトシテ認定スルコ
トヲ得

第八條 朝鮮總督府ノ海技免狀又ハ遞信大臣ノ適當ト認ムル外國政府ノ海技免狀ヲ有
シテ執職シタル履歴ハ日本政府ノ相當海技免狀ヲ有シテ執職シタルモノト看做ス
第九條 朝鮮總督府又ハ外國政府ノ海技免狀ヲ受有スル者ハ遞信大臣ノ認定スル所ニ
依リ相當試験ヲ受クルコトヲ得

第十條 遞信大臣ノ適當ト認ムル商船學校、水産學校又ハ水産講習所ニ在リテ航海科
機關科、漁撈科若ハ遠洋漁業科ヲ卒業シタル者又ハ遠洋漁業ノ講習科ヲ修業シル者
ハ其ノ在學中ノ乗船期間別表受験履歴表ニ掲クル乗組期間ニ達セサルモ相當試験ヲ
受クルコトヲ得

第十一條 遞信大臣ノ適當ト認ムル機關工場ニ於テ汽機、汽罐ノ製造又ハ修繕ニ從事

○船舶職員試験規程

シタル期間ハ機關部員ノ試験ニ在リテハ別表受驗履歴表ニ掲クル乗船期間ノ二分ノ

一ニ達スル迄機關運轉ニ從事シタルモノトシテ之ヲ乗船期間ニ換算スルコトヲ得

前項ニ定ムル機關工場ニ於ケル期間ノ計算ニ付テハ第三條ノ規定ヲ準用ス

第十二條 前二條ニ規定スル通信大臣ノ適當ト認ムル商船學校、水産講習

所又ハ機關工場ハ別ニ之ヲ告示ス

第十三條 左ニ掲クル履歴ハ第四條ニ規定スル受驗履歴トシテ之ヲ認ムルコトヲ得ス

一 倉庫船又ハ繫留船ニ乗組ミタル履歴

二 年齢十四年未滿ノ履歴

三 試験期日ヨリ遡リ十年ヲ超ユル前ノ履歴

四 主トシテ船舶ノ運航又ハ機關ノ運轉ニ從事セサル職務ノ履歴

第三章 受驗申請

第十四條 船舶職員試験ヲ受ケムトスル者ハ定期試験ニ在リテハ試験期日十二日前迄

ニ又臨時試験ニ在リテハ試験期日五日前迄ニ試験ヲ行フ管海官廳ニ左ノ書類及手札

形寫眞(最近撮影ニ係ル單獨半身脱帽ノモノニ限ル)ヲ添附シ第一號書式ノ申請書ヲ

提出スヘシ

一 戶籍謄本

二 船舶職員法第六條第一號及第二號ニ該當セサルコトノ市區町村長其ノ他當該官

公吏ノ證明書

三 海技免狀ヲ有スル者ニ在リテハ其ノ寫

四 商船學校、水産學校又ハ水産講習所ノ卒業證書又ハ修業證書ヲ有スル者ニ在リ

テハ其ノ寫

前項第二號ニ掲クル書類ハ外國人ニ在リテハ本國領事ノ證明書ヲ以テ之ニ代フルコ

トヲ得

第十五條 船舶職員試験ヲ受ケムトスル者ハ左ニ掲クル書類ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供シ

其ノ受驗履歴ヲ證明スヘシ

一 商船ニ乗組ミタル履歴ハ船員手帳若ハ之ニ準スヘキモノ又ハ船員證明規則ニ依

ル證明書

二 海軍艦船艇又ハ官公署ノ所屬船ニ乗組ミタル履歴ハ當該官公署ノ辭令書若ハ證

明書又ハ當該官公吏ノ證明書

三 前各號ノ一ニ依リ難キ者ノ乗船履歴ハ船舶所有者又ハ船長ノ證明書

機關工場、商船學校、水産學校又ハ水産講習所ニ在リタル履歴ハ當該工場、學

校又ハ講習所ノ證明書、卒業證書又ハ修業證書

五 海技免狀ヲ有スル者ニ在リテハ當該免狀

第十六條 受驗申請ハ同時ニ二種以上ノ試験ニ付之ヲ爲スコトヲ得ス

○船舶職員試驗規程

第四章 試験ノ執行

第十七條 船舶職員試験ハ體格検査及學術試験トシ學術試験ハ筆記試験及口述試験トス但シ本令ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

體格検査ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試験ヲ受クルコトヲ得ス但シ體格検査ニ於テ甲種合格ニ該當シタル者體格検査ヲ受ケタル日より三月内ニ再ヒ同一管海官廳ニ同種ノ受験申請ヲ爲シタルトキハ其ノ認定ニ依リ體格検査ヲ省略スルコトヲ得

筆記試験ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十八條 小形船丙種運轉士試験、漁船丙種運轉士試験、湖川港乙種二等運轉士試験、湖川港乙種一等運轉士試験、小形船乙種二等運轉士試験、漁船乙種二等運轉士試験、發動機船三等機關士試験及湖川港三等機關士試験ニハ筆記試験ヲ執行セス

第十九條 學術試験ニ於テ筆記試験ニ合格シ口述試験ニ合格セサリシ者筆記試験ニ合格シタル日より六月内ニ同一管海官廳ニ同種ノ受験申請ヲ爲シタルトキハ一回ヲ限リ筆記試験ヲ免除ス

第九條ニ定ムル朝鮮總督府ノ免狀ヲ有スル者及第十條ニ掲クル學校又ハ講習所ニ於テ卒業又ハ修業シタル者ニ對シテハ遞信大臣ノ認定スル所ニ依リ筆記試験ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ該當スル學校又ハ講習所ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十條 體格検査ハ別表體格検査標準表ニ依リ學術試験ハ別表學術試験科目表ニ依リ之ヲ執行ス

第二十一條 體格検査ハ試験ノ場所ニ別段ノ揭示ヲ爲ササル限り試験ノ初日ニ於テ之ヲ執行ス但シ當日終了セサルトキハ次日ニ之ヲ續行ス

學術試験ヲ執行スル期日ハ筆記試験ニ在リテハ試験ノ場所ニ之ヲ揭示シ口述試験ニ在リテハ受験人ニ之ヲ通知ス

第二十二條 船舶職員試験ノ執行ニ關スル手續ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定メ試験ノ場所ニ揭示ス

第二十三條 試験執行中ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實ヲ發見シタルトキハ當該受験人ニ付直ニ其ノ試験ヲ停止スヘシ

一 受験資格ナキコト

二 受験禁止中ナルコト

三 試験ニ關シ不正ノ行爲アリタルコト

受験人前條ノ手續ニ違背シタルトキハ當該受験人ニ付其ノ試験ヲ停止スルコトアルヘシ

前各項ノ規定ニ依リ試験ヲ停止シタルトキ又ハ試験執行後第一項各號ノ一ニ該當スル事實アリタルコトヲ發見シタルトキハ管海官廳ハ當該受験人ニ付試験ノ全部又ハ一部ヲ無効トナスコトヲ得

○船舶職員試験規程

第二十四條 試験ニ合格シタルトキハ其ノ旨ヲ受験人ニ通知ス

第五章 受験禁止

第二十五條 試験ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ付テハ管海官廳ハ六月以上三年以下ノ期間ヲ定メ受験ヲ禁止スルコトヲ得

第六章 受験手数料

第二十六條 受験手数料ハ體格検査手数料及學術試験手数料トシテ別表受験手数料表ノ定ムル所ニ依ル

體格検査手数料ハ受験申請受理セラレタルトキ學術試験手数料ハ體格検査ニ合格シタルトキ直ニ納付スヘシ但シ第十七條第二項ノ規定ニ依リ體格検査ヲ省略スル場合ニハ受験申請受理セラレタルトキ直ニ學術試験手数料ヲ納付スヘシ

第二十七條 受験手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ第二號書式ノ納付書ニ貼用シ之ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ貼用シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印スヘキモノトス但シ納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

附則

第二十八條 既納ノ受験手数料ハ事由ノ何如ヲ問ハス之ヲ還付セス

本令ハ大正十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年逓信省令第二十一號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治三十八年逓信省令第二十一號船舶職員試験規程ニ定ムル受験履歴ニ適合スル履歴ヲ有スル者ハ本令第四條ノ規定ニ拘ラス本令施行後二年間ヲ限り相當試験ヲ受クルコトヲ得

本令施行前ニ執行シタル定期試験ニ於テ事記試験ニ合格シ口述試験ニ合格セサリシ者筆記試験ニ合格シタル日ヨリ六月内ニ同一管海官廳ノ定期試験ニ於テ同種ノ受験申請ヲ爲シタルトキハ筆記試験ヲ免除ス

別表

受験履歴表

試験ノ種類	乗組船舶	乗船期間	受有免狀ノ種類	勤務ノ種類
小形船丙種運轉士試験	航洋帆船	四年以上	—	運航
漁船丙種運轉士試験	一、航洋帆船 二、航洋漁業帆船 三、航洋漁業帆船 内航洋漁業帆船	三年以上 一年以上 一年以上 二年以上	—	運航 同 同 同

○船舶職員試験規程

發動機船三等 機關士試驗	發動機船二等 機關士試驗	發動機船一等 機關士試驗	一等機關士試 驗	湖川港三等機 關士試驗	發動機船三等 機關士試驗	發動機船二等 機關士試驗	發動機船一等 機關士試驗	一等機關士試 驗
汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船
同	同	同	同	同	同	同	同	同
二、二十噸以上ノ航洋發動機船	二、二十噸以上ノ航洋發動機船	二、二十噸以上ノ航洋發動機船	二、二十噸以上ノ航洋發動機船	二、二十噸以上ノ航洋發動機船	二、二十噸以上ノ航洋發動機船	二、二十噸以上ノ航洋發動機船	二、二十噸以上ノ航洋發動機船	二、二十噸以上ノ航洋發動機船
三、同	三、同	三、同	三、同	三、同	三、同	三、同	三、同	三、同
四、同	四、同	四、同	四、同	四、同	四、同	四、同	四、同	四、同
五年以上	五年以上	五年以上	五年以上	五年以上	五年以上	五年以上	五年以上	五年以上
同	同	同	同	同	同	同	同	同
乙種船長免狀	乙種船長免狀	乙種船長免狀	乙種船長免狀	乙種船長免狀	乙種船長免狀	乙種船長免狀	乙種船長免狀	乙種船長免狀
同	同	同	同	同	同	同	同	同
一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士

備考

- 一、船舶ノ噸數ハ總噸數ヲ以テ示シ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ十石ヲ以テ一噸ニ換算ス
- 二、航洋船舶トハ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル汽船及帆船、航洋汽船トハ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル汽船、航洋帆船トハ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ヲ謂ヒ、航洋漁船、航洋漁業汽船及航洋漁業帆船亦之ニ準ス
- 三、大航洋汽船トハ近海航路以上ノ航路ヲ航行スル汽船、大航洋帆船トハ近海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ヲ謂フ
- 四、横帆裝置ノ帆船ニハ「トツブスル、スクーナー」裝置ノモノヲ包含セス
- 五、受有免狀ノ種類中小形船三種運轉士免狀トアルハ效力ヲ沿海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數五十噸未満ノ帆船ニ限リタル三種運轉士免狀、湖川港ノ三字ヲ冠シタルハ效力ヲ一定區域ノ湖川港内ノミヲ航行スル汽船ニ限リタルモノ、

○船舶職員試驗規程

漁船ノ二字ヲ冠シタルハ効力ヲ漁船ニ限リタルモノ、小形船乙種二等運轉士免狀トアルハ効力ヲ沿海航路若ハ平水航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數三十噸未満ノ汽船ニ限リタル乙種二等運轉士免狀、漁業帆船ノ四字ヲ冠シタルハ効力ヲ漁業帆船ニ限リタルモノ、漁業汽船ノ四字ヲ冠シタルハ効力ヲ漁業汽船ニ限リタルモノ、帆船ノ二字ヲ冠シタルハ効力ヲ帆船ニ限リタルモノ、汽船ノ二字ヲ冠シタルハ効力ヲ汽船ニ限リタルモノ又發動機船ノ四字ヲ冠シタルハ効力ヲ發動機船ニ限リタルモノヲ指稱ス

別表
體格検査標準表

検査項目	合		格	
	甲	乙	甲	乙
眼ノ現狀	眼瞼下垂、顆粒性結膜炎、斜視、角膜、虹彩及網膜諸病ナキモノ	上欄掲記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ	上欄掲記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ	他眼ハ○、四號ヲ明視シ得ルモノ
視力	兩眼共ニ〇、六號ヲ明視シ得ルモノ	甲板部員試験ニ於テハ一、六號他眼ハ○、四號ヲ明視シ得ルモノ	機關部員試験ニ於テハ一、四號他眼ハ○、三號ヲ明視シ得ルモノ	

辨	耳	聽	體	疾
色完全ナルモノ	內外聽道ノ疾病特ニ鼓膜穿孔耳漏片耳又ハ兩耳々々ナキモノ	兩耳共ニ二尺以上ノ距離ニ於テ明ニ覺中時計ノ秒時音ヲ聽取シ得ルモノ	身體薄弱、胸膈扁平ニシテ勞瘵ノ徵候、羸瘦、畸形、指趾等ノ缺損、四肢運動ノ自由ナキモノ	心肺ノ疾患、心悸亢進、聲音ノ嘶嘎、肋膜炎後ノ障礙、精神異常、言語障礙、咽吃其ノ他著シキ疾病ナキモノ
紅綠盲及青黃盲ニ非サル色弱ナルモノ	上欄掲記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ	兩耳共ニ一尺以上ノ距離ニ於テ明ニ覺中時計ノ秒時音ヲ聽取シ得ルモノ	上欄掲記ノ障礙アルモ輕微ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ	上欄掲記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ

備考 機關部員試験ニハ辨色検査ヲ行ハス
別表

學術試驗科目表

小形船丙種運轉士試驗

- 一 航海術
- 手用測深具及手用測程具ノ取扱
 - 海圖ノ説明及用法
 - 羅針儀ノ説明及用法

○船舶職員試驗規程

船位ノ測定

二 運用術

推進器及舵ノ作用

船燈及救命具ノ取扱

帆船ノ運用

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

貨物取扱ノ大要

三 法規

海上衝突豫防法

船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶検査法及各附屬法規並地方

取締規則中須知事項

日誌取扱

漁船三種運轉士試験

一 航海術

手用測深具及手用測程具ノ取扱

海圖ノ説明及用法

羅針儀ノ説明及用法

船位ノ測定

二 運用術

推進器及舵ノ作用

船燈及救命具ノ取扱

當直ニ關スル心得

帆ノ取扱

各種ノ天候及場所ニ於ケル帆船ノ運用

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

海上氣象學ノ大意

晴雨計ノ用法日本近海ニ於ケル氣壓及風ノ大要

三 法規

海上衝突豫防法

船員法船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶検査法及各附屬法規並地方取

締規則中須知事項

日誌取扱

丙種運轉士試験

一 國語

○船舶職員試験規程

二 數學 書取、作文、解釋

算術

四則應用

三 航海術

航海術 航海器具ノ取扱及矯正

手用測深具、手用測程具

海圖ノ説明及用法

航路標識ノ大要

潮汐ノ大要

羅針儀ノ説明及用法

羅針自差測定並羅針自差表ノ作成及用法

推測ニ依ル船位針路及航程ノ測定

針路改正法、物標距離測定法

四 運用術

船體要部ノ構造並主要機具ノ取附及配置

桅樁、帆架、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存

錨鎖鎖索具其ノ他屬具ノ取扱及保存

吃水ノ説明

推進器及舵ノ作用

船舶ノ修繕及保存ノ大要

船燈、信號火器及救命具ノ設備、取扱及保存

當直ニ關スル心得

帆ノ取扱

各種ノ天候及場所ニ於ケル帆船ノ運用

船具ノ破損其ノ他不慮ノ事變ニ對スル處置

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

海上氣象學

晴雨計及寒暖計ノ説明及用法、日本近海ニ於ケル氣温、氣壓、風、海水及

海流ノ大要

信號

萬國船舶信號旗ノ説明及用法、海難ニ關スル信號、氣象信號

貨物取扱

甲板及船舶諸口ノ水窓閉鎖

各種貨物ノ船積及引渡

救急醫術ノ大要

○船舶職員試驗規程

五 法規及商事實務

海上衝突豫防法
商法海商編中船員ニ關スル事項
船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶検査法、船舶滿載吃水線法
及各附屬法規並稅關、檢疫及水路取締ニ關スル法規中須知事項
出入港ノ際必要ナル書類
日誌取扱

丙種船長試驗

丙種運轉士試驗科目ヲ合セ

一 數學

算術
比、比例、步合算

二 航海術

航海術
航海器具ノ取扱及矯正
六分儀、人工地平儀、測深機械、測程機械
潮時算法
推測ニ依ル船位針路及航程ノ測程

緯線航法、中分緯度航法、漸長緯度航法、流潮航法、航海日誌算法

天測ニ依ル船位ノ測定

太陽子午線高度緯度法

天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定

太陽出沒方位法

三 運用術

運轉自由ヲ得サル帆船ノ取扱

假舵及救命筏ノ組立及用法

海錨ノ組立及用法並撒油鎮浪法

海上氣象學

日本近海ニ於ケル氣溫、氣壓、風、海水、海流、水流及氷塊
信號

萬國船舶信號、船舶通航信號、潮時信號

湖川港乙種二等運轉士試驗

一 航海術

試驗ヲ受ケムトスル區域ノ水路
羅針儀ノ説明及用法

○船舶職員試驗規程

二 運用術

舵、操舵機具、傳令器及推進器ノ説明
船燈及救命具ノ取扱
當直ニ關スル心得
汽船ノ運用
海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護
旅客及客室ニ關スル心得

三 法規

海上衝突豫防法
船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶検査法及各附屬法規並地方取締規則
中須知事項

湖川港乙種一等運轉士試験

科目ハ湖川港乙種二等運轉士試験科目ニ依リ湖川港ヲ航行スル二百噸以上ノ
汽船ニ船長トシテ執職スル者ニ適應スヘキ程度ニ於テ試験スルモノトス

小形船乙種二等運轉士試験

一 航海術

手用測深具及手用測程具ノ取扱
海圖ノ説明及用法
羅針儀ノ説明及用法
船位ノ測定

二 運用術

推進器及舵ノ作用
船燈及救命具ノ取扱
汽船ノ運用
海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護
貨物取扱ノ大要

三 法規

海上衝突豫防法
船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶検査法及各附屬法規並地方
取締規則中須知事項
日誌取扱

漁船乙種二等運轉士試験

一 航海術

○船舶職員試験規程

手用測深具及手用測程具ノ取扱

海圖ノ説明及用法

羅針儀ノ説明及用法

船位ノ測定

二 運用術

推進器及舵ノ作用

船燈及救命具ノ取扱

當直ニ關スル心得

各種ノ天候及場所ニ於ケル汽船ノ運用

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

海上氣象學ノ大意

晴雨計ノ用法、日本近海ニ於ケル氣壓及風ノ大要

三 法規

海上衝突豫防法

船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶検査法及各附屬法規並地方

取締規則中須知事項

日誌取扱

乙種二等運轉士試験

一 國語

書取、作文、解釋

二 數學

算術

四則應用

三 航海術

航海器具ノ取扱及矯正

手用測深具、手用測程具、測程機械

海圖ノ説明及用法

航路標識ノ大要

潮汐ノ大要

羅針儀ノ説明及用法

羅針自差測定並羅針自差表ノ作成及用法

推測ニ依ル船位針路及航程ノ測定

四 運用術

針路改正法、物標距離測定法

○船舶職員試験規程

船體要部ノ構造並主要機具ノ取附及配置
錨、錨鎖、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存
吃水ノ説明

推進器及舵ノ作用
船燈、信號火器及救命具ノ設備、取扱及保存
當直ニ關スル心得

各種ノ天候及場所ニ於ケル汽船ノ運用
船具ノ破損其ノ他不慮ノ事變ニ對スル處置
海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

短艇ノ取扱及保存
曳船
海上氣象學

晴雨計及寒暖計ノ説明及用法
日本近海ニ於ケル氣温、氣壓、風、海水及海流ノ大要

信號
萬國船舶信號旗ノ説明及用法、海難ニ關スル信號、氣象信號
貨客取扱
旅客及客室ニ關スル心得

甲板及船側諸口ノ水密閉鎖
各種貨物ノ船積及引渡
救急醫術ノ大要

五 法規及商事實務

海上衝突豫防法
商法海商編中船員ニ關スル事項
船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶検査法、船舶滿載吃水線法
及各附屬法規並稅關、檢疫及水路取締ニ關スル法規中須知事項
出入港ノ際必要ナル書類
日誌取扱

乙種一等運轉士試験

一 數學

算術
比、比例、步合算

二 航海術

航海術
航海器具ノ取扱及矯正

○船舶職員試験規程

六分儀、人工地平儀、測深機械

潮時算法

推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定

緯線航法、中分緯度航法、漸長緯度航法、流潮航法、航海日誌算法

天測ニ依ル船位ノ測定

太陽子午線高度緯度法

天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定

太陽出沒方位法

三 運用術

船舶ノ修繕及保存ノ大要

縱帆ノ取扱

海上氣象學

氣象觀測器ノ説明及用法

日本近海ニ於ケル氣溫、氣壓、風、海水及海流

信號

萬國船舶信號、船舶通航信號、潮時信號

漁船乙種一等運轉士試驗

乙種一等運轉士試驗科目中國語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ除キタルモノトス

乙種船長試驗

乙種一等運轉士試驗科目ヲ合セ

一 數學

算術

全體

二 航海術

術語界説

航用器具ノ取扱

時辰儀、三杆分度儀

羅針儀ノ据附

羅針自差分解並羅針自差曲線圖ノ作製及用法

羅針儀矯正

天測ニ依ル船位ノ測定

太陽時辰儀經度法

天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定

○船舶職員試驗規程

三 運用術

太陽高度方位法、太陽時辰方位法(表使用)

噸數ノ種別

操舵ト回轉圈

船舶洋上横附

運轉自由ヲ得サル汽船ノ取扱

短艇演習及防火演習

假舵及救命筏ノ組立及用法

海錨ノ組立及用法並撒油鎮浪法

海上氣象學

貨物取扱

扛重裝置並圓材、鐵鎖、綱鋼索ノ支持力及保存

重量物ノ船積及引渡貨物ノ船積及按配

四 法規及商事實務
船荷證券ニ關スル事項

甲種二等運轉士試験

一 國語

書取、作文、解釋

二 英語

航海曆、海圖及水路誌ヲ了解シ得ル程度

三 數學

算術

全體

幾何

平面(圓迄)

三角

平面、對數

四 航海術

術語界說

磁氣及音

航海器具ノ取扱及矯正

海圖ノ說明及用法

航路標識ノ大要

潮汐及算法

○船舶職員試験規程

羅針儀ノ説明及用法

羅針自差測定並羅針自差表ノ作成及用法

推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定

物標距離測定法、緯線航法、中分緯度航法、漸長緯度航法、流潮航法、航

海日誌算法

天測ニ依ル船位ノ測定

太陽子午線高度緯度法、太陽時辰儀經度法

天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定

太陽出沒方位法、太陽高度方位法、太陽時辰方位法

時辰儀違差ノ測定

太陽高度、報時信號

五

運用術

船體要部ノ構造並主要機具ノ取附及配置

桅檣、帆架、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存

錨、錨鎖、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存

吃水ノ説明

推進器及舵ノ作用

船燈、信號火器及救命具ノ設備、取扱及保存

當直ニ關スル心得

出入港準備作業

帆ノ取扱

各種ノ天候及場所ニ於ケル船舶ノ運用

船具ノ破損其ノ他不慮ノ事變ニ對スル處置

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

短艇ノ艤裝取扱及保存

海上氣象學

氣象學ノ大要

信號

萬國船舶信號、氣象信號、船舶通航信號、潮時信號

貨客取扱

旅客及客室ニ關スル心得、甲板及船側諸口ノ水密閉鎖

扛重裝置並圓材、鐵鎖、綱鋼索ノ支持力及保存

各種貨物ノ船積及引渡

救急醫術ノ大要

法規及商事實務

海上衝突豫防法

六

○船舶職員試驗規程

商法海商編中船員ニ關スル事項
船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶検査法、船舶滿載吃水線法
及各附屬法規並稅關、檢疫及水路取締ニ關スル法規中須知事項
出入港ノ際必要ナル書類
日誌取扱

漁業帆船甲種二等運轉士試験、漁業汽船甲種二等運轉士試験、
漁船甲種二等運轉士試験、帆船甲種二等運轉士試験及汽船甲
種二等運轉士試験

漁業帆船甲種二等運轉士試験科目ハ國語、英語、數學並運用術中汽船及貨客
取扱ニ關スル事項ヲ、漁業汽船甲種二等運轉士試験科目ハ國語、英語、數學
並運用術中横帆裝置ノ帆船及貨客取扱ニ關スル事項ヲ、漁船甲種二等運轉士
試験科目ハ國語、英語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ、帆船甲種
二等運轉士試験科目ハ運用術中汽船ニ關スル事項ヲ、又汽船甲種二等運轉士
試験科目ハ運用術中横帆裝置ノ帆船ニ關スル事項ヲ、甲種二等運轉士試験科
目中ヨリ除キタルモノトス

甲種一等運轉士試験

一 英語 甲種二等運轉士試験科目ヲ合セ

二 航海術 船舶ノ修繕及荷役ニ關スル書類ヲ了解シ得ル程度

羅針儀据附、
羅針自差分解並羅針自差曲線圖ノ作成及用法
索星

三 運用術 天測ニ依ル船位ノ測定
太陽近午緯度法、太陽兩高度經緯度法、一定ノ時間ニ於テ子午線ヲ經過ス
ヘキ星ノ名及經過時ノ推算、恆星又ハ行星子午線高度緯度法、極星緯度法

船舶ノ修繕及保存ノ大要
下檣建設其ノ他圓材ノ取扱
假舵及救命筏ノ組立及用法
海錨ノ組立及用法並撒油鎮浪法
曳船
海上氣象學
貿易風、信風、颶風、海流水流及氷塊

○船舶職員試験規程

貨物取扱

重量物ノ船積及引渡貨物ノ船積及按配

漁業帆船甲種一等運轉士試験、漁業汽船甲種一等運轉士試験、

漁業甲種一等運轉士試験、帆船甲種一等運轉士試験及汽船甲

種一等運轉士試験

漁業帆船甲種一等運轉士試験科目ハ國語、英語、數學並運用術中汽船及貨客取扱ニ關スル事項ヲ、漁業汽船甲種一等運轉士試験科目ハ國語、英語、數學並運用術中帆船裝置ノ帆船及貨客取扱ニ關スル事項ヲ、漁船甲種一等運轉士試験科目ハ國語、英語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ、帆船甲種一等運轉士試験科目ハ運用術中汽船ニ關スル事項ヲ、又汽船甲種一等運轉士試験科目ハ運用術中帆船裝置ノ帆船ニ關スル事項ヲ甲種一等運轉士試験科目中ヨリ除キタルモノトス

甲種船長試験

甲種一等運轉士試験科目ヲ合セ

一 英語

二 航海術

簡單ナル契約書類及商事通信ヲ了解シ得ル程度

羅針儀矯正

大圈航法ノ大要及大圈圖用法

天測ニ依ル船位ノ測定

恆星又ハ行星近午緯度法、恆星又ハ行星時辰儀經度法、太陰子午線高度緯度法、天體ノ推算高度ト實測高度及眞方位トニ依ル經緯度法

天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定

恆星又ハ行星時辰方位法

世界ニ於ケル主要航路

燃料消費ト速力トノ關係

三 運用術

複原力ト船舶ノ動搖

噸數ノ種別

操舵ト回轉圈

船舶洋上橫附

運轉自由ヲ得サル船舶ノ取扱

短艇演習及防火演習

○船舶職員試験規程